

Ⅲ 調査結果

① 第1回アンケートの結果

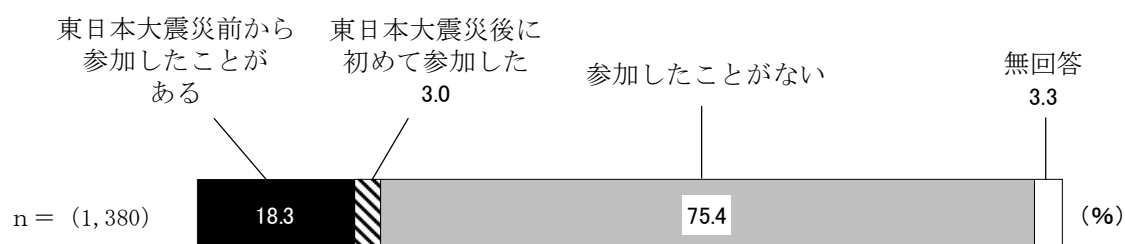
1 市民の防災意識について

1-1 防災訓練への参加状況

◎「参加したことがない」が75.4%

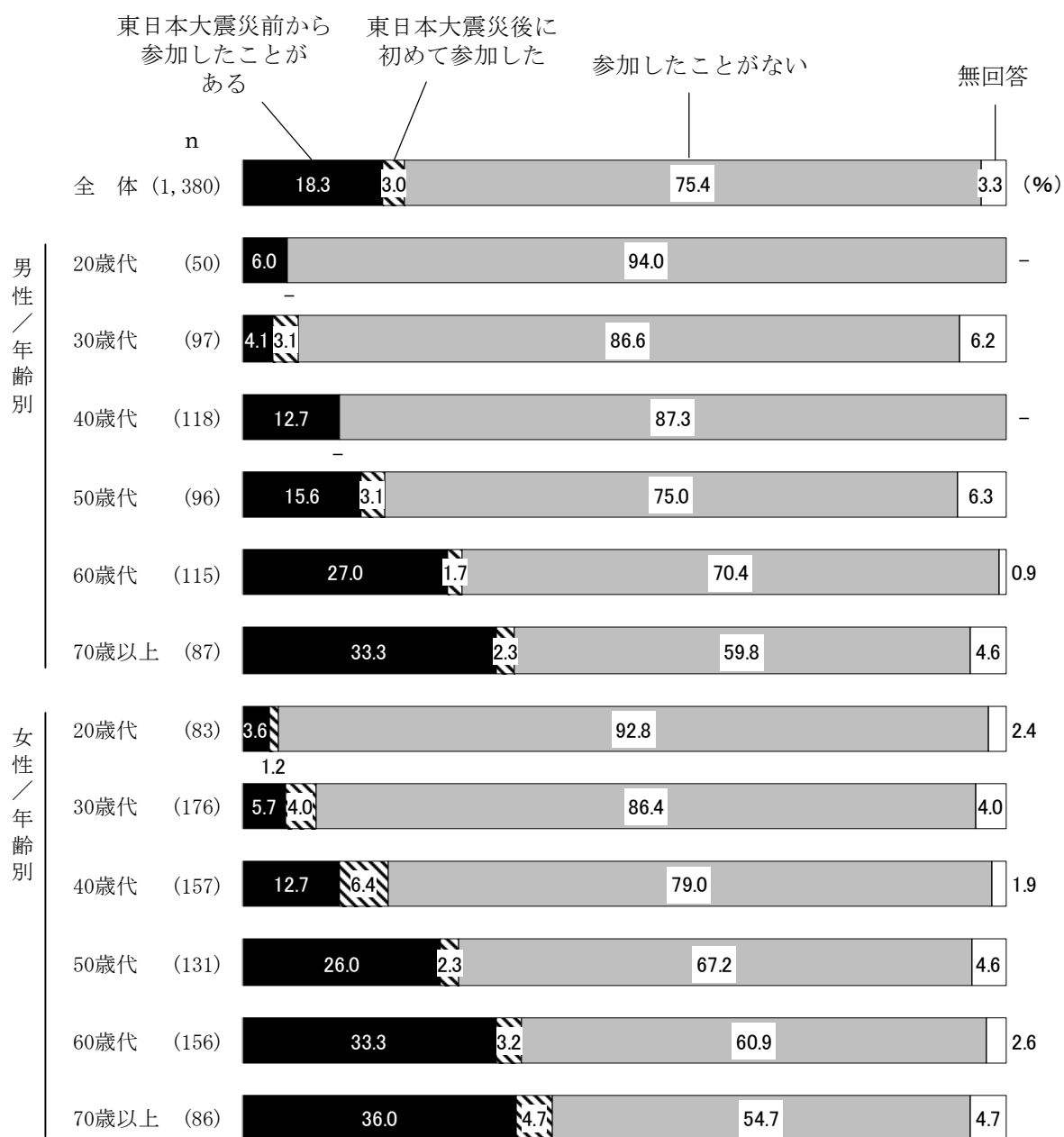
問1 川崎市や、お住いの地域の町内会・自主防災組織等が主催する「防災訓練」に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

図表1-1 防災訓練への参加状況



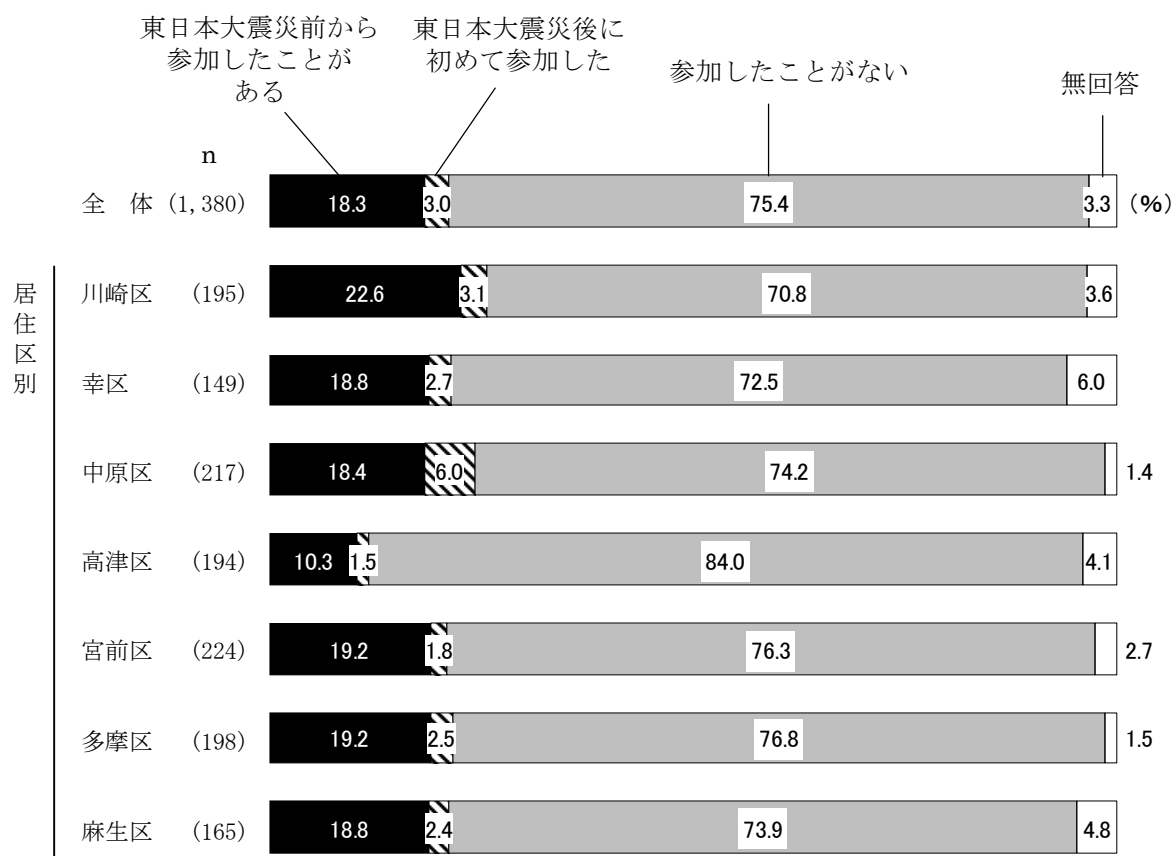
防災訓練への参加状況は、「参加したことがない」(75.4%)が7割台半ばと多くなっている。「東日本大震災前から参加したことがある」は18.3%、「東日本大震災後に初めて参加した」は3.0%となっている。(図表1-1)

図表1-2 防災訓練への参加状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「東日本大震災前から参加したことがある」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「東日本大震災後に初めて参加した」は、女性40歳代(6.4%)が最も多くなっている。(図表1-2)

図表1-3 防災訓練への参加状況（居住区別）



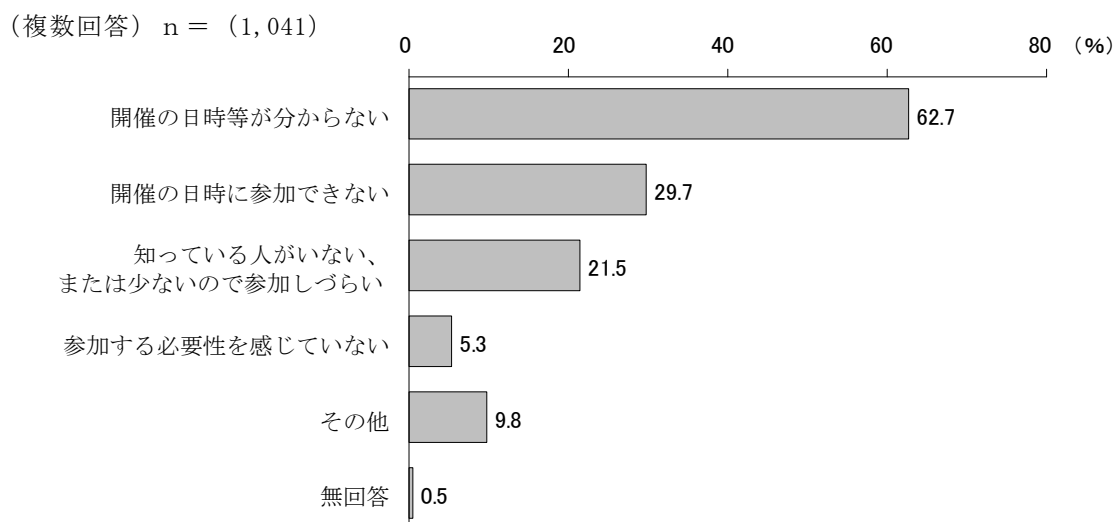
居住区別では、「参加したことがない」は、高津区（84.0%）が唯一8割を超え最も多くなっている。「東日本大震災前から参加したことがある」は、川崎区（22.6%）が唯一2割を超え最も多くなっている。「東日本大震災後に初めて参加した」は、中原区（6.0%）が最も多くなっている。（図表1-3）

1-2 防災訓練に参加しない理由

◎「開催の日時等が分からない」が62.7%

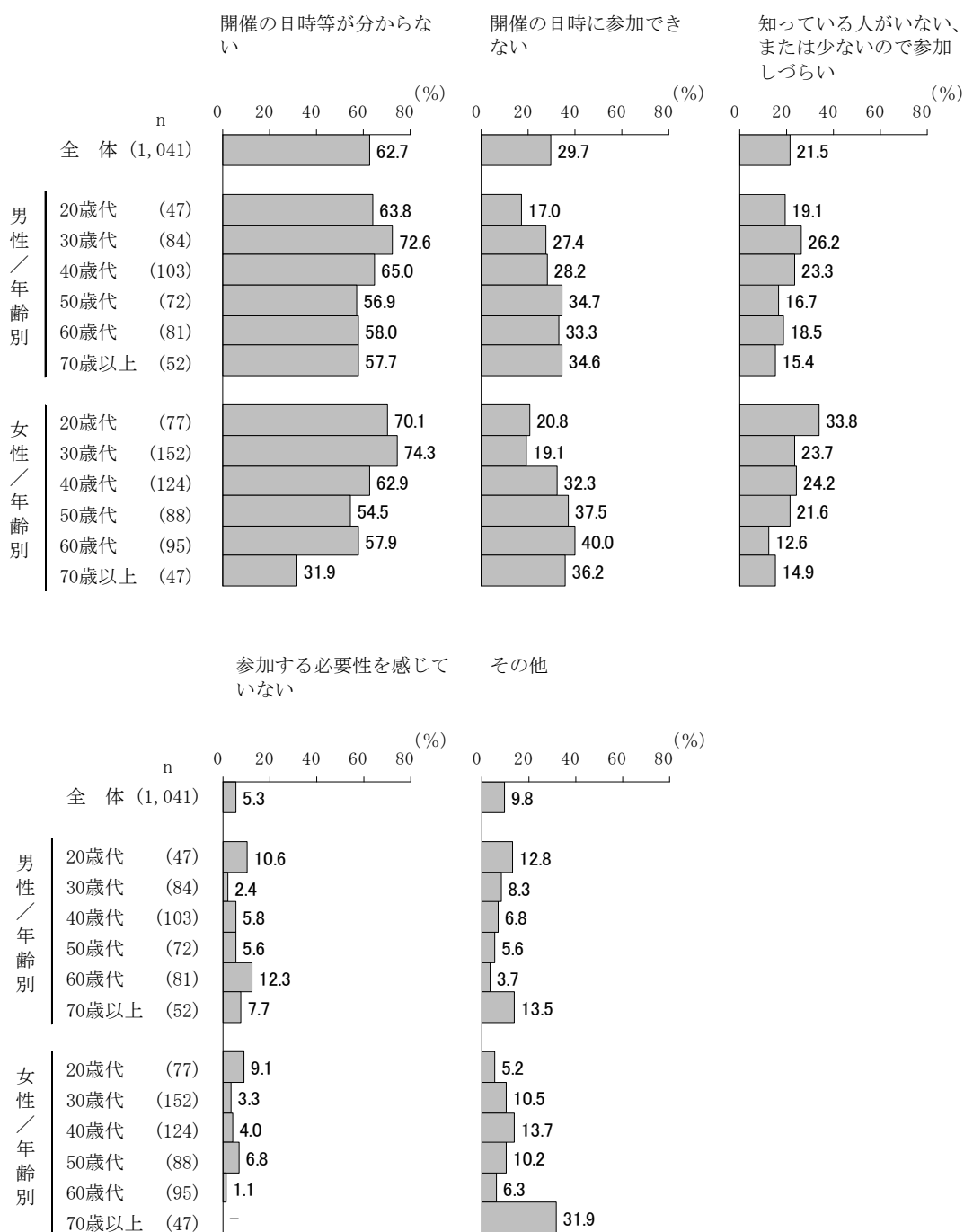
問1-1 (問1で「3 参加したことがない」と回答した方にうかがいます。)
参加しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-4 防災訓練に参加しない理由



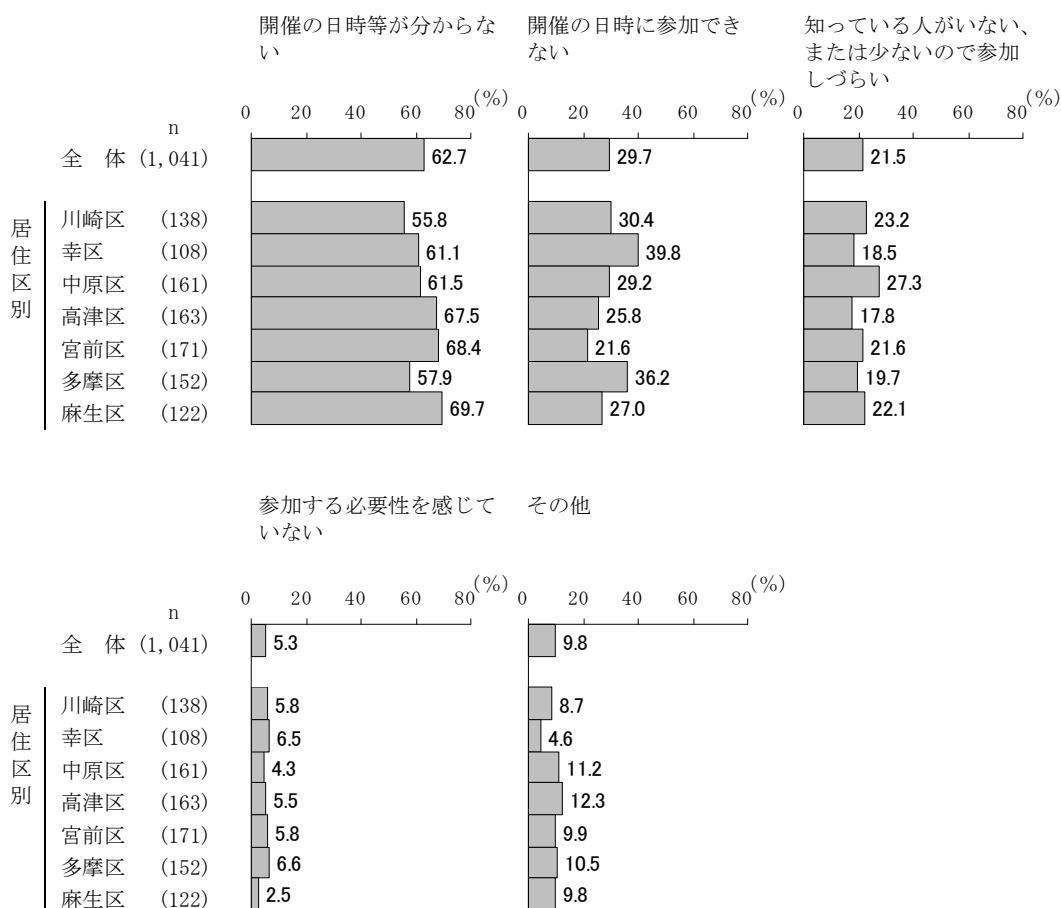
防災訓練に参加しない理由は、「開催の日時等が分からない」(62.7%)が6割を超え最も多くなっている。次いで、「開催の日時に参加できない」(29.7%)、「知っている人がいない、または少ないので参加しづらい」(21.5%)、「参加する必要性を感じていない」(5.3%)の順となっている。(図表1-4)

図表1-5 防災訓練に参加しない理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「開催の日時等が分からない」は、男性30歳代と女性20～30歳代が7割を超え多くなっている。「開催の日時に参加できない」は、男性では50歳代以上の年代で、女性では40歳代以上の年代でともに3割を超え多くなっており、女性60歳代(40.0%)では4割と最も多くなっている。「知っている人がいない、または少ないので参加しづらい」は、女性20歳代(33.8%)が3割を超え最も多くなっている。(図表1-5)

図表1-6 防災訓練に参加しない理由(居住区別)



居住区別では、「開催の日時等が分からない」は、麻生区(69.7%)、宮前区(68.4%)、高津区(67.5%)が6割台後半と多くなっている。「開催の日時に参加できない」は、幸区(39.8%)、多摩区(36.2%)が3割台後半と多くなっている。「知っている人がいない、または少ないので参加しづらい」は、中原区(27.3%)が最も多くなっている。(図表1-6)

1-3 防災に関する家庭内での取組について

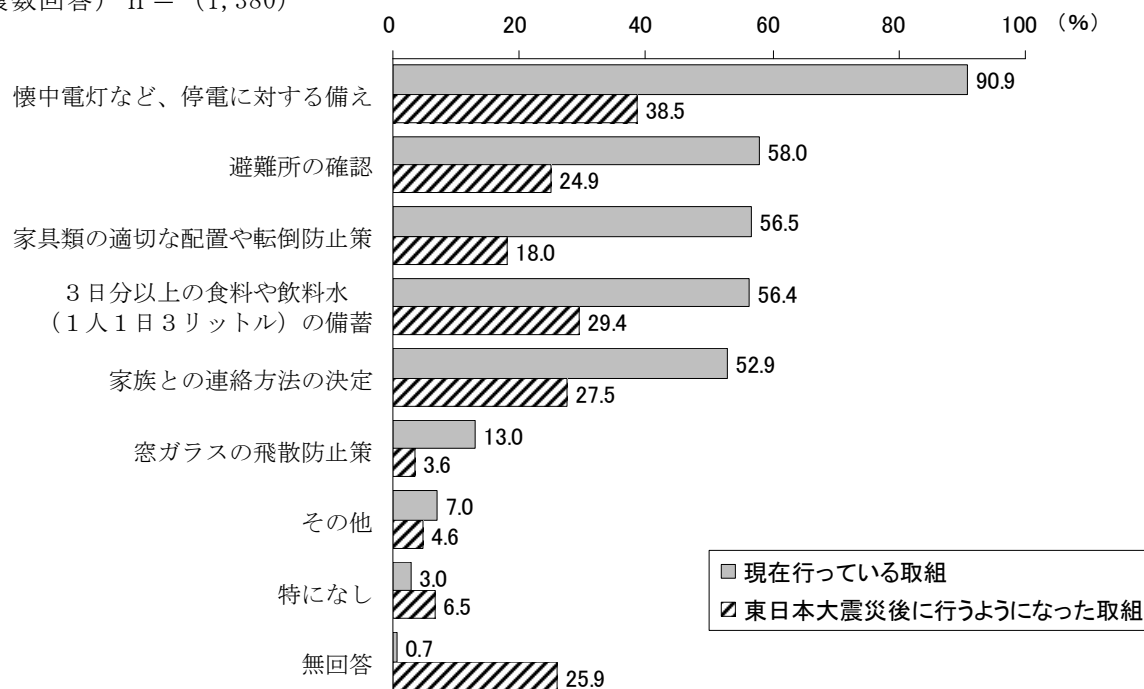
◎現在行っている取組「懐中電灯など、停電に対する備え」が90.9%

問2 防災に関する家庭内での取組についてお聞きします。

- A. 現在、大規模な地震に対応するため、家庭内で次のような取組を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)
- B. Aで○をつけた項目のうち、東日本大震災後に新たに家庭内で行うようになった取組はありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-7 防災に関する家庭内での取組

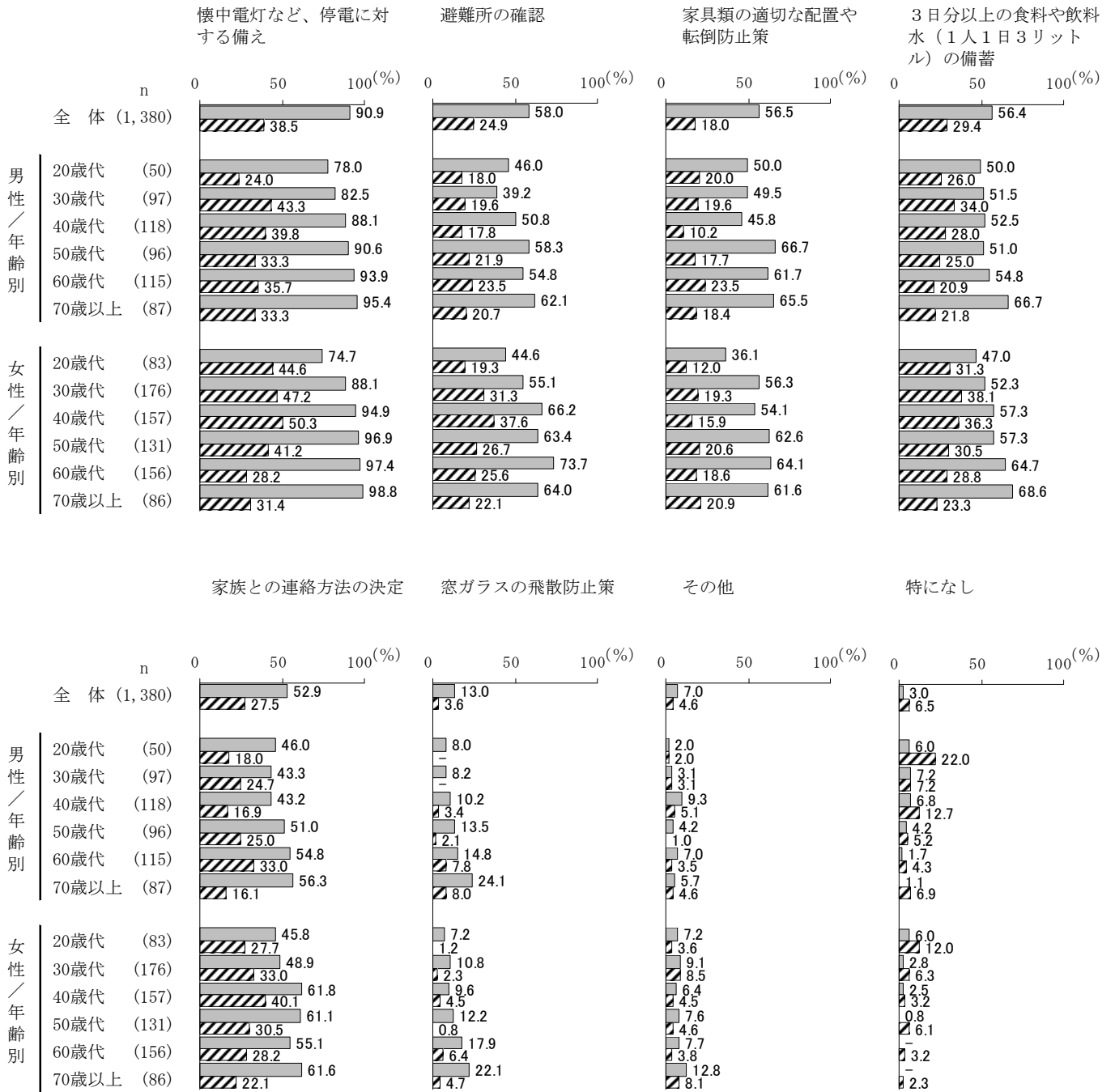
(複数回答) n = (1,380)



防災に関する家庭内での取組について、現在行っているものは、「懐中電灯など、停電に対する備え」(90.9%)がほぼ9割と最も多くなっている。次いで、「避難所の確認」(58.0%)、「家具類の適切な配置や転倒防止策」(56.5%)、「3日以上の食料や飲料水(1人1日3リットル)の備蓄」(56.4%)、「家族との連絡方法の決定」(52.9%)が5割台で続いている。

東日本大震災後に行うようになったものは、「懐中電灯など、停電に対する備え」(38.5%)が最も多く、次いで「3日以上の食料や飲料水(1人1日3リットル)の備蓄」(29.4%)、「家族との連絡方法の決定」(27.5%)、「避難所の確認」(24.9%)の順となっている。(図表1-7)

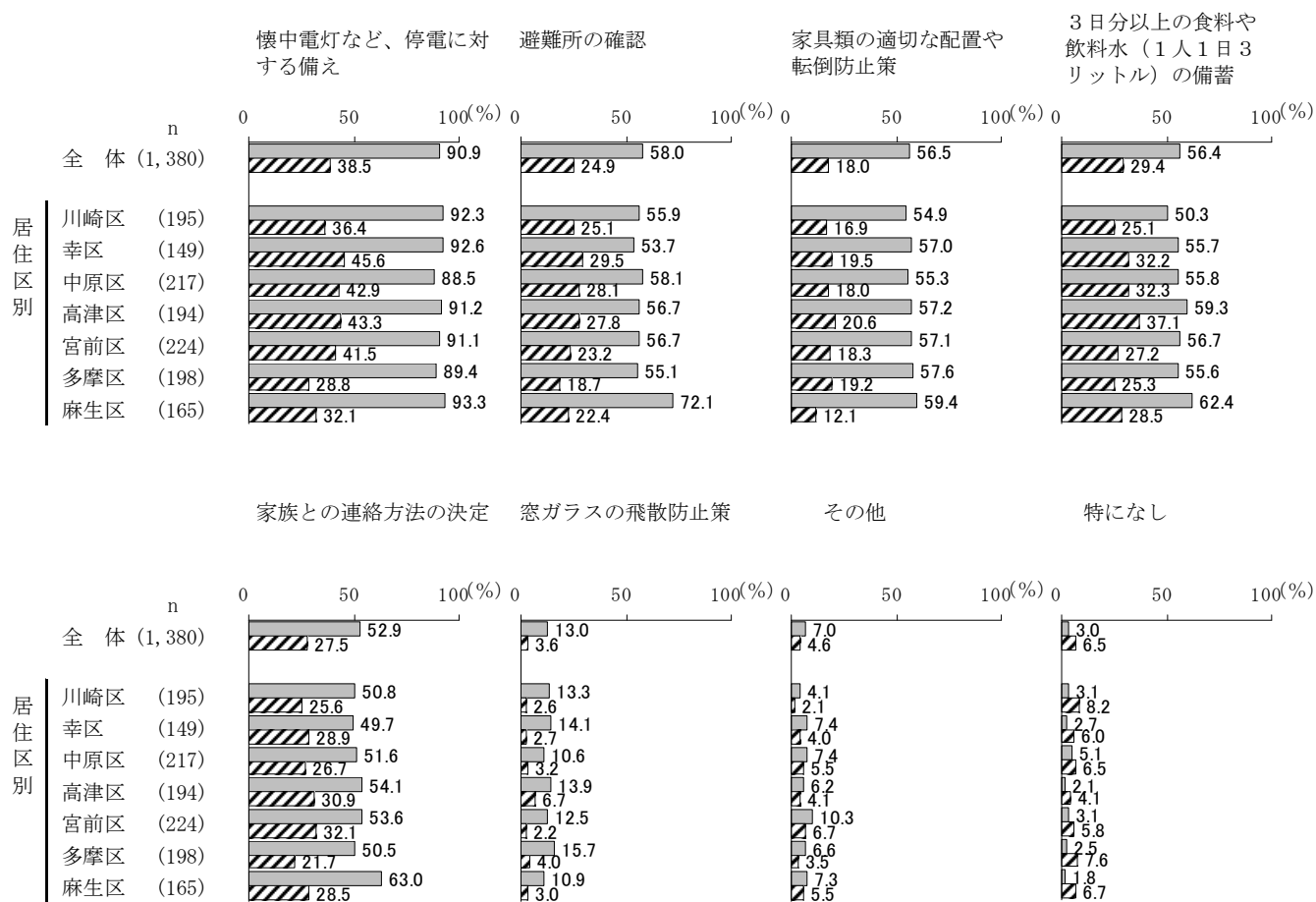
図表1-8 防災に関する家庭内での取組（性／年齢別）



性／年齢別では、現在行っているものは、「懐中電灯など、停電に対する備え」は年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「避難所の確認」は、男性30歳代が39.2%と最も少なく、男性20歳代（46.0%）、女性20歳代（44.6%）も4割台と少なくなっている。「家具類の適切な配置や転倒防止策」は、女性20歳代が36.1%と最も少なくなっている。

東日本大震災後に行うようになったものは、「懐中電灯など、停電に対する備え」は男性20歳代（24.0%）が最も少なくなっている。「3日以上の食料や飲料水（1人1日3リットル）の備蓄」は、男女ともに30歳代が最も多くなっている。「家族との連絡方法の決定」は、女性40歳代（40.1%）が最も多くなっている。（図表1-8）

図表1-9 防災に関する家庭内での取組 (居住区別)



居住区別では、現在行っているものは、「避難所の確認」は麻生区 (72.1%) が唯一7割を超え最も多くなっている。

東日本大震災後に行うようになったものは、「懐中電灯など、停電に対する備え」は多摩区 (28.8%) が最も少なくなっている。「3日以上の食料や飲料水 (1人1日3リットル) の備蓄」は、高津区 (37.1%) が最も多くなっている。「家族との連絡方法の決定」は、多摩区 (21.7%) が最も少なくなっている。(図表1-9)

1-4 市内の災害に関する緊急情報の入手手段

◎実際に情報を入手したことがある手段「緊急速報メール」が30.8%

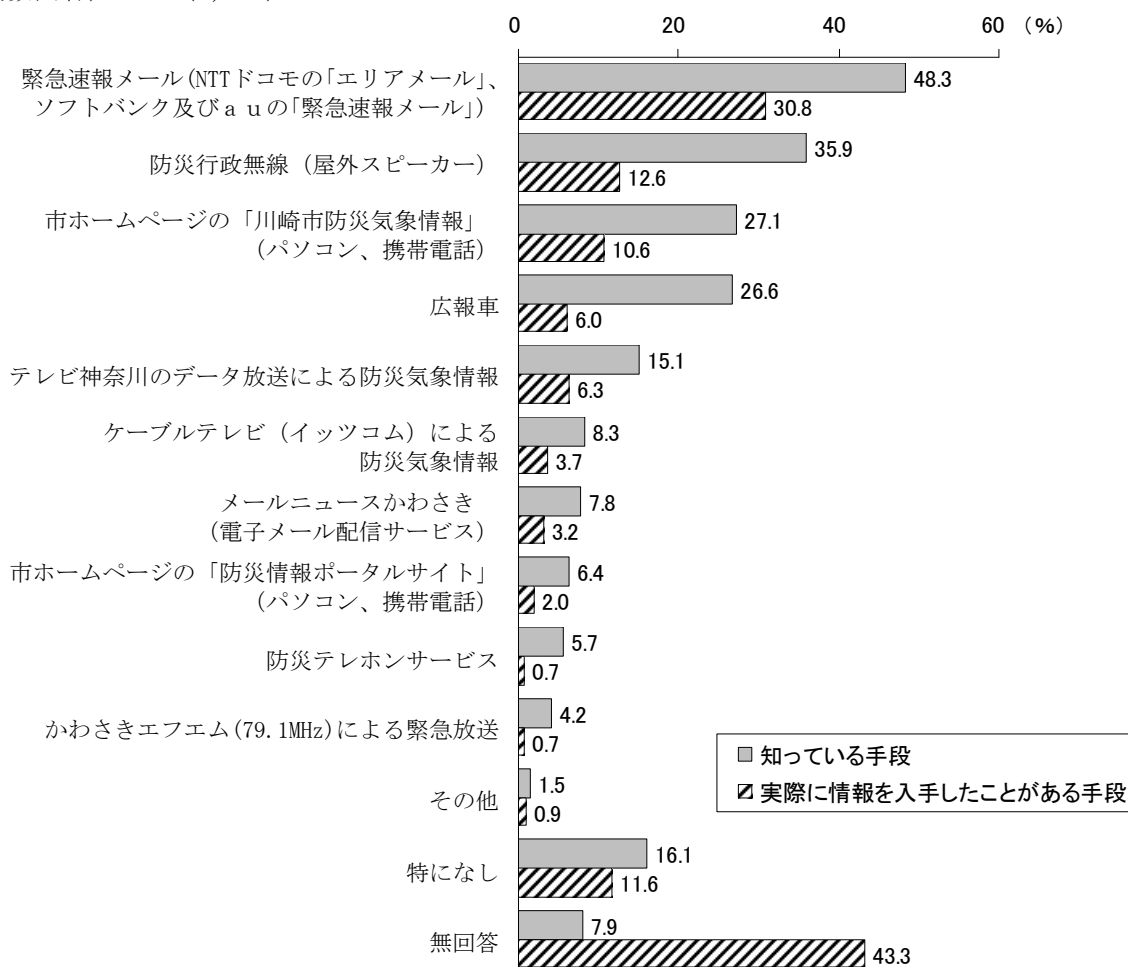
問3 本市では、市内の災害に関する緊急情報を様々な手段を用いて配信しています。

A. 次の手段で配信していることをご存知ですか。(あてはまるものすべてに○)

B. 実際にどの手段で情報を入手したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-10 市内の災害に関する緊急情報の入手手段

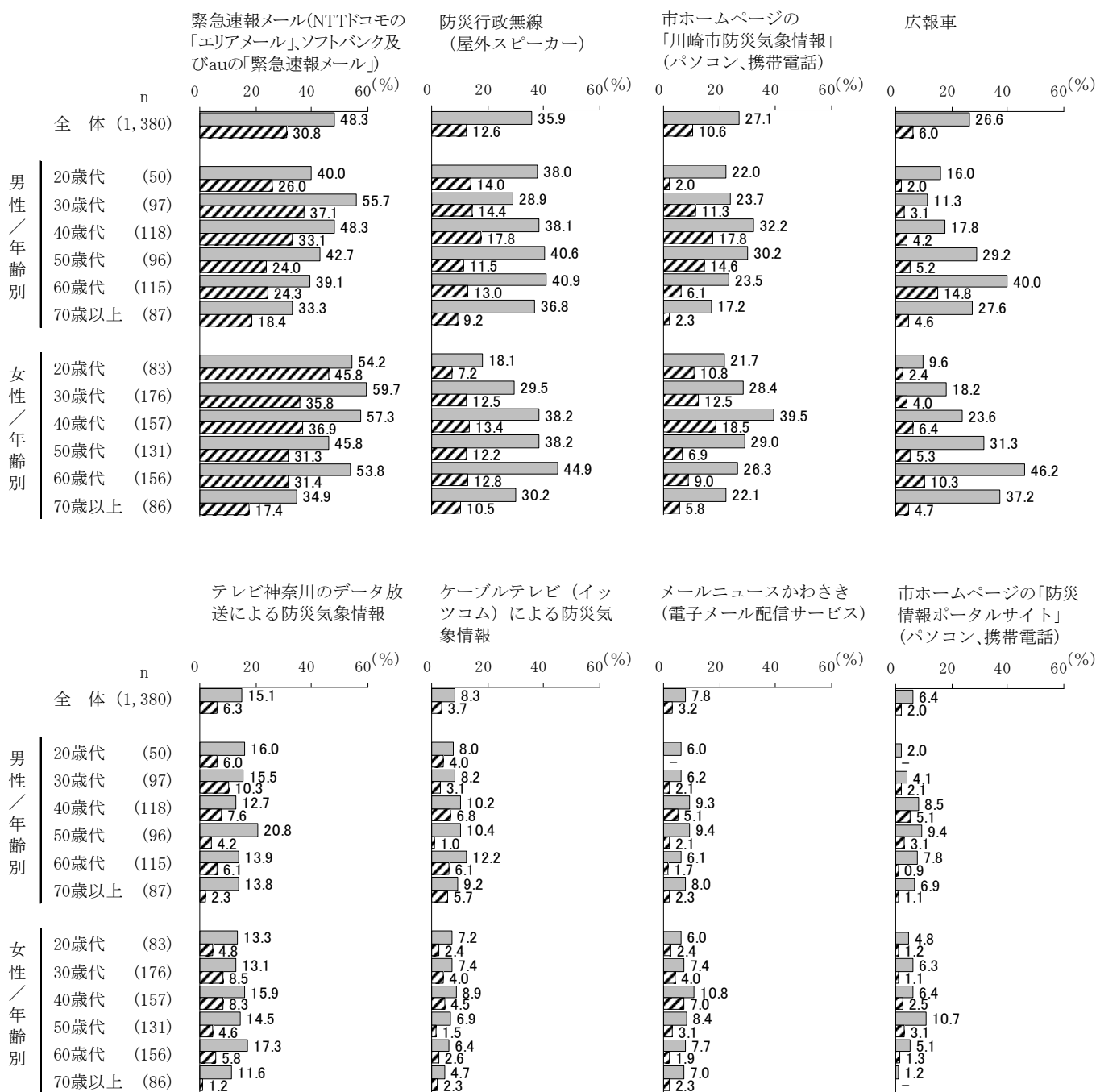
(複数回答) n = (1,380)



市内の災害に関する緊急情報の入手手段で、知っている手段については、「緊急速報メール(NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」が48.3%と最も多くなっている。次いで、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(35.9%)、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」(27.1%)の順となっている。

実際に情報を入手したことがある手段についても、「緊急速報メール(NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」(30.8%)が最も多く、次いで「防災行政無線(屋外スピーカー)」(12.6%)、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」(10.6%)の順となっている。(図表1-10)

図表1-11 市内の災害に関する緊急情報の入手手段(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、知っている手段については、「緊急速報メール(NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」は男女ともに30歳代が最も多くなっている。

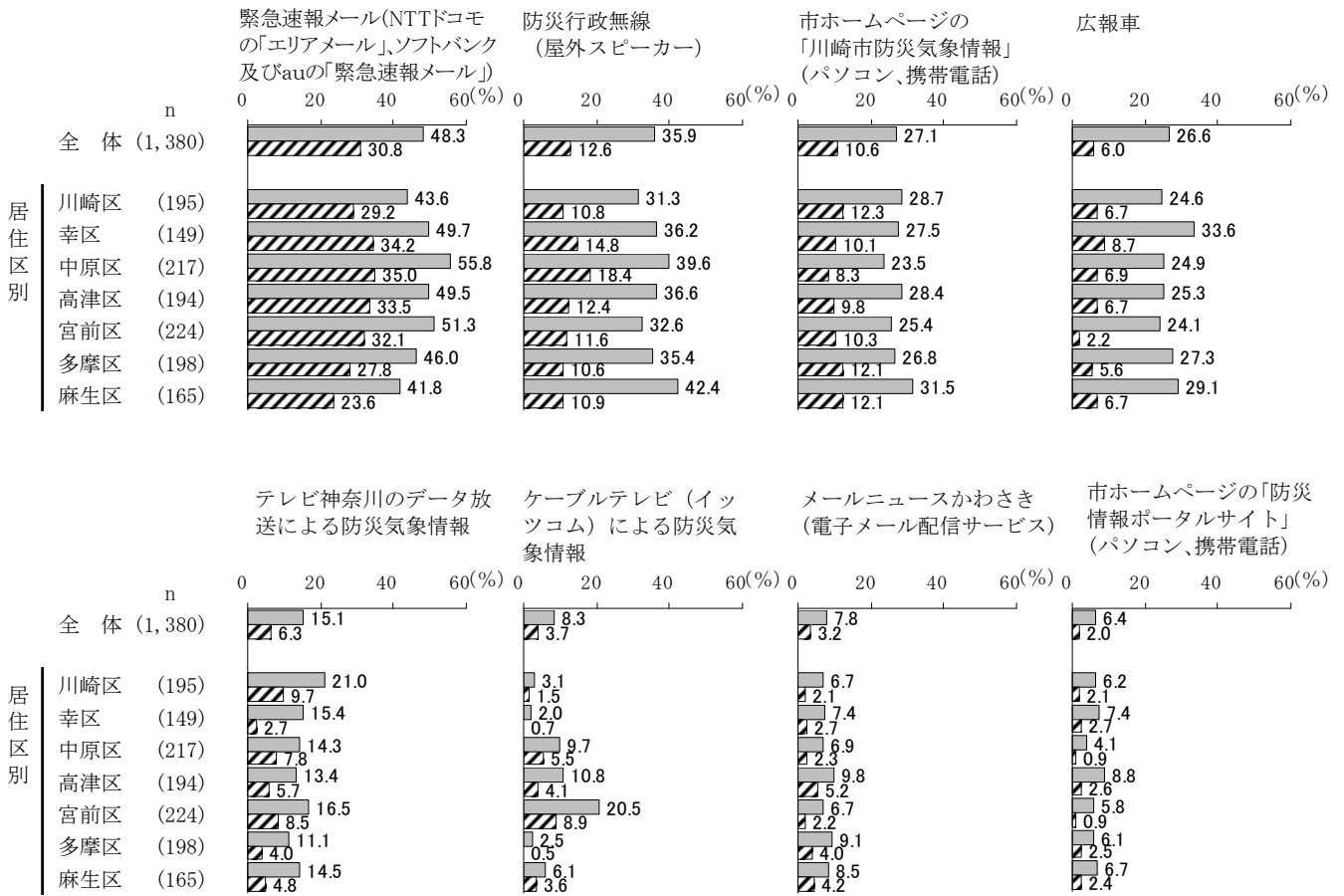
「防災行政無線(屋外スピーカー)」は、女性20歳代(18.1%)が最も少なくなっている。「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」は、女性40歳代(39.5%)が最も多くなっている。

実際に情報を入手したことがある手段については、「緊急速報メール」は女性20歳代(45.8%)が4割台半ばと最も多くなっている一方、男性20歳代(26.0%)は2割台半ばにとどまっている。

「市ホームページの「川崎市防災気象情報」」は、男女ともに40歳代が最も多くなっている。(図表1-11)

(第1回アンケート)

図表1-12 市内の災害に関する緊急情報の入手手段（居住区別、上位8項目）



居住区別では、知っている手段については、「緊急速報メール(NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」は中原区(55.8%)が最も多く、麻生区(41.8%)が最も少なくなっている。「防災行政無線(屋外スピーカー)」「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」は、麻生区が最も多くなっている。

実際に情報を入手したことがある手段については、「緊急速報メール(NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」は麻生区(23.6%)が最も少なくなっている。「防災行政無線(屋外スピーカー)」は、中原区(18.4%)が最も多くなっている。(図表1-12)

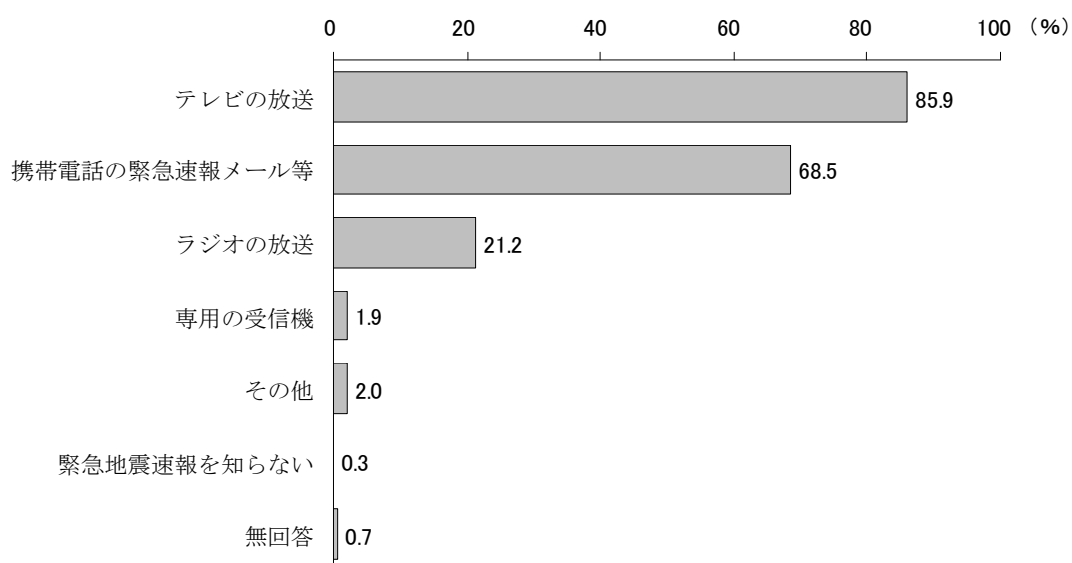
1-5 緊急地震速報の入手手段

◎「テレビの放送」が85.9%

問4 緊急地震速報は、地震発生直後に震源や地震の規模を推定し、各地での地震の到達時間や震度を予測し、お知らせするものです。緊急地震速報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

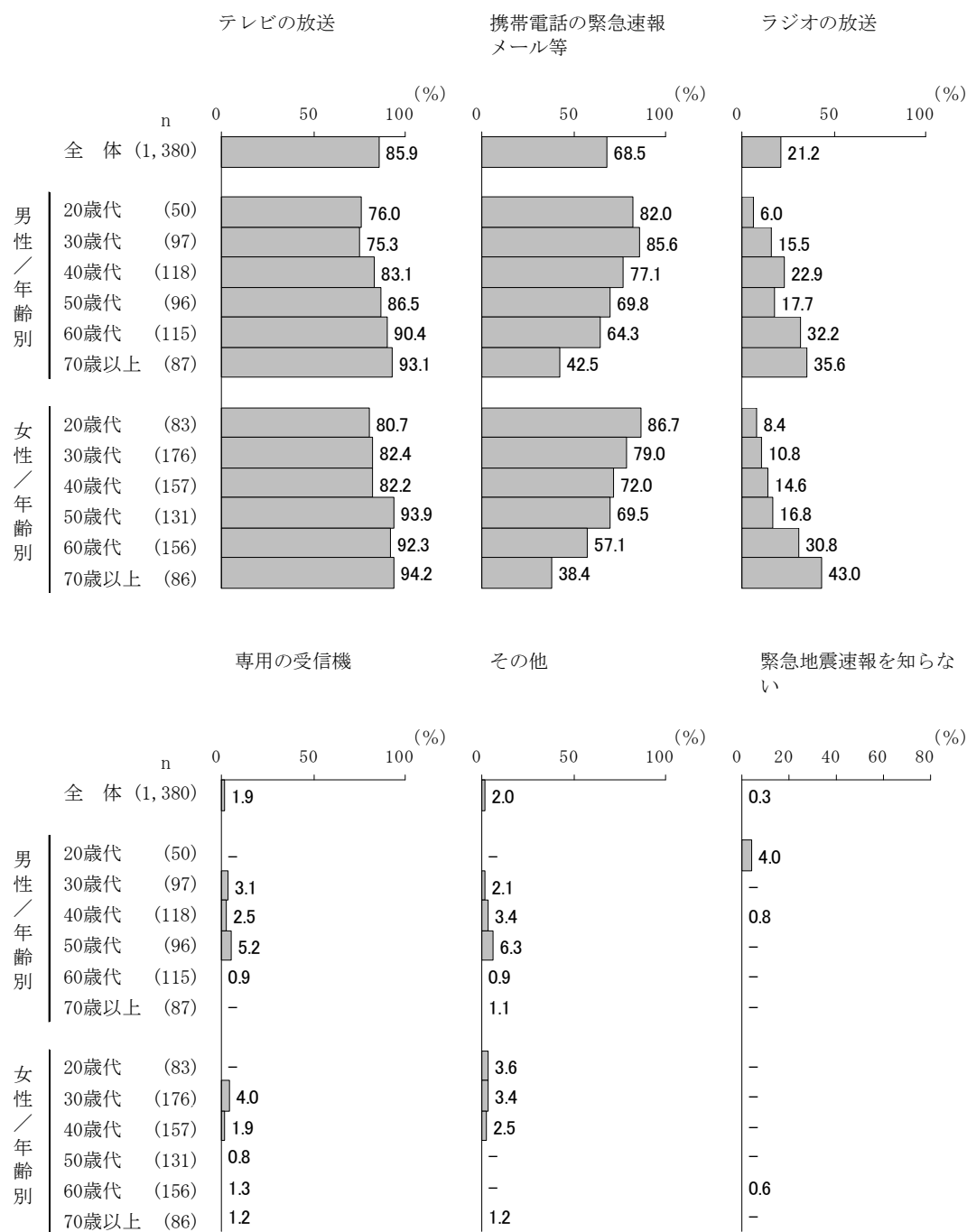
図表 1-13 緊急地震速報の入手手段

(複数回答) n = (1,380)



緊急地震速報の入手手段は、「テレビの放送」(85.9%)が8割台半ばと最も多く、次いで「携帯電話の緊急速報メール等」(68.5%)が6割台後半、「ラジオの放送」(21.2%)がほぼ2割となっている。(図表1-13)

図表1-14 緊急地震速報の入手手段(性/年齢別)



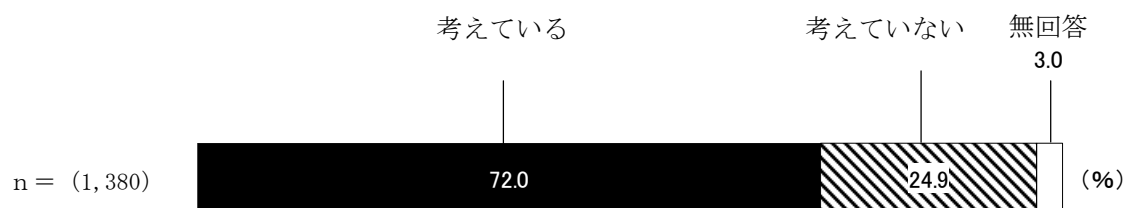
性/年齢別では、「テレビの放送」「ラジオの放送」は、おおむね年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。一方、「携帯電話の緊急速報メール等」は、おおむね年齢が上がるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表1-14)

1-6 緊急地震速報が出たときの行動を考えているか

◎「考えている」が72.0%

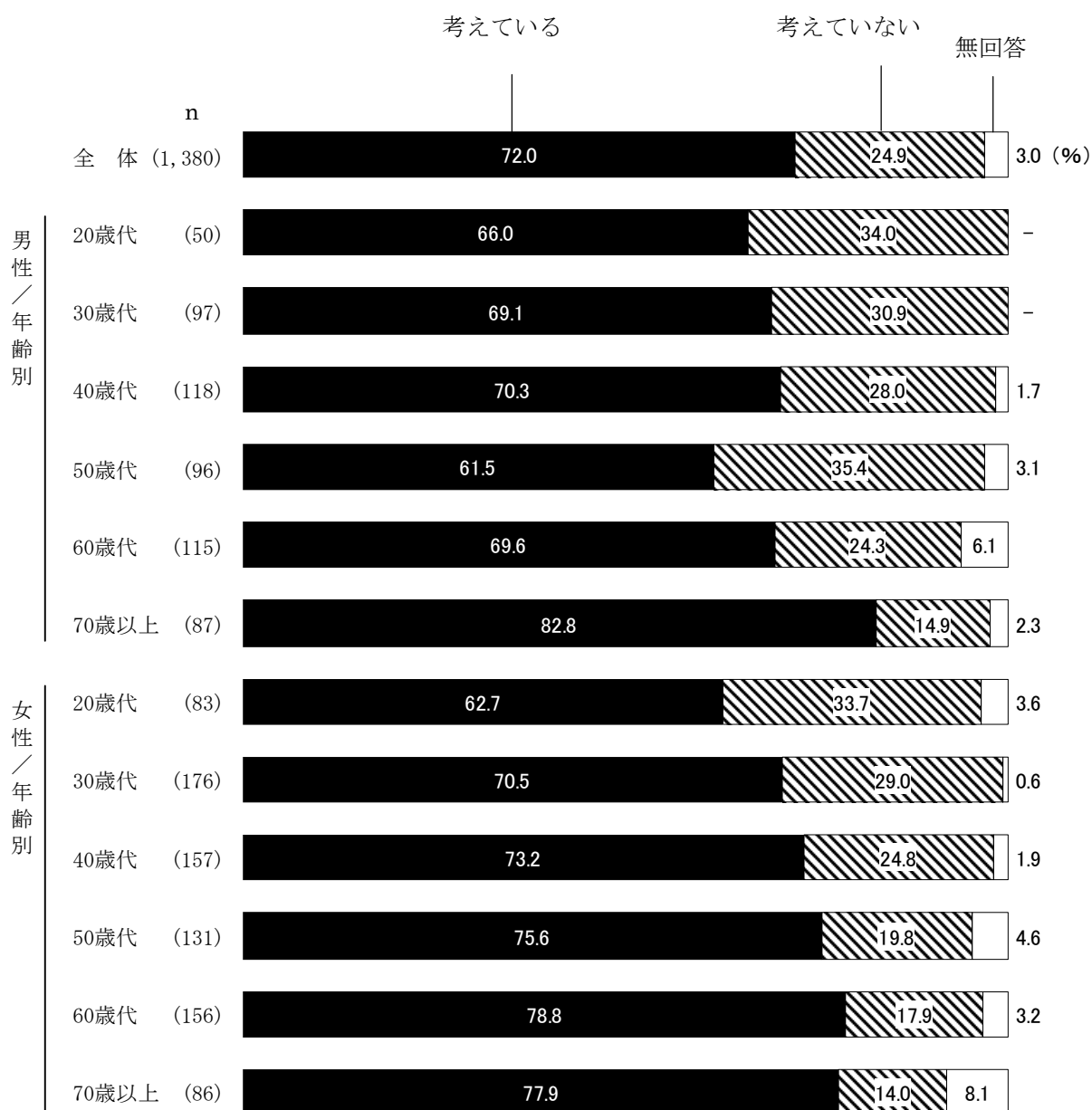
問5 緊急地震速報が出たときの行動を考えていますか。(○は1つだけ)
また、そのときの行動／考えていない理由について()内にご記入ください。

図表1-15 緊急地震速報が出たときの行動を考えているか



緊急地震速報が出たときの行動を考えているかについては、「考えている」が72.0%、「考えていない」が24.9%となっている。また、「考えている」と答えた人にそのときの行動についてたずねたところ、“安全な場所に移動”“火を消す”“ドア・窓を開ける”などの回答があった。(図表1-15)

図表1-16 緊急地震速報が出たときの行動を考えているか(性/年齢別)



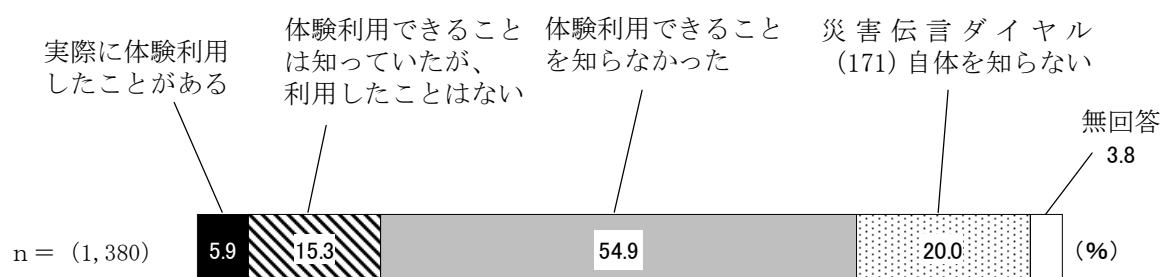
性/年齢別では、「考えている」は、男性では70歳以上(82.8%)が最も多く、50歳代(61.5%)が最も少なくなっている。女性では、おおむね年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっている。(図表1-16)

1-7 「災害用伝言ダイヤル (171)」体験利用の認知度

◎「体験利用できることを知らなかった」が54.9%

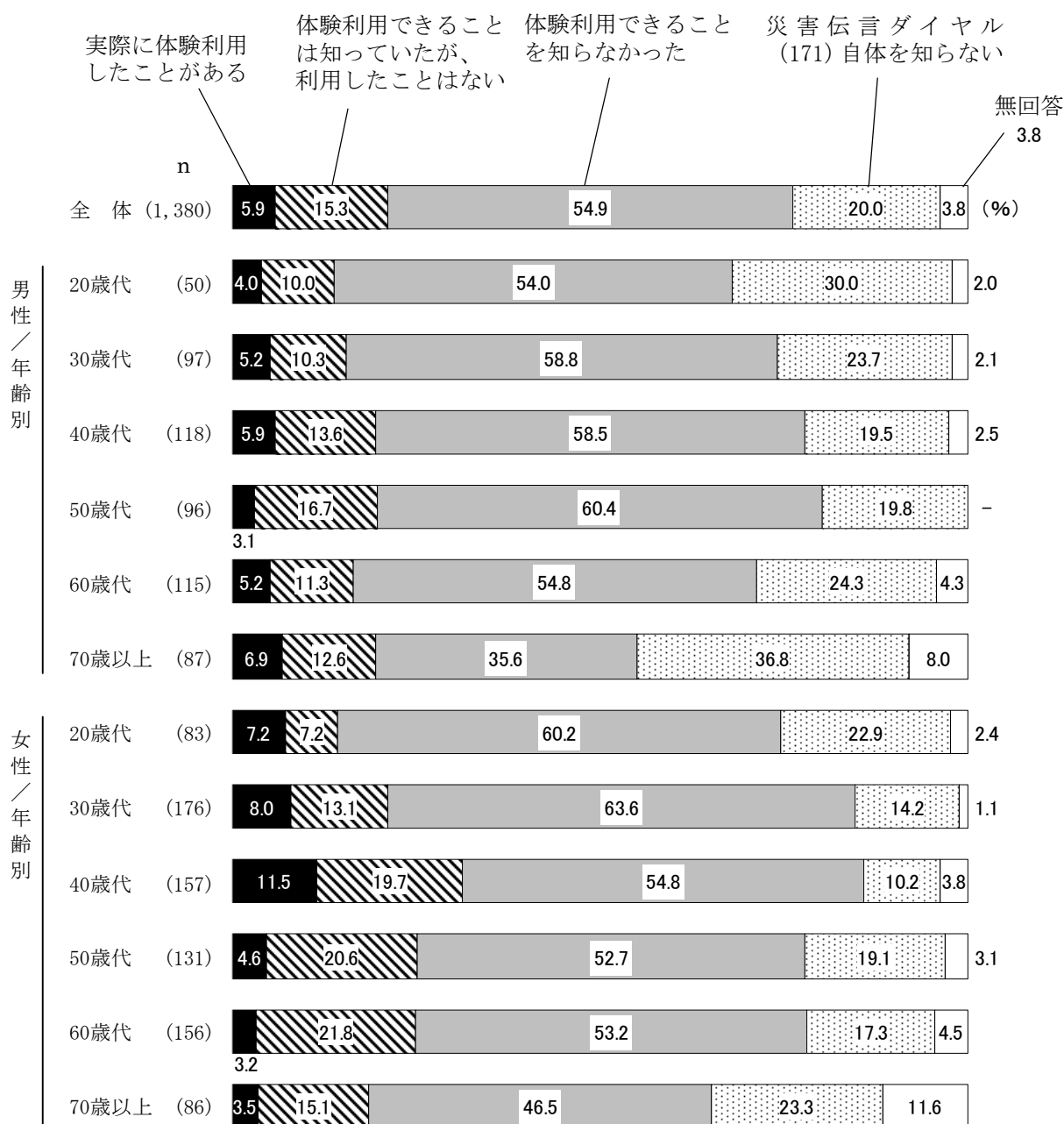
問6 「災害用伝言ダイヤル (171)」は、災害発生に備えて利用方法を知っていただくために、毎月1日と15日や防災週間などに、体験利用できるようになっています。あなたは、このことを知っていましたか。(○は1つだけ)

図表1-17 「災害用伝言ダイヤル (171)」体験利用の認知度



「災害用伝言ダイヤル (171)」体験利用の認知度は、「体験利用できることを知らなかった」(54.9%)が5割台半ば、「災害伝言ダイヤル (171) 自体を知らない」(20.0%)が2割となっている。一方、「体験利用できることは知っていたが、利用したことはない」は15.3%、「実際に体験利用したことがある」は5.9%となっている。(図表1-17)

図表1-18 「災害用伝言ダイヤル(171)」体験利用の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、「実際に体験利用したことがある」は、女性40歳代が11.5%と唯一1割を超えている。「災害伝言ダイヤル(171)自体を知らない」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。(図表1-18)

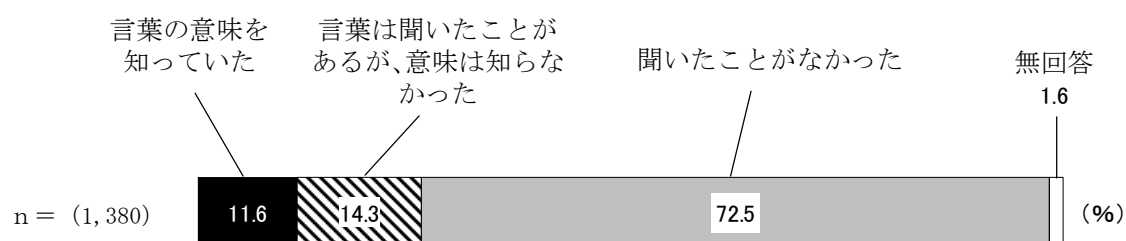
2 川崎らしいスマートシティについて

2-1 「スマートシティ」の認知度

◎「聞いたことがなかった」が72.5%

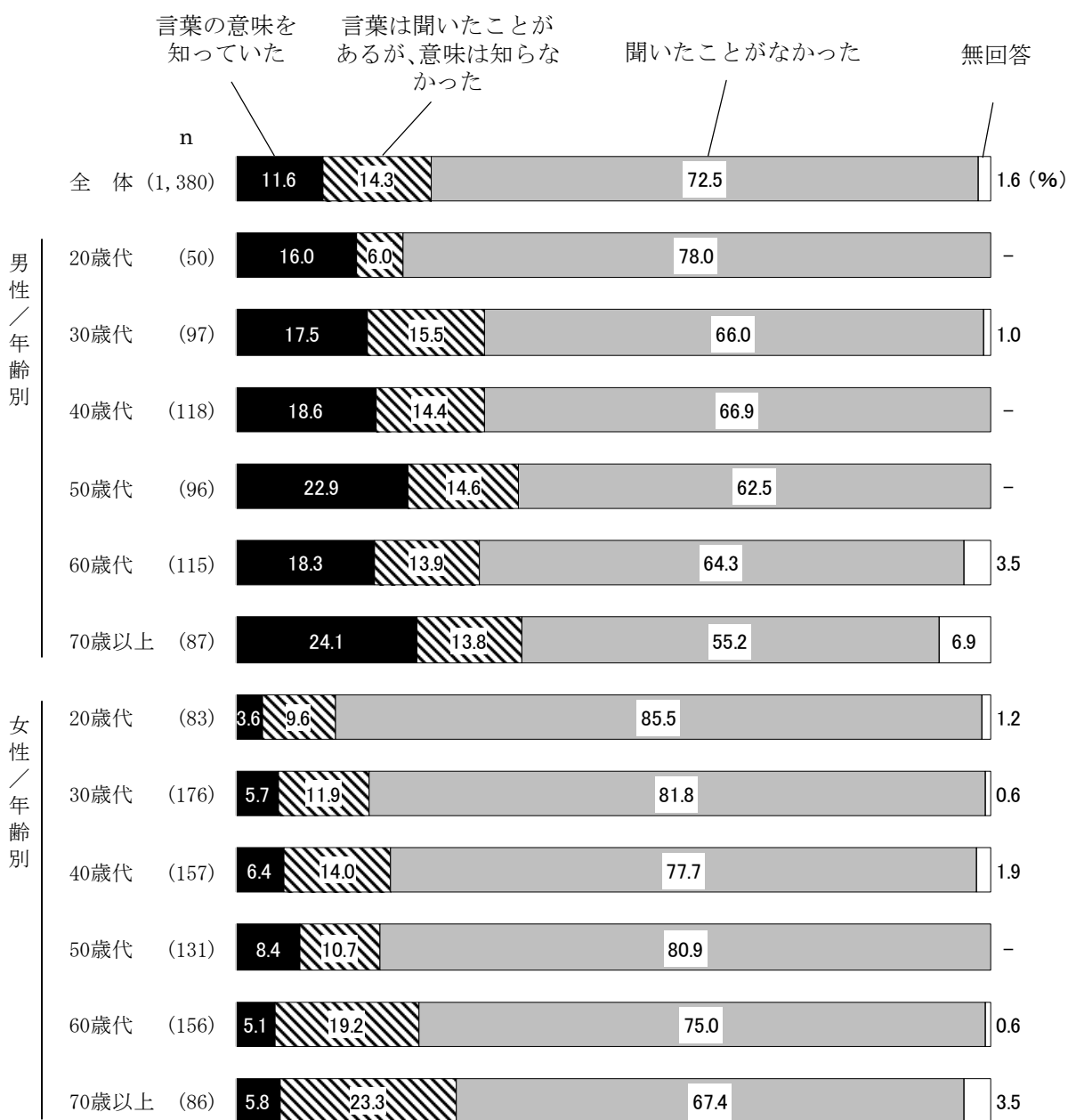
問7 「スマートシティ」という言葉について、知っていましたか。(○は1つだけ)

図表2-1 「スマートシティ」の認知度



「スマートシティ」の認知度は、「聞いたことがなかった」が72.5%と7割を超えている。一方、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」は14.3%、「言葉の意味を知っていた」は11.6%となっている。(図表2-1)

図表2-2 「スマートシティ」の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、「言葉の意味を知っていた」は、各年代ともに女性より男性の方が多くっており、男性の50歳代(22.9%)・70歳以上(24.1%)では2割を超えている。(図表2-2)

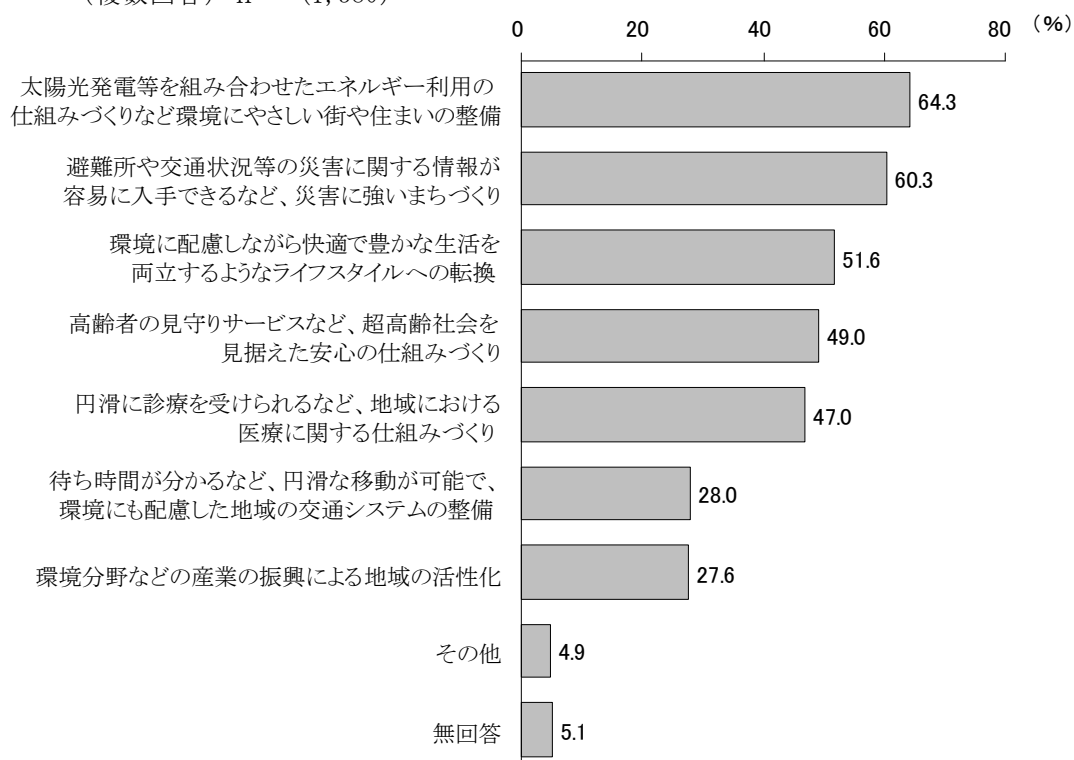
2-2 川崎らしいスマートシティについて重要と考えるもの

◎「太陽光発電等を組み合わせたエネルギー利用の仕組みづくりなど環境にやさしい街や住まいの整備」が64.3%

問8 川崎らしいスマートシティについて重要と考えるものはどのようなものでしょうか。
(あてはまるものすべてに○)

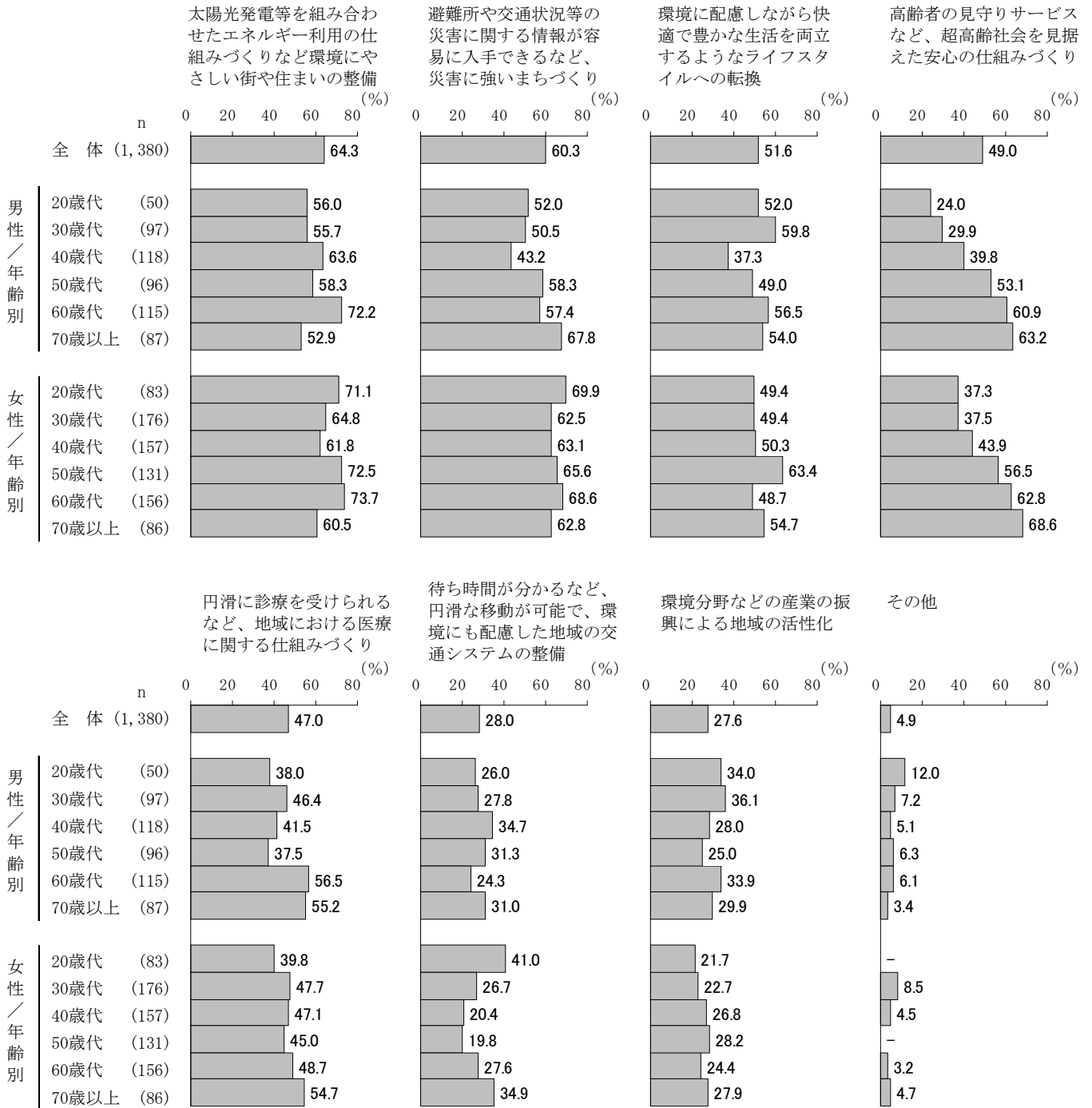
図表2-3 川崎らしいスマートシティについて重要と考えるもの

(複数回答) n = (1,380)



川崎らしいスマートシティについて重要と考えるものについては、「太陽光発電等を組み合わせたエネルギー利用の仕組みづくりなど環境にやさしい街や住まいの整備」(64.3%)が最も多くなっている。次いで、「避難所や交通状況等の災害に関する情報が容易に入手できるなど、災害に強いまちづくり」(60.3%)、「環境に配慮しながら快適で豊かな生活を両立するようなライフスタイルへの転換」(51.6%)の順となっている。(図表2-3)

図表2-4 川崎らしいスマートシティについて重要と考えるもの(性/年齢別)



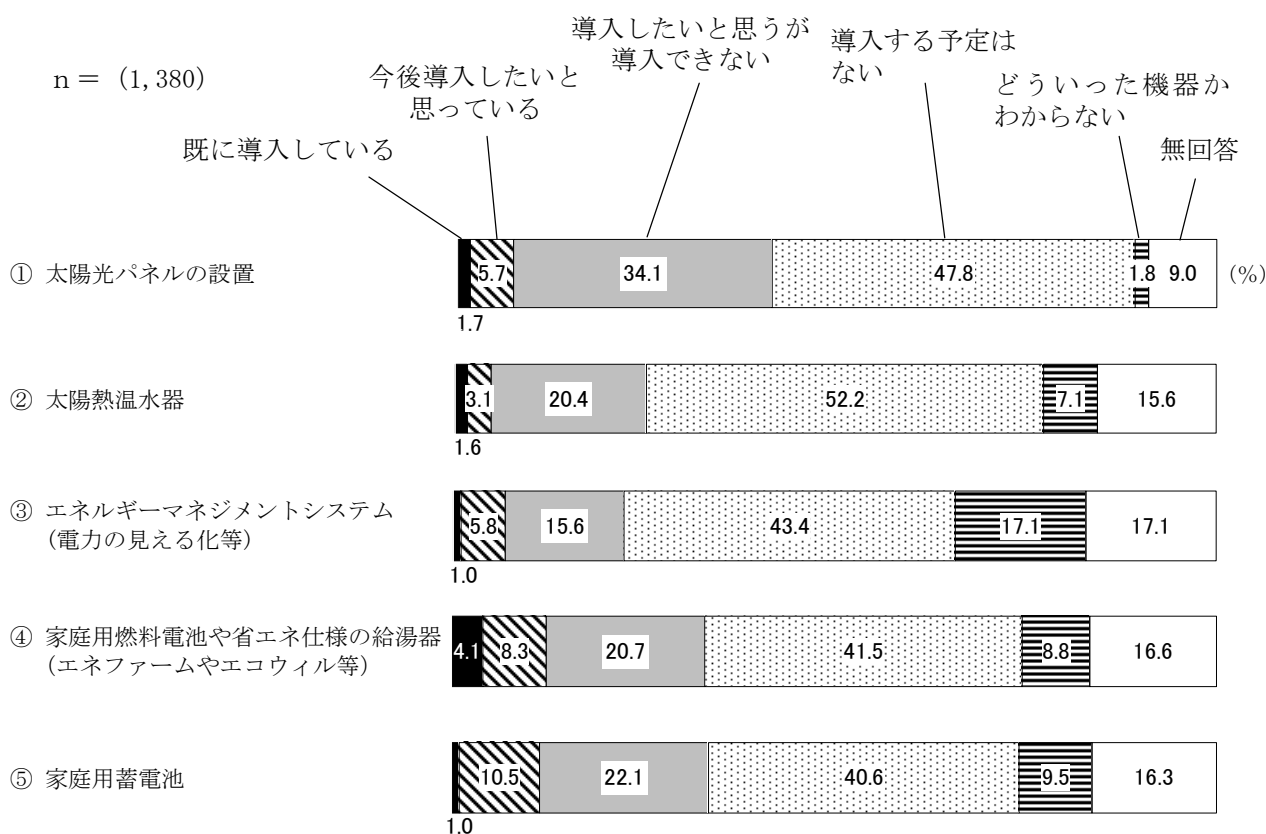
性/年齢別では、「太陽光発電等を組み合わせたエネルギー利用の仕組みづくりなど環境にやさしい街や住まいの整備」は、男性では60歳代(72.2%)、女性では20歳代(71.1%)、50歳代(72.5%)、60歳代(73.7%)が7割を超え多くなっている。「避難所や交通状況等の災害に関する情報が容易に入手できるなど、災害に強いまちづくり」は、男性では70歳以上(67.8%)、女性では20歳代(69.9%)が最も多くなっている。「環境に配慮しながら快適で豊かな生活を両立するようなライフスタイルへの転換」は、男性では30歳代(59.8%)、女性では50歳代(63.4%)が最も多くなっている。(図表2-4)

2-3 省エネ機器等の導入状況・導入意向

◎太陽光パネルの設置「導入したいと思うが導入できない」が34.1%

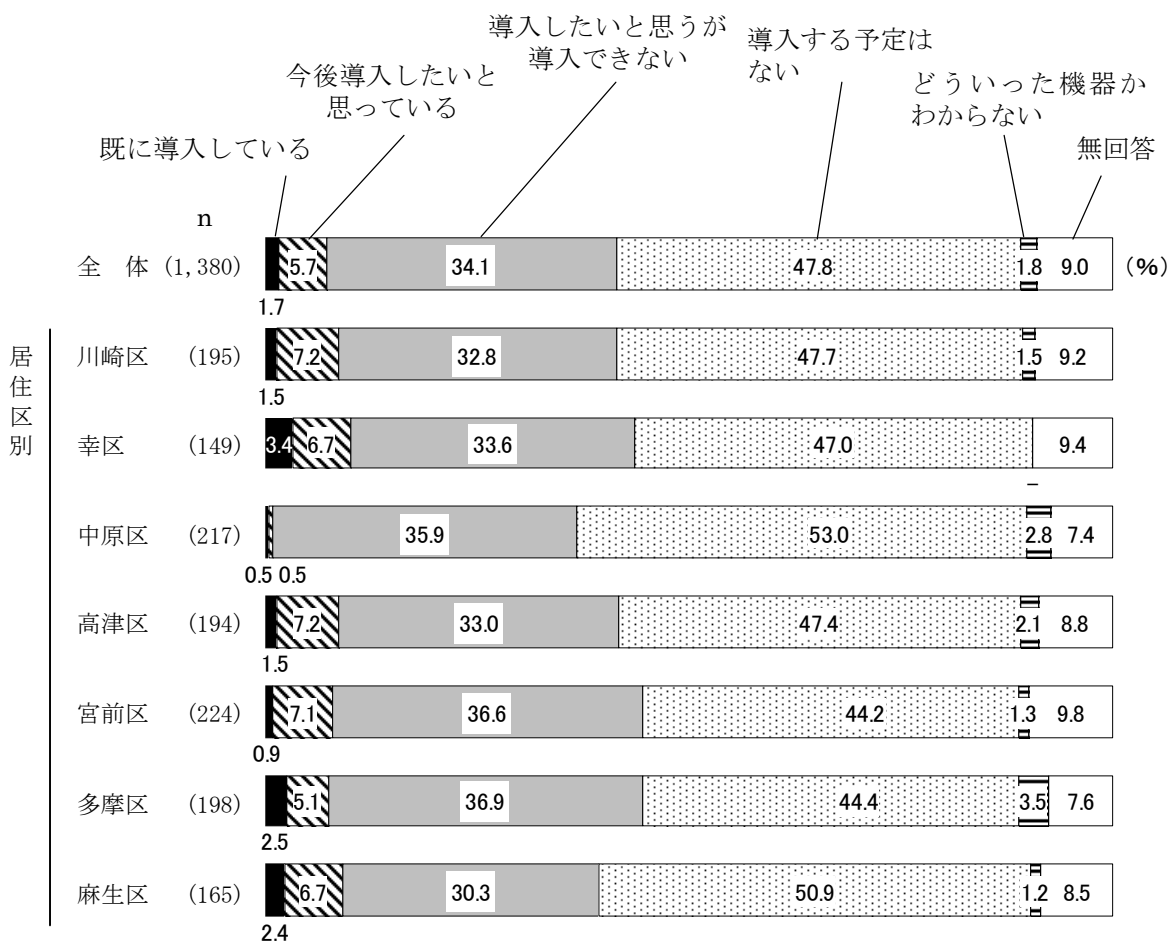
問9 次の機器について、既に導入しているものはありますか。また、今後導入したいと思いますか。
①～⑤のそれぞれについて、1～5のあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

図表2-5 省エネ機器等の導入状況・導入意向



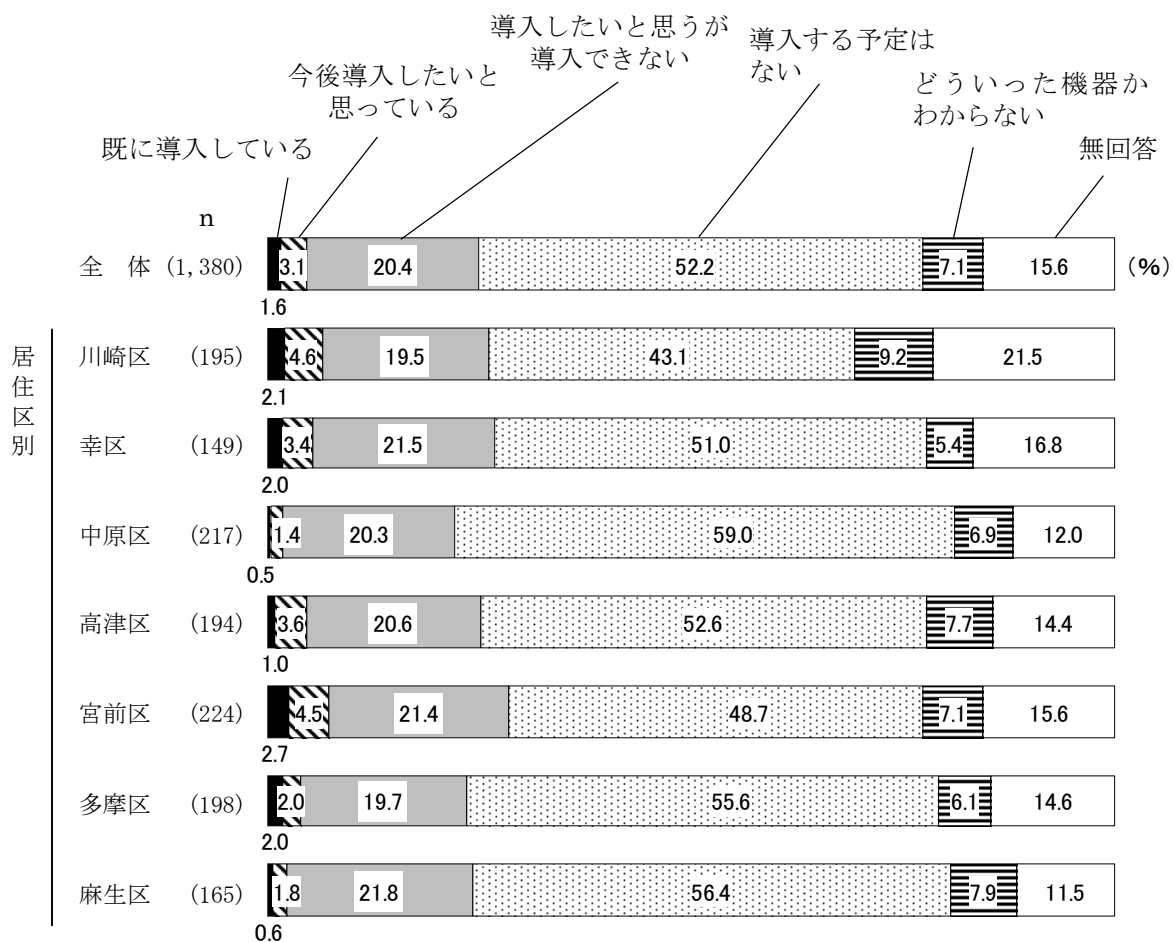
省エネ機器等の導入状況・導入意向について、「既に導入している」は、『家庭用燃料電池や省エネ仕様の給湯器 (エネファームやエコウィル等)』が4.1%で、5つの省エネ機器等の中では最も多くなっている。「今後導入したいと思っている」は、『家庭用蓄電池』が10.5%で最も多くなっている。「導入したいと思うが導入できない」は、『太陽光パネルの設置』が34.1%で最も多くなっている。「導入する予定はない」は、『太陽熱温水器』が52.2%で最も多くなっている。「こういった機器かわからない」は、『エネルギーマネジメントシステム (電力の見える化等)』が17.1%で最も多くなっている。(図表2-5)

図表2-6 省エネ機器等の導入状況・導入意向【①太陽光パネルの設置】(居住区別)



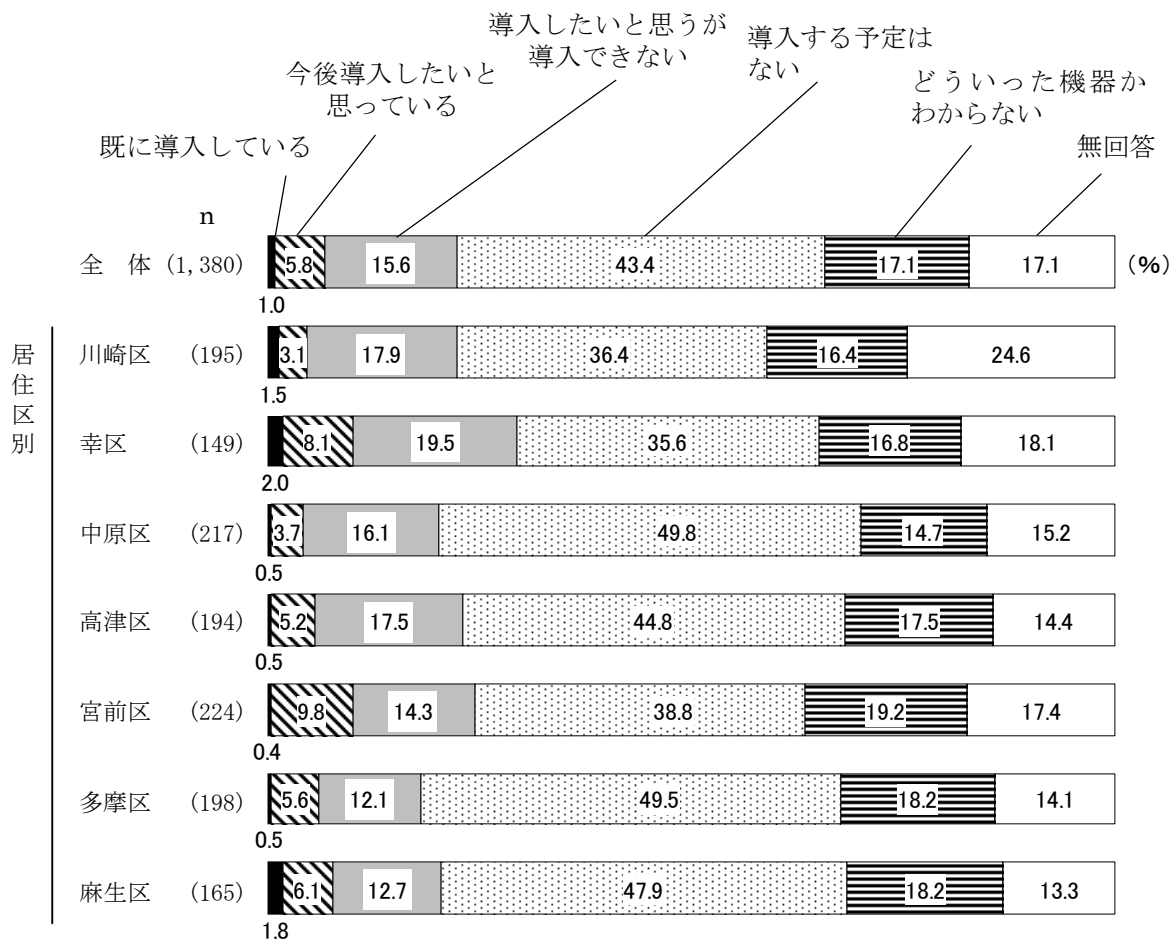
『太陽光パネルの設置』について、居住区別では、中原区で「既導入している」「今後導入したいと思っている」がそれぞれ 0.5%とすべての区の中で最も少なく、「導入する予定はない」が 53.0%と最も多くなっている。(図表2-6)

図表2-7 省エネ機器等の導入状況・導入意向【②太陽熱温水器】(居住区別)



『太陽熱温水器』について、居住区別では、中原区で「既に入っている」(0.5%)、「今後導入したいと思っている」(1.4%)がそれぞれすべての区の中で最も少なく、「導入する予定はない」が59.0%と最も多くなっている。(図表2-7)

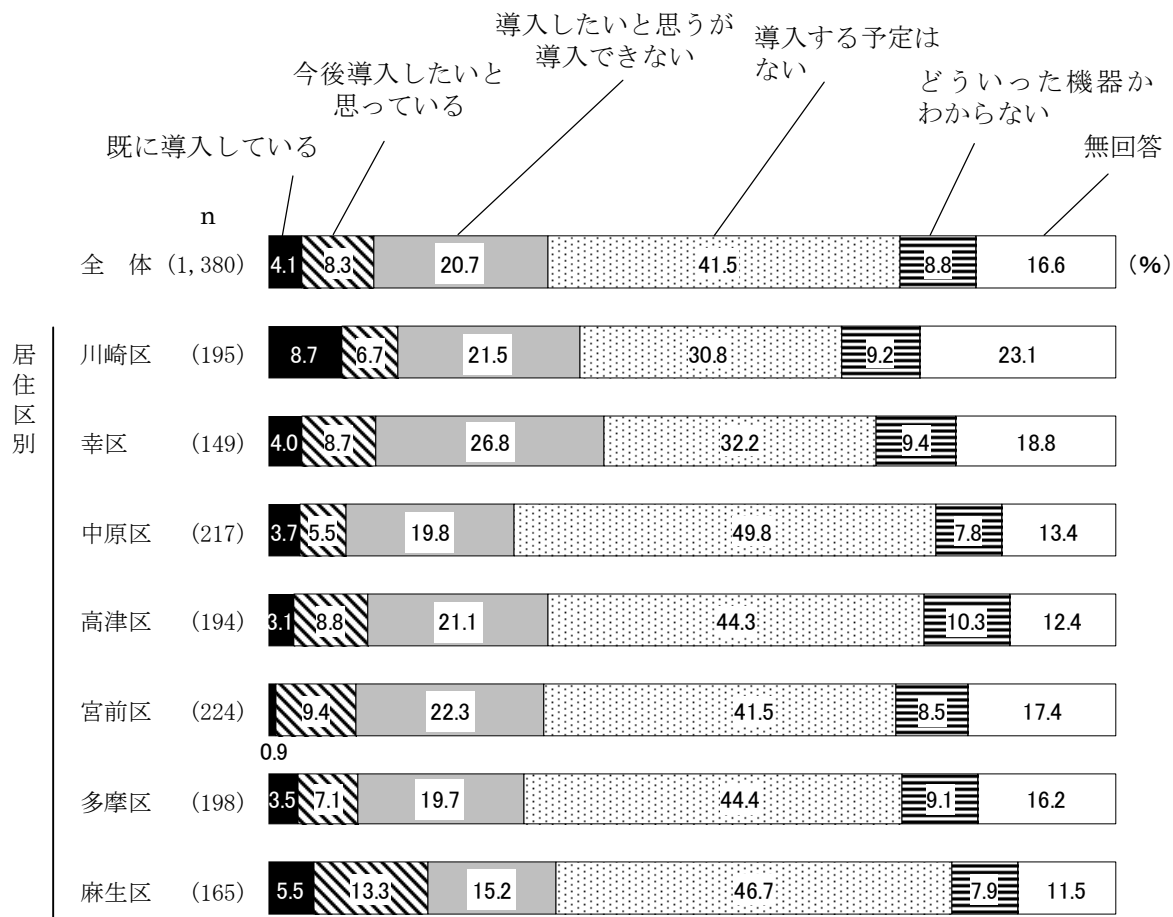
図表2-8 省エネ機器等の導入状況・導入意向
 【③エネルギーマネジメントシステム（電力の見える化等）】（居住区別）



『エネルギーマネジメントシステム（電力の見える化等）』について、居住区別では、「今後導入したいと思っている」は宮前区（9.8%）が最も多く、次いで幸区（8.1%）となっている。（図表2-8）

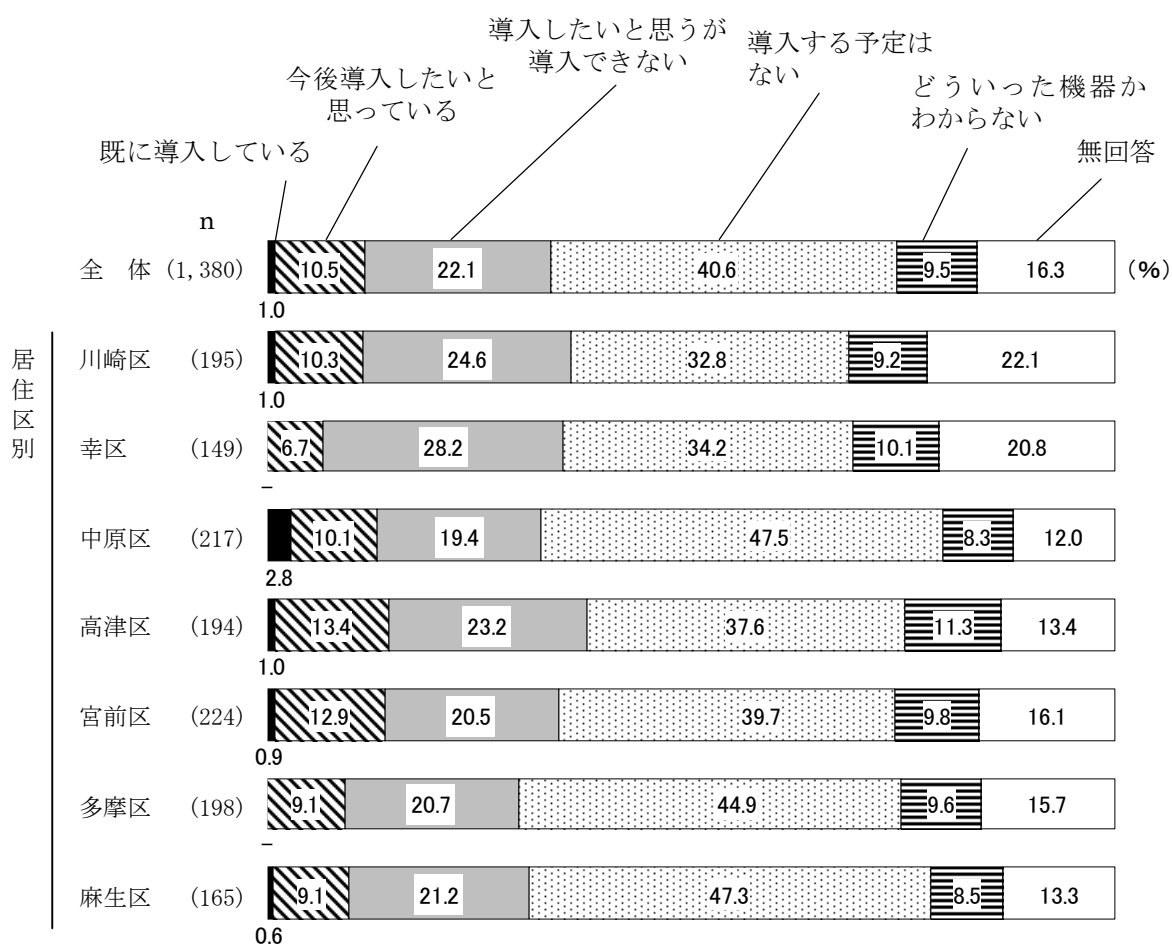
図表2-9 省エネ機器等の導入状況・導入意向

【④家庭用燃料電池や省エネ仕様の給湯器（エネファームやエコウィル等）】（居住区別）



『家庭用燃料電池や省エネ仕様の給湯器（エネファームやエコウィル等）』について、居住区別では、「既導入している」は川崎区（8.7%）が最も多くなっている。「今後導入したいと思っている」は、麻生区（13.3%）が1割を超え最も多くなっている。（図表2-9）

図表2-10 省エネ機器等の導入状況・導入意向【⑤家庭用蓄電池】(居住区別)



『家庭用蓄電池』について、居住区別では、「既に入っている」は中原区(2.8%)が最も多くなっている。「今後導入したいと思っている」は、高津区(13.4%)、宮前区(12.9%)が多くなっている。(図表2-10)

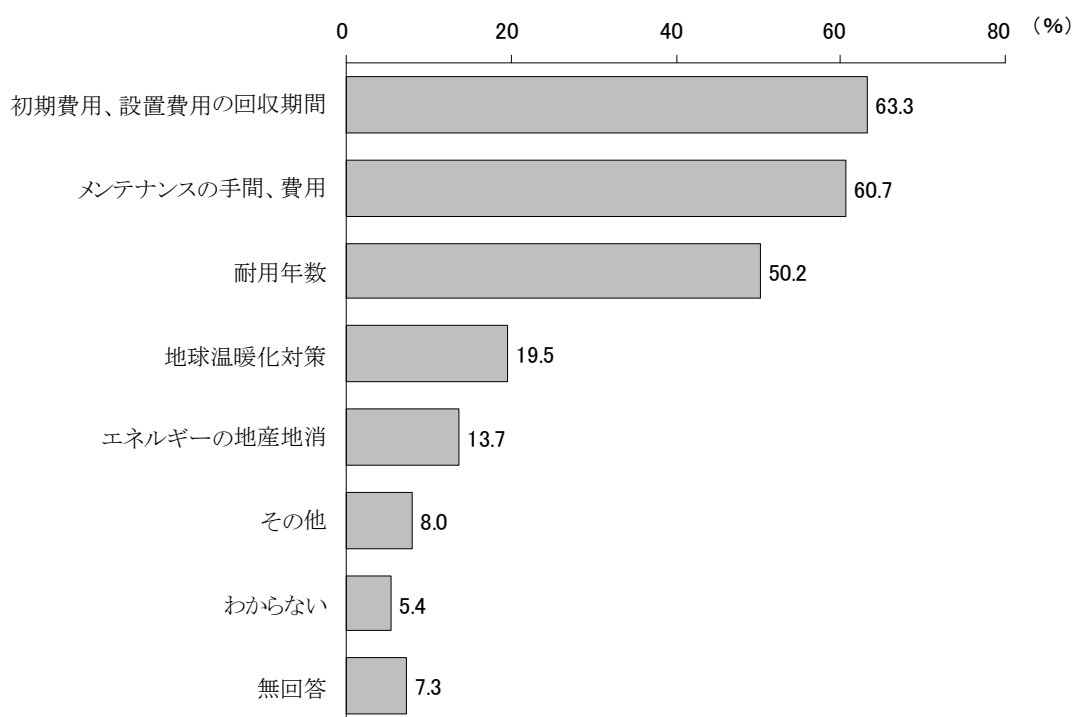
2-4 省エネ機器等の導入にあたって重視した(する)こと

◎「初期費用、設置費用の回収期間」が63.3%

問9-1 (問9の①~⑤について、いずれか1つでも「1 既に導入している」「2 今後導入したいと思っている」と回答した方にうかがいます。)
新しい省エネ機器等を導入するにあたって重視した(する)ことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-11 省エネ機器等の導入にあたって重視した(する)こと

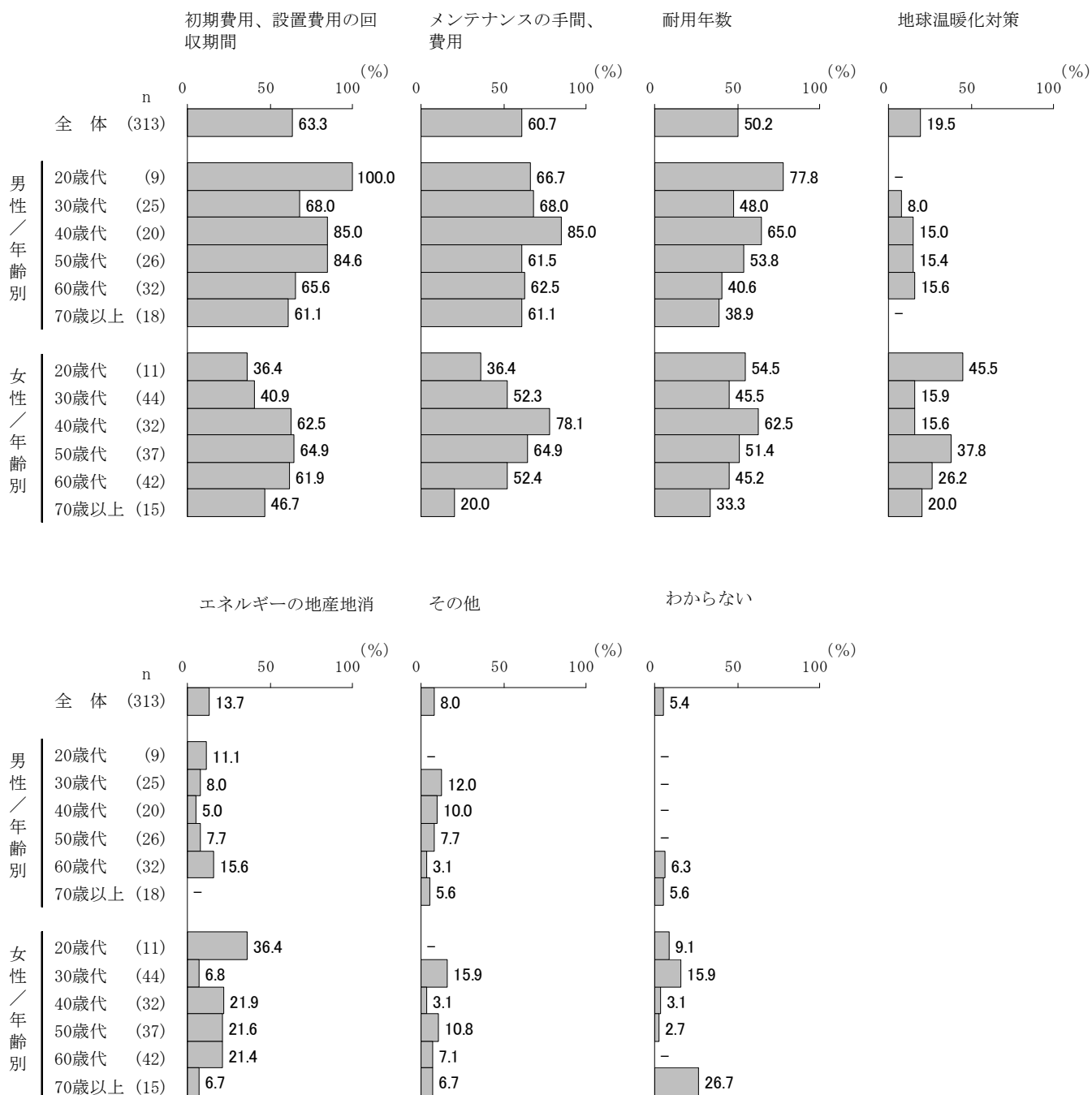
(複数回答) n = (313)



省エネ機器等の導入にあたって重視した(する)ことは、「初期費用、設置費用の回収期間」(63.3%)、「メンテナンスの手間、費用」(60.7%)が6割を超え多くっており、次いで「耐用年数」(50.2%)がほぼ5割で続いている。(図表2-11)

(第1回アンケート)

図表2-12 省エネ機器等の導入にあたって重視した(する)こと(性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表2-12)

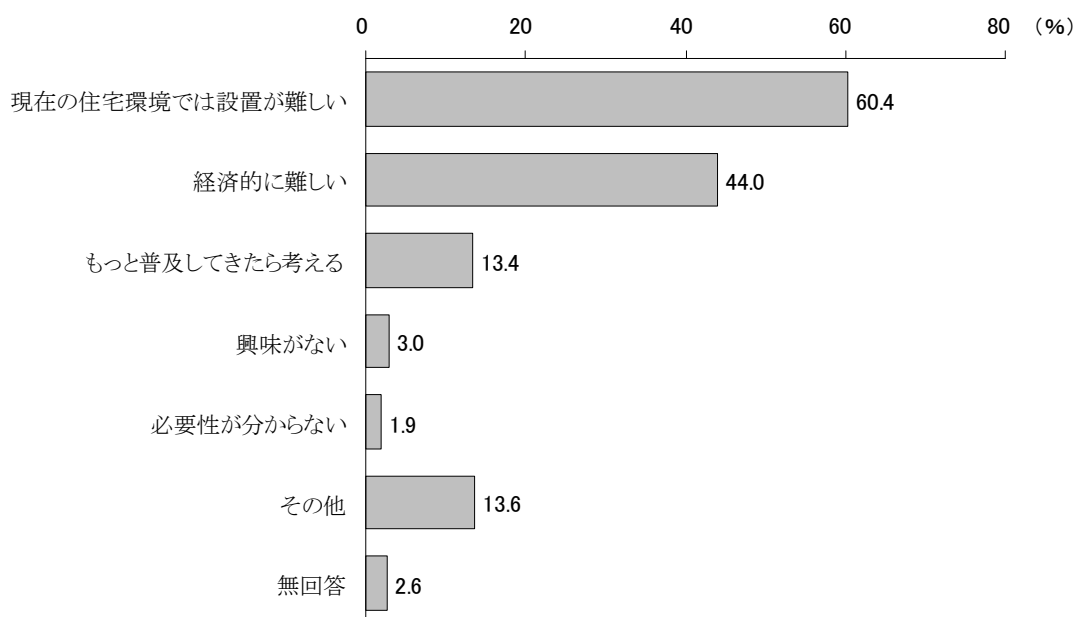
2-5 太陽光パネルを導入できない(しない)理由

◎「現在の住宅環境では設置が難しい」が60.4%

問9-2 (問9の『① 太陽光パネルの設置』について「3 導入したいと思うが導入できない」「4 導入する予定はない」と回答した方にうかがいます。)
導入できない(しない)理由は何でしょうか。(あてはまるものすべてに○)

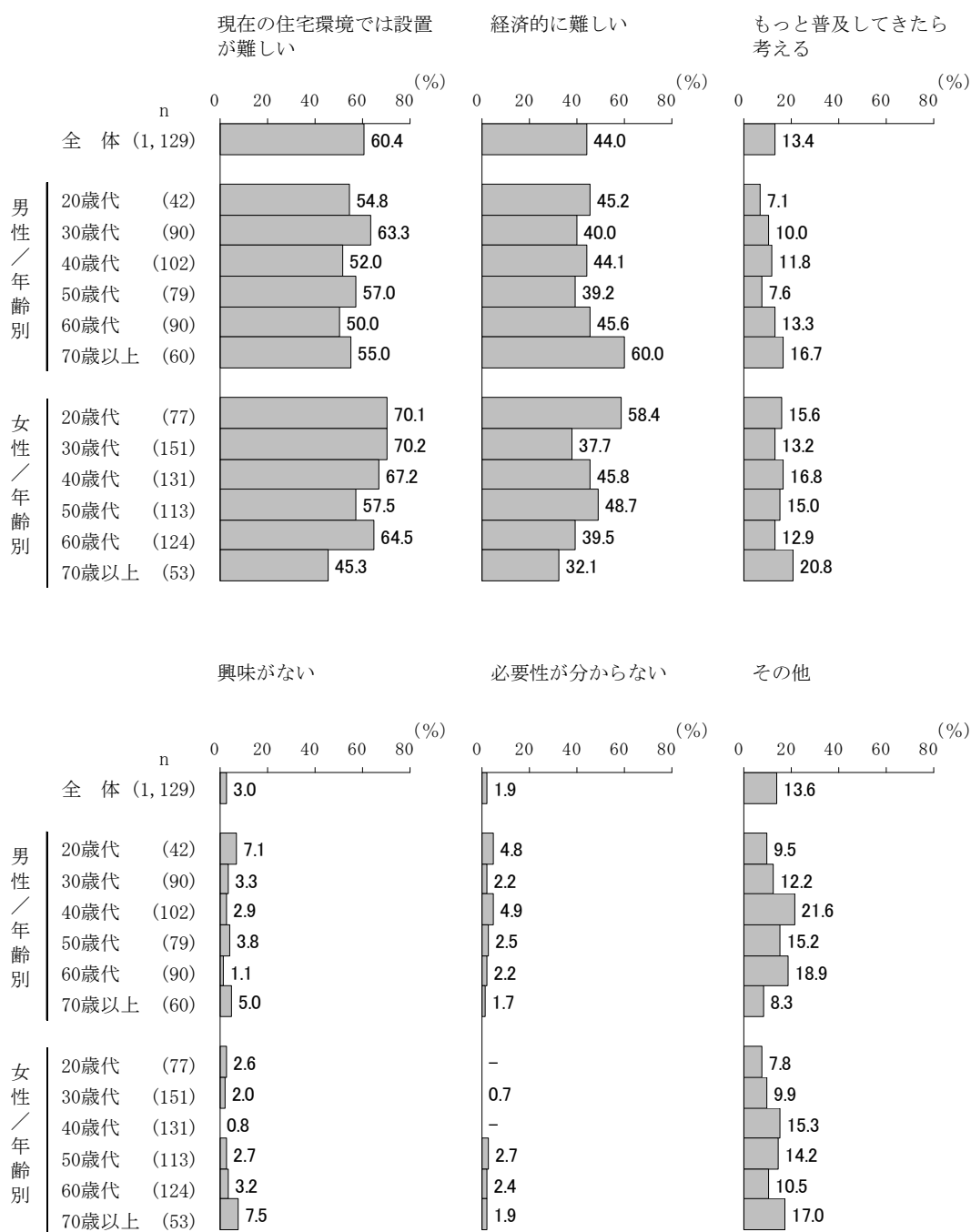
図表2-13 太陽光パネルを導入できない(しない)理由

(複数回答) n = (1,129)



太陽光パネルを導入できない(しない)理由は、「現在の住宅環境では設置が難しい」(60.4%)がほぼ6割で最も多くなっている。次いで、「経済的に難しい」(44.0%)、「もっと普及してきたら考える」(13.4%)の順となっている。(図表2-13)

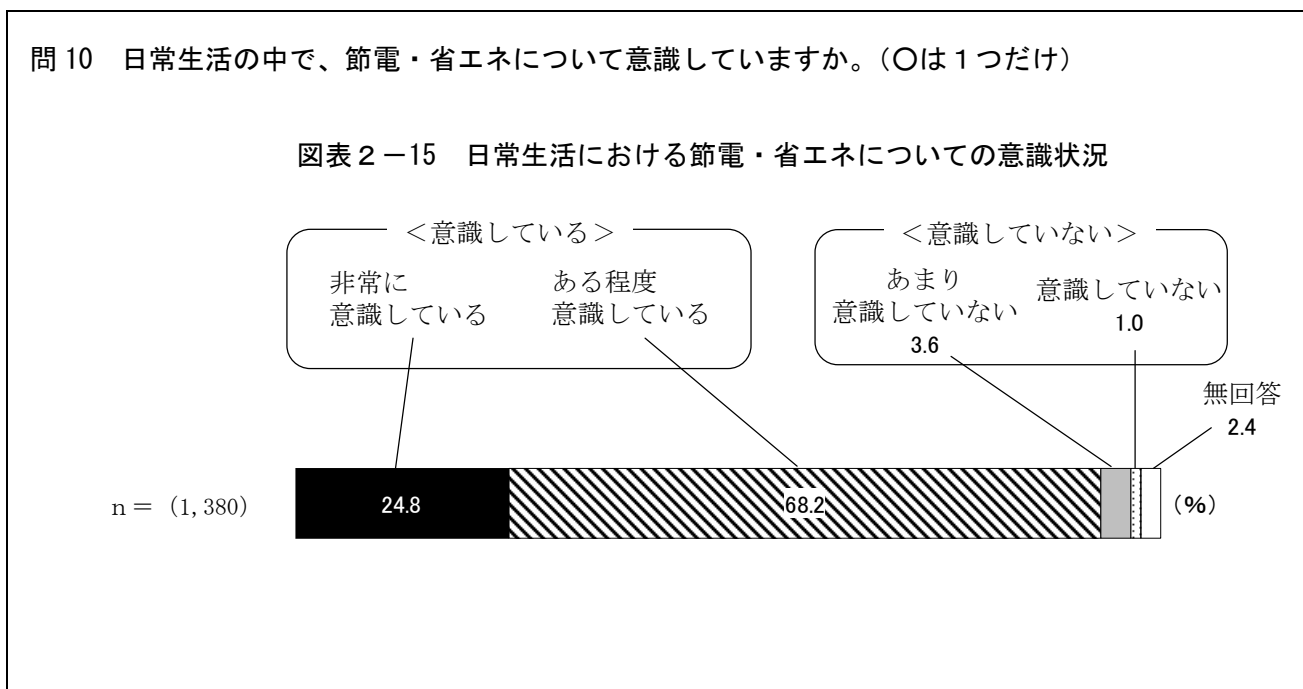
図表2-14 太陽光パネルを導入できない(しない)理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「現在の住宅環境では設置が難しい」は男性では30歳代(63.3%)、女性では20歳代(70.1%)・30歳代(70.2%)が多くなっている。「経済的に難しい」は、男性では70歳以上(60.0%)、女性では20歳代(58.4%)が最も多くなっている。(図表2-14)

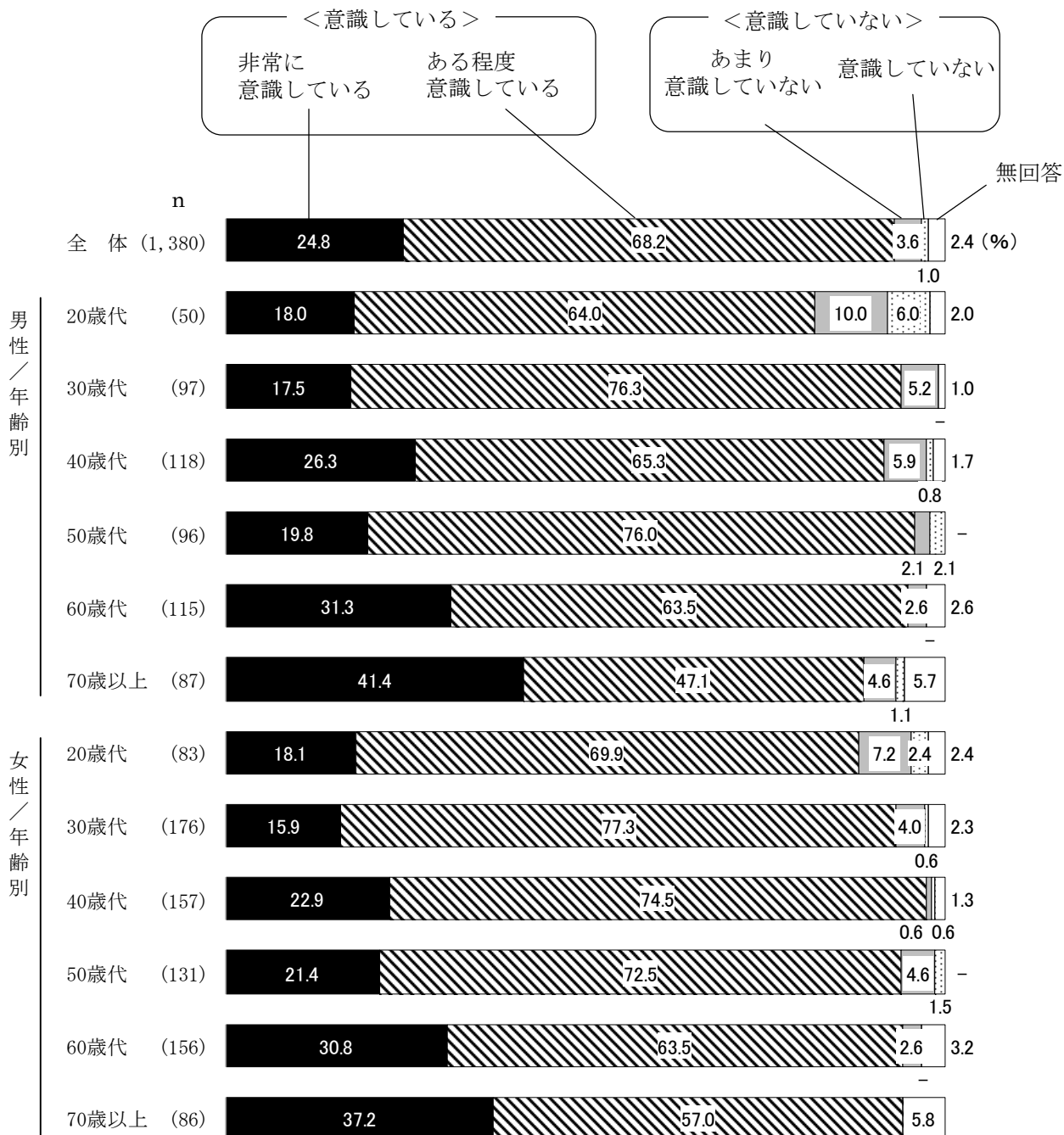
2-6 日常生活における節電・省エネについての意識状況

◎<意識している>が93.0%



日常生活における節電・省エネについての意識状況については、「非常に意識している」(24.8%)と「ある程度意識している」(68.2%)をあわせた<意識している>は93.0%となっている。一方、「あまり意識していない」(3.6%)と「意識していない」(1.0%)をあわせた<意識していない>は4.6%となっている。(図表2-15)

図表2-16 日常生活における節電・省エネについての意識状況 (性/年齢別)



性/年齢別では、「非常に意識している」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。一方、「あまり意識していない」と「意識していない」をあわせた<意識していない>は男女ともに20歳代が最も多くなっている。(図表2-16)

2-7 個人や家庭での節電・省エネ対策の取組について

◎現在取り組んでいるもの「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する」が76.3%

問11 家庭で取り組んでいる（取り組む予定）の節電・省エネ対策についてお聞きします。

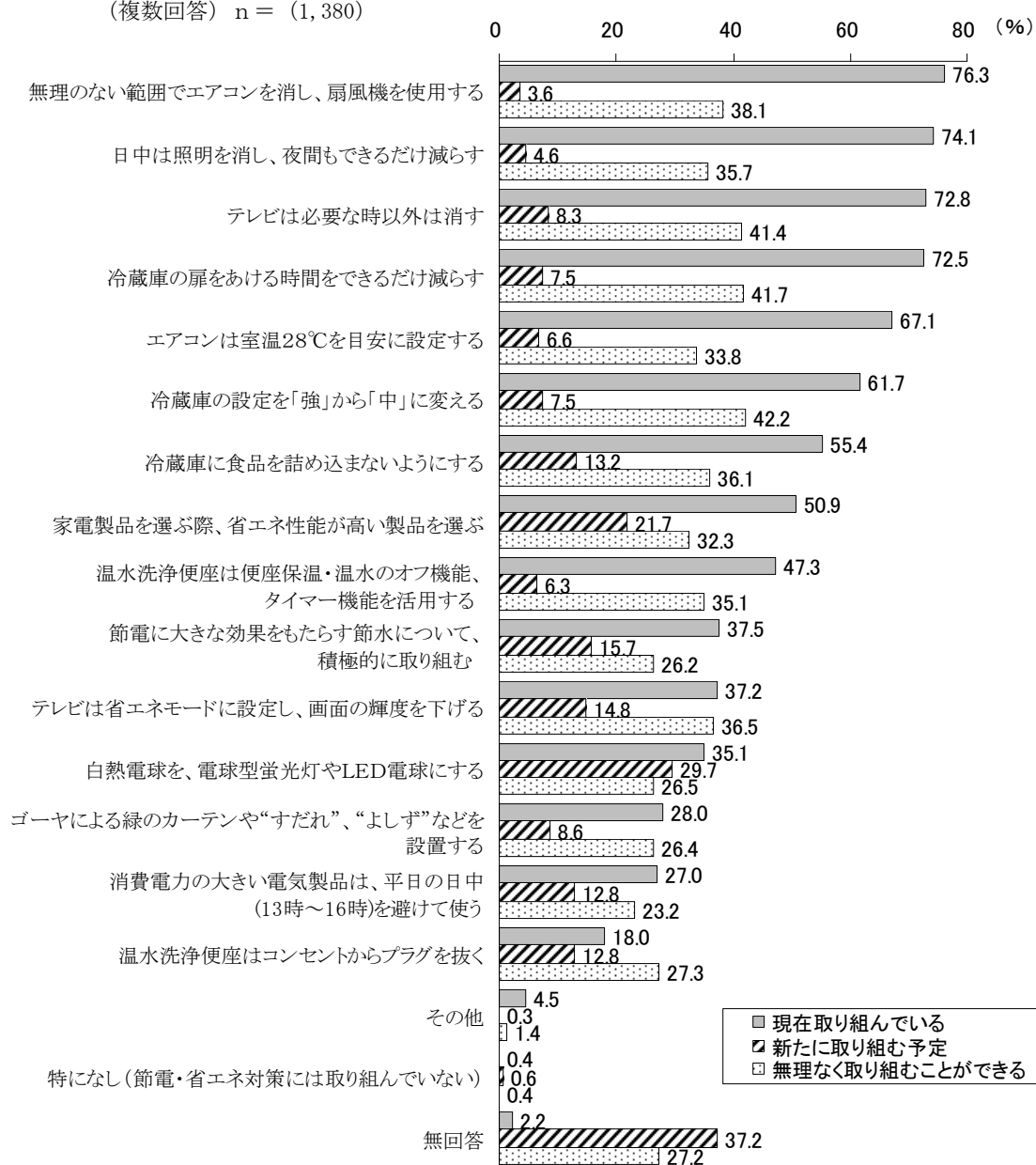
A 現在、個人や家庭でどのような節電・省エネ対策を行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

B これから新たに取り組もうと思っている節電・省エネ対策はありますか。（Aで選択した項目を除き、すべてに○）

C 現在行っているかいないかに関わらず、無理なく取り組むことができると思う節電・省エネ対策はどのような取組ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表2-17 個人や家庭での節電・省エネ対策の取組について

（複数回答） n = (1,380)



(第1回アンケート)

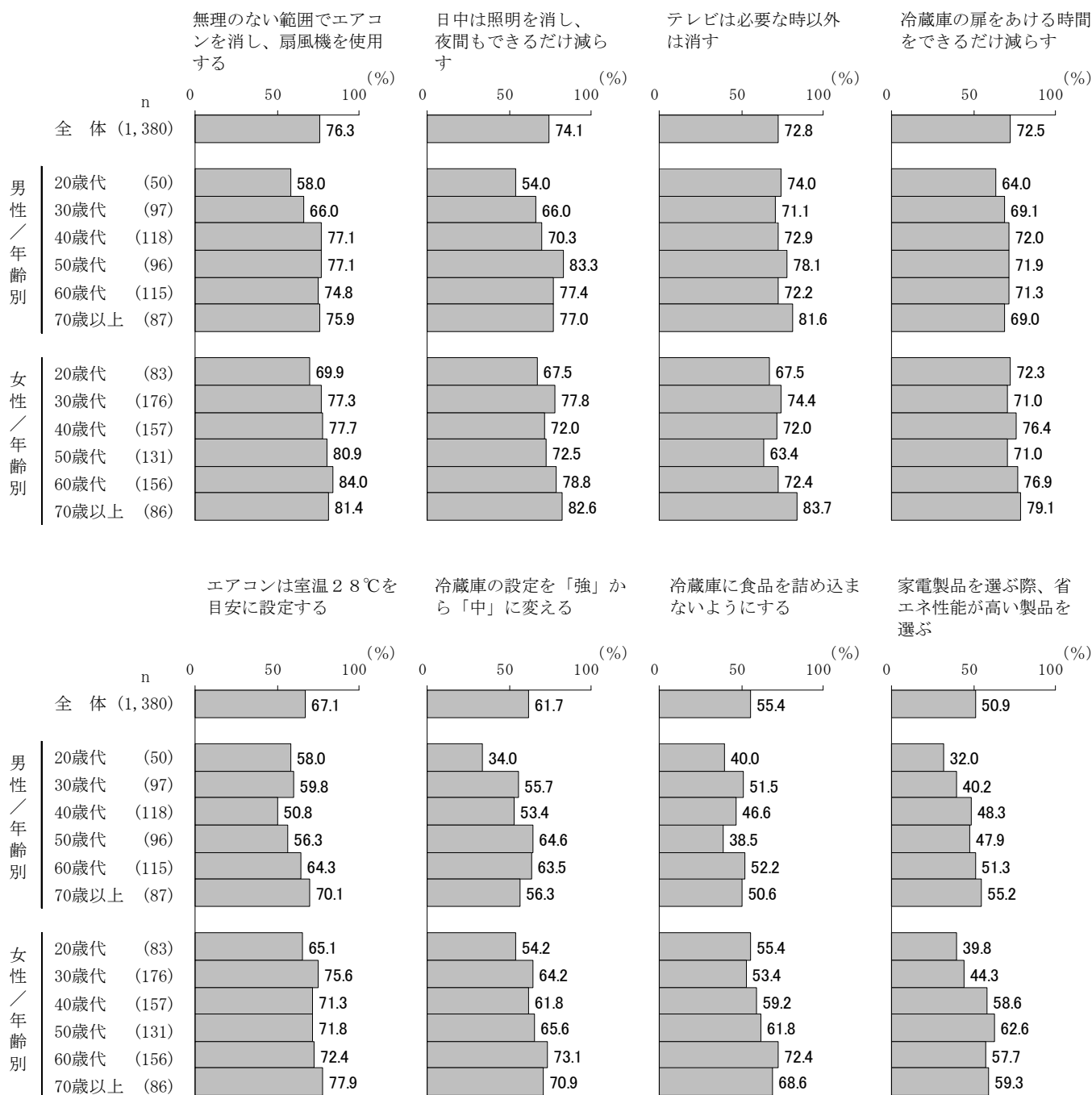
個人や家庭での節電・省エネ対策の取組について、現在取り組んでいるものは、「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する」(76.3%)が最も多く、次いで「日中は照明を消し、夜間もできるだけ減らす」(74.1%)、「テレビは必要な時以外は消す」(72.8%)、「冷蔵庫の扉をあける時間をできるだけ減らす」(72.5%)の順となっている。

新たに取り組む予定のものは、「白熱電球を、電球型蛍光灯やLED電球にする」(29.7%)が最も多く、次いで「家電製品を選ぶ際、省エネ性能が高い製品を選ぶ」(21.7%)、「節電に大きな効果をもたらす節水について、積極的に取り組む」(15.7%)、「テレビは省エネモードに設定し、画面の輝度を下げる」(14.8%)の順となっている。

無理なく取り組むことができるものは、「冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変える」(42.2%)が最も多く、次いで「冷蔵庫の扉をあける時間をできるだけ減らす」(41.7%)、「テレビは必要な時以外は消す」(41.4%)、「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する」(38.1%)の順となっている。(図表2-17)

図表2-18 個人や家庭での節電・省エネ対策の取組について【A. 現在取り組んでいる】

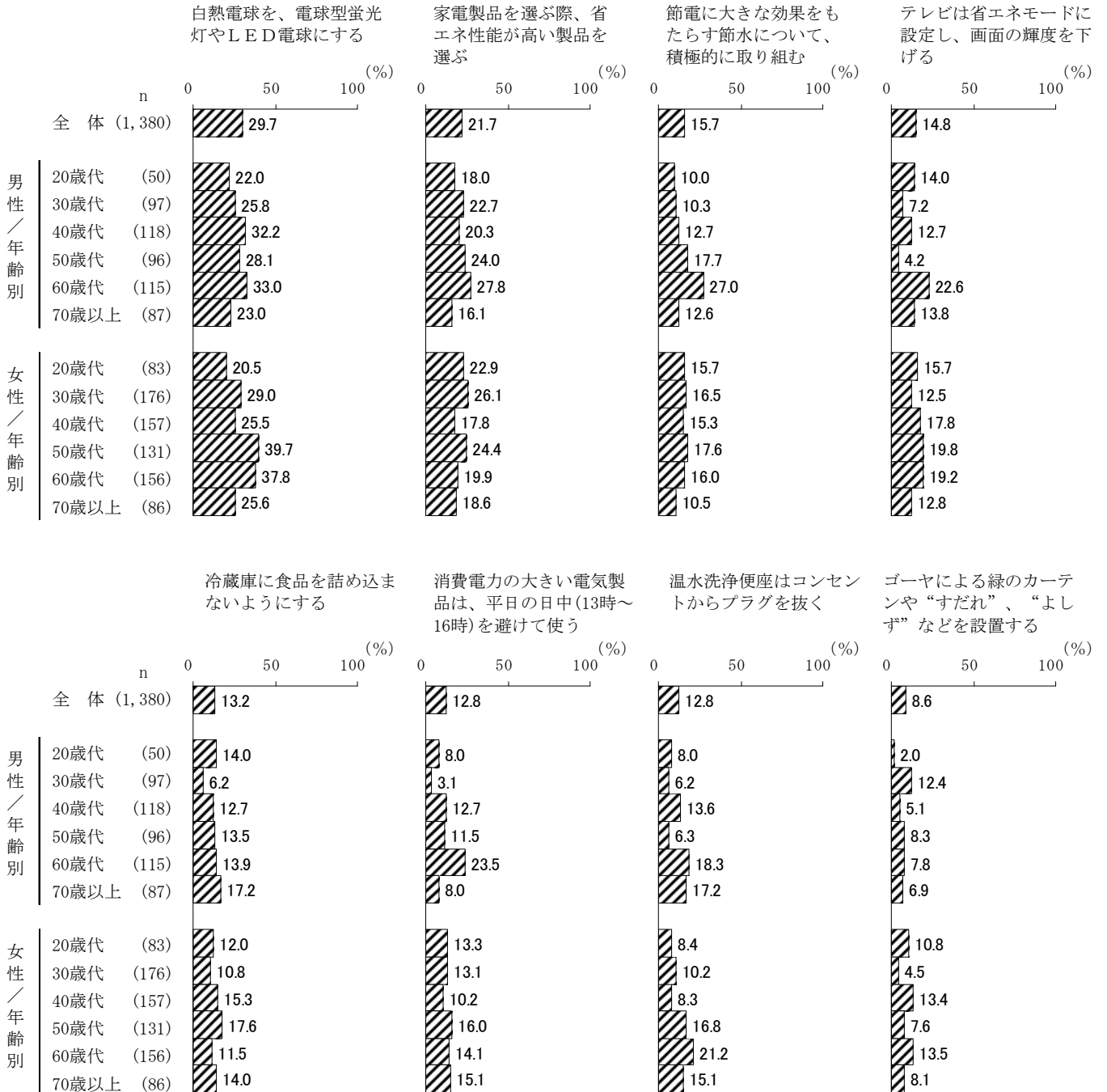
(性/年齢別、上位8項目)



現在取り組んでいるものについて、性/年齢別では、「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する」「日中は照明を消し、夜間もできるだけ減らす」は男女ともに20歳代が最も少なく、特に男性20歳代はそれぞれ5割台と特に少なくなっている。「テレビは必要な時以外は消す」は、男女ともに70歳以上で8割を超え最も多くなっている。(図表2-18)

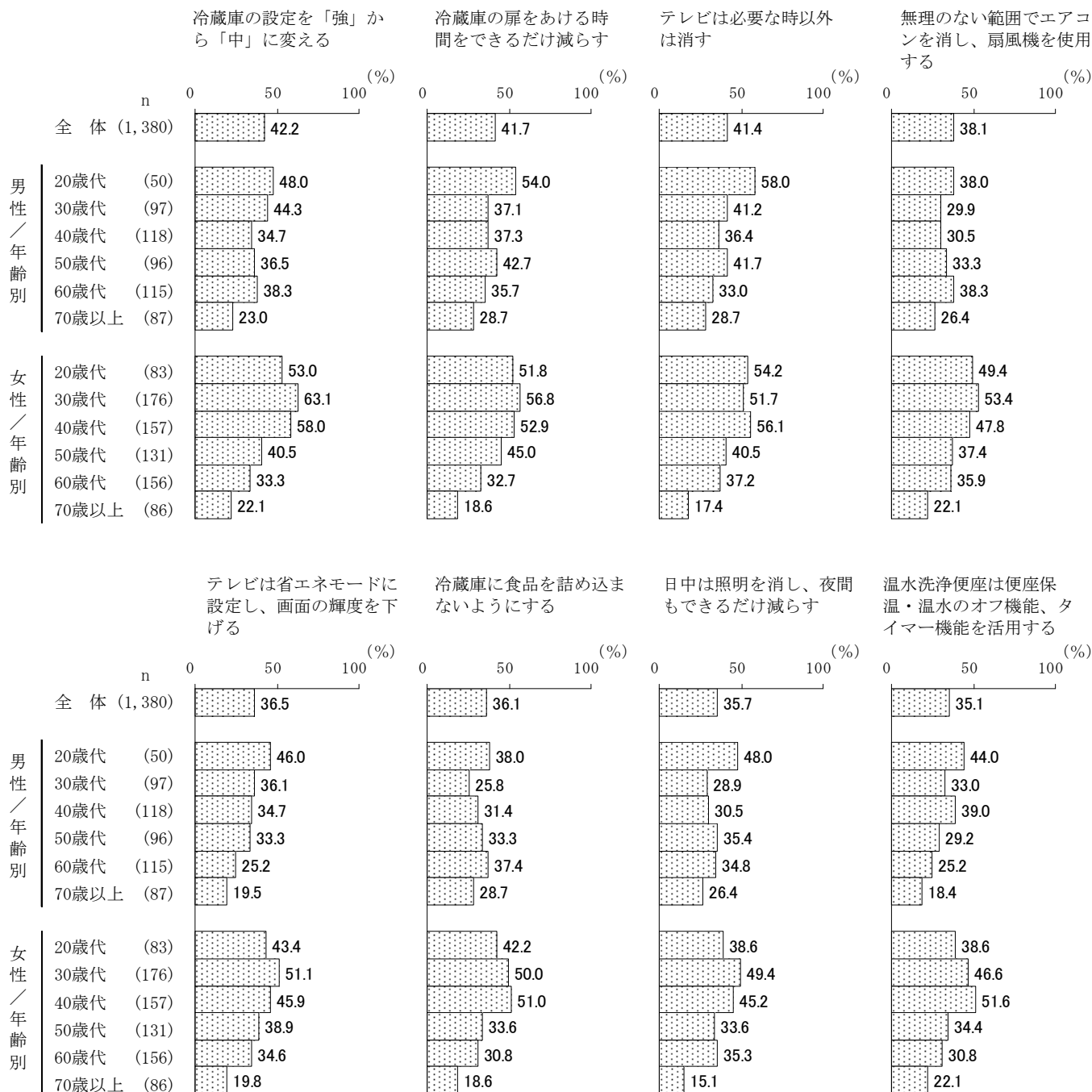
図表2-19 個人や家庭での節電・省エネ対策の取組について【B. 新たに取り組む予定】

(性/年齢別、上位8項目)



新たに取り組む予定のものについて、性/年齢別では、「白熱電球を、電球型蛍光灯やLED電球にする」は女性50~60歳代が3割台後半と多くなっている。「家電製品を選ぶ際、省エネ性能が高い製品を選ぶ」は、男性では60歳代(27.8%)、女性では30歳代(26.1%)が最も多くなっている。「節電に大きな効果をもたらす節水について、積極的に取り組む」は、男性60歳代(27.0%)が特に多くなっている。(図表2-19)

図表2-20 個人や家庭での節電・省エネ対策の取組について【C. 無理なく取り組むことができる】
(性/年齢別、上位8項目)



無理なく取り組むことができるものについて、性/年齢別では、「冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変える」「冷蔵庫の扉をあける時間をできるだけ減らす」は、男性では20歳代、女性では30歳代が最も多くなっている。「テレビは必要な時以外は消す」は、男性では20歳代、女性では20～40歳代が5割を超え多くなっている。(図表2-20)

3 動物愛護と適正飼養について

3-1 ペットの飼育状況

◎「飼育している」は23.0%

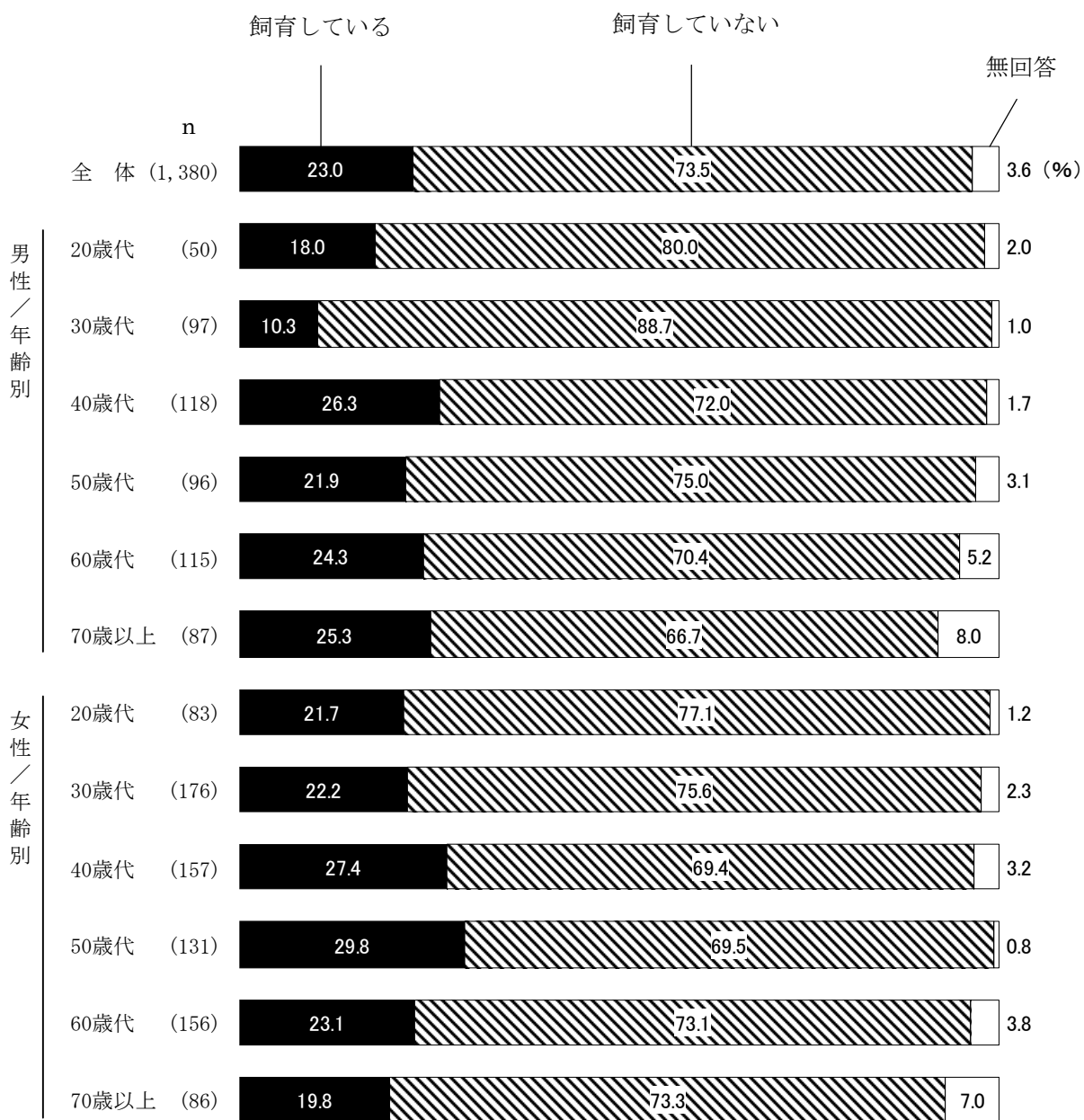
問12 あなた（あなたのご家庭）は、現在ペットを飼育していますか。（○は1つだけ）

図表3-1 ペットの飼育状況



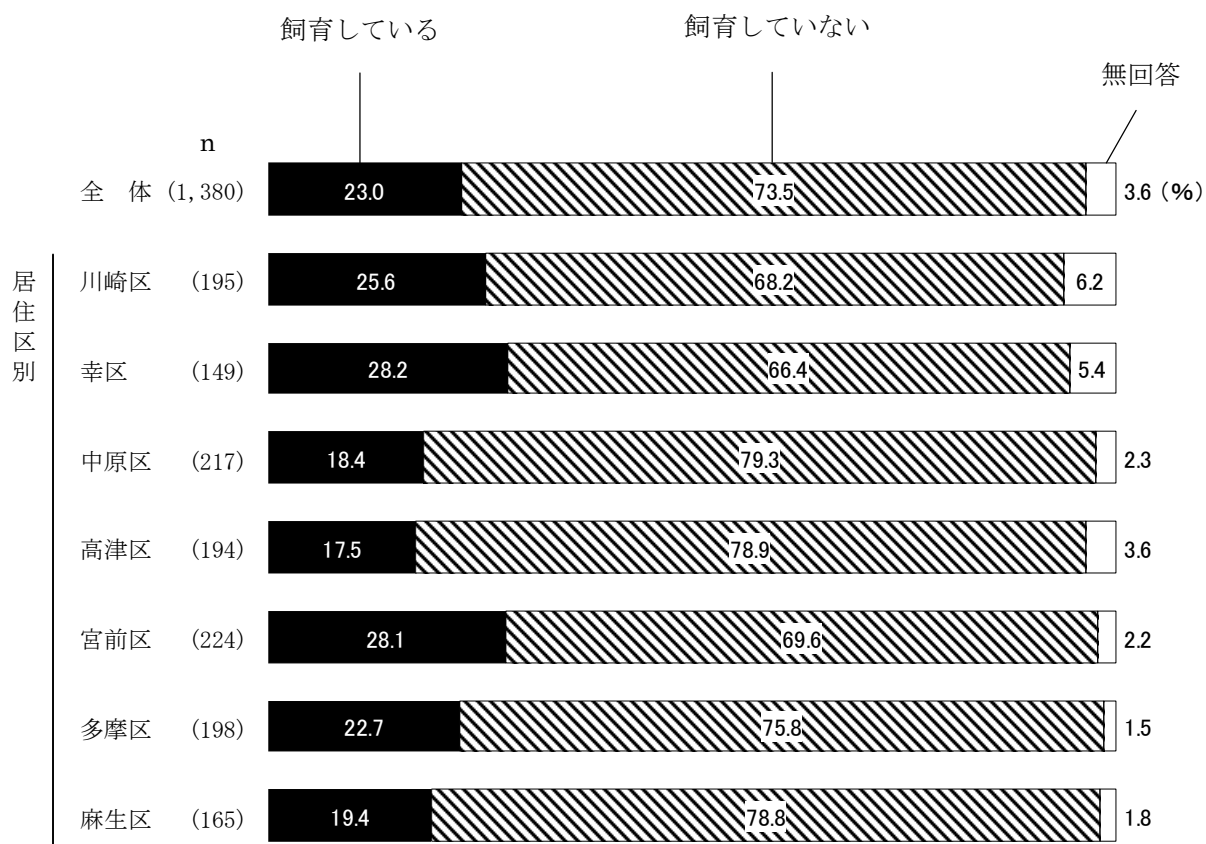
ペットの飼育状況については、「飼育している」が23.0%、「飼育していない」が73.5%となっている。（図表3-1）

図表3-2 ペットの飼育状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「飼育している」は、男性では20～30歳代が1割台、40歳代以上の年代は2割台となっている。女性では、50歳代が29.8%と最も多くなっている。(図表3-2)

図表3-3 ペットの飼育状況(居住区別)



居住区別では、「飼育している」は、幸区(28.2%)、宮前区(28.1%)が2割台後半と多くなっており、高津区(17.5%)、中原区(18.4%)、麻生区(19.4%)が1割台とやや少なくなっている。(図表3-3)

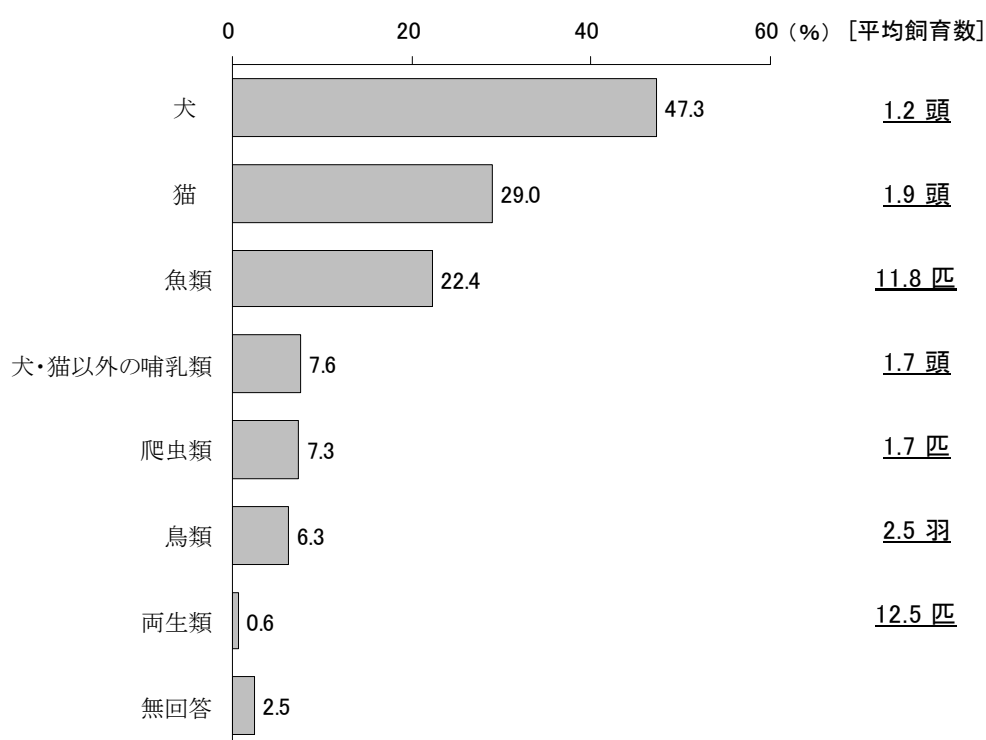
3-2 飼育しているペット

◎「犬」が47.3%

問12-1 (問12で「1 飼育している」と回答した方にかがいます。)
飼育数をお知らせください。
※1以上の記入があった件数(割合)を集計

図表3-4 飼育しているペット

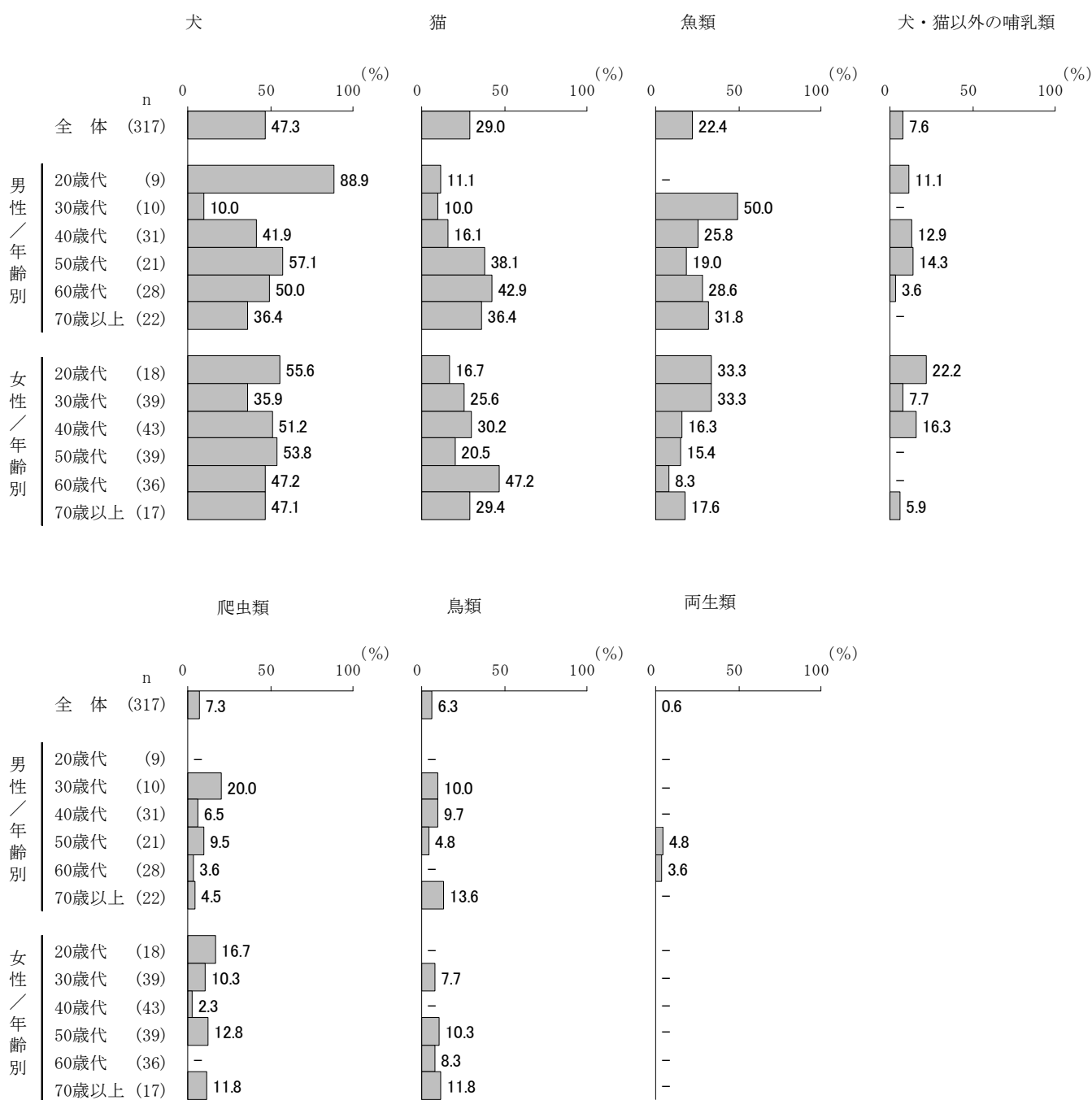
(複数回答) n = (317)



飼育しているペットについては、「犬」(47.3%)が4割台後半と最も多く、次いで「猫」(29.0%)、「魚類」(22.4%)の順となっている。(図表3-4)

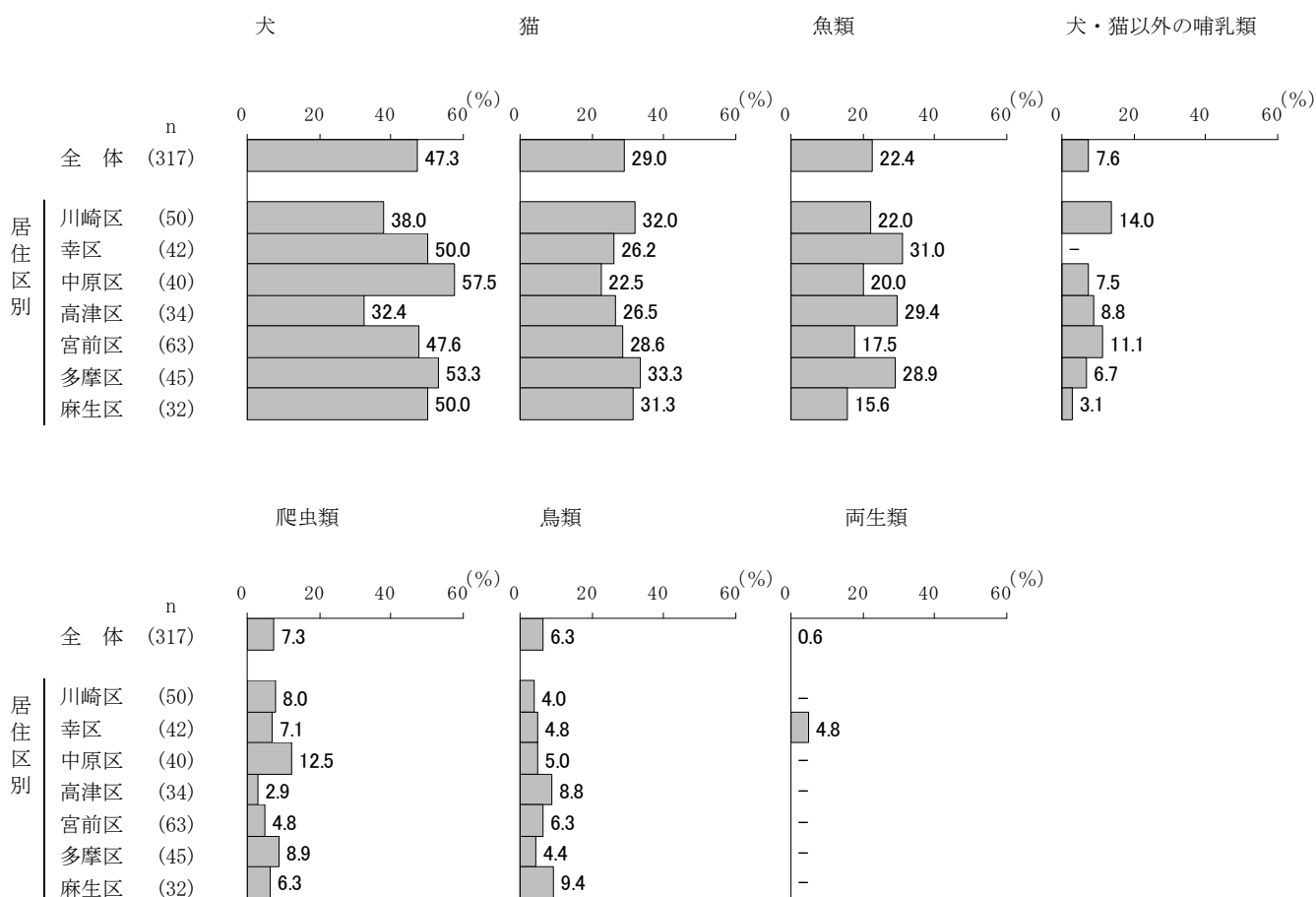
(第1回アンケート)

図表3-5 飼育しているペット（性/年齢別）



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表3-5)

図表3-6 飼育しているペット（居住区別）



居住区別では、「犬」は、中原区（57.5%）が5割台後半と最も多く、高津区（32.4%）、川崎区（38.0%）が3割台と少なくなっている。「猫」は、多摩区（33.3%）が最も多く、中原区（22.5%）が最も少なくなっている。「魚類」は、幸区（31.0%）が最も多く、麻生区（15.6%）が最も少なくなっている。（図表3-6）

3-3 ペットの防災対策

◎「エサ等を備蓄している」が60.9%

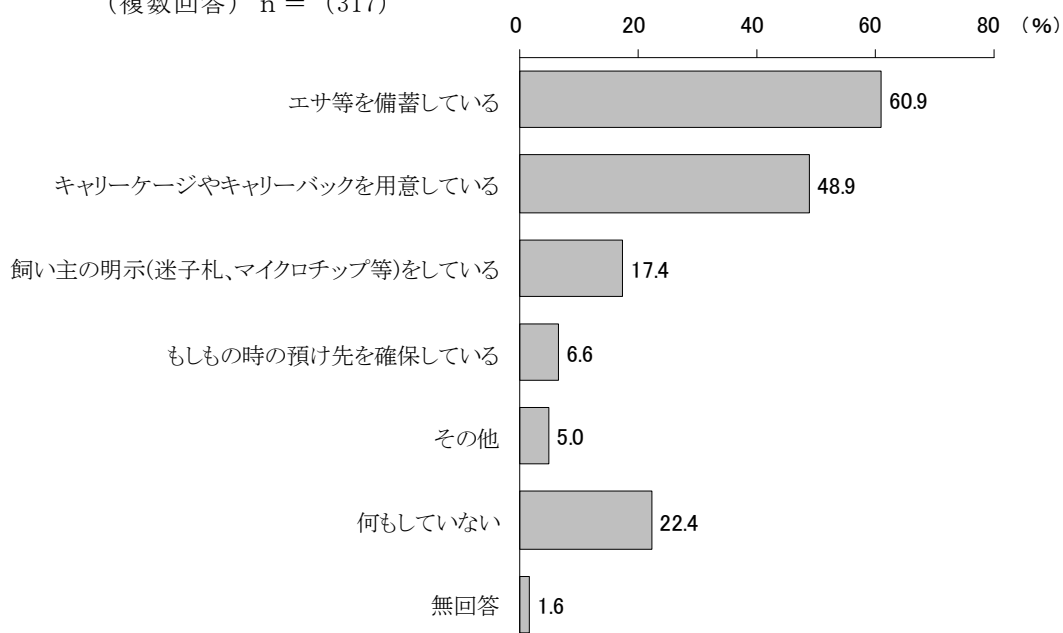
問12-2 (問12で「1 飼育している」と回答した方にかがいます。)

東日本大震災ではペットの防災対策について様々な課題が発生しました。

地震などの災害に備えて、ペットのための対策をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

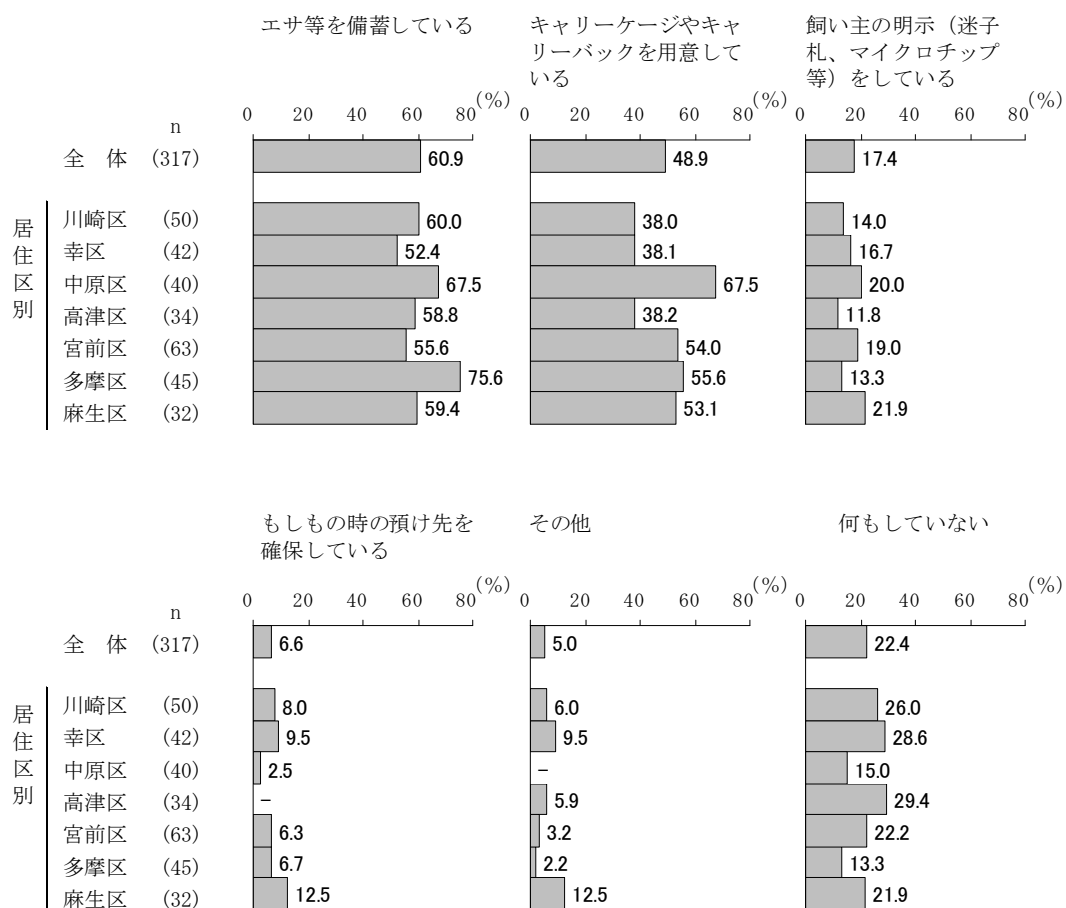
図表3-7 ペットの防災対策

(複数回答) n = (317)



ペットの防災対策については、「エサ等を備蓄している」(60.9%)が6割を超え最も多く、次いで「キャリーケージやキャリーバックを用意している」(48.9%)が4割台後半で続いている。なお、「何もしていない」は22.4%となっている。(図表3-7)

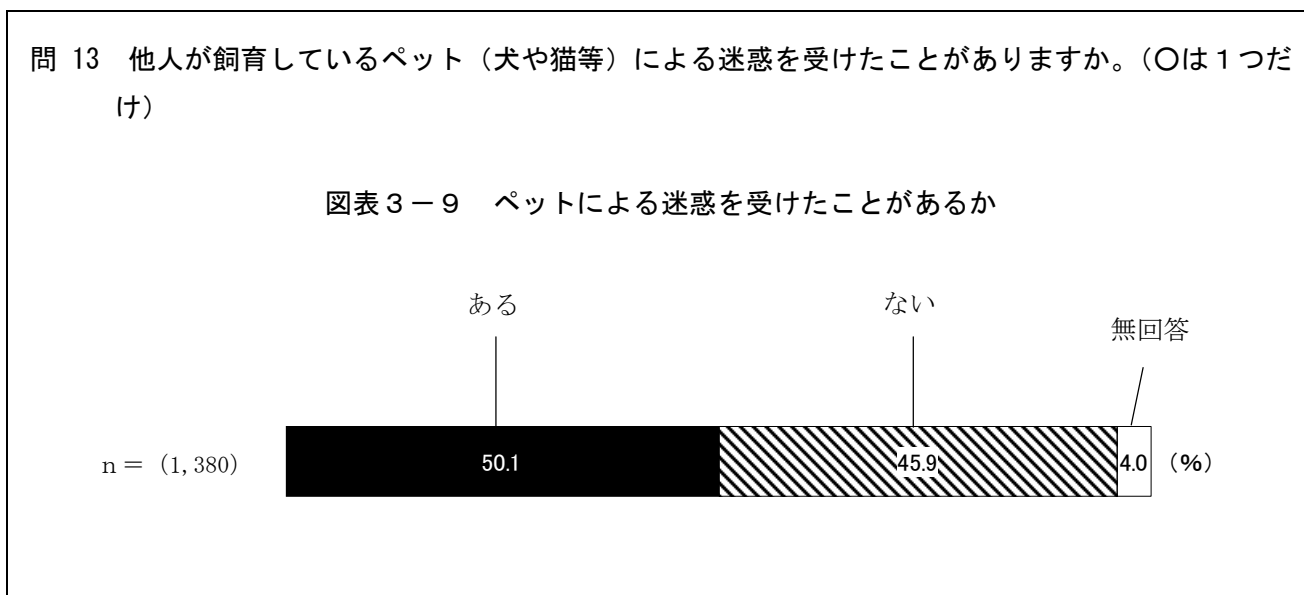
図表3-8 ペットの防災対策（居住区別）



居住区別では、「エサ等を備蓄している」は、多摩区（75.6%）が7割台半ばと最も多くなっている。「キャリーケージやキャリーバックを用意している」は、中原区（67.5%）が最も多くなっている。「何もしていない」は、多摩区（13.3%）、中原区（15.0%）が1割台と少なくなっている。（図表3-8）

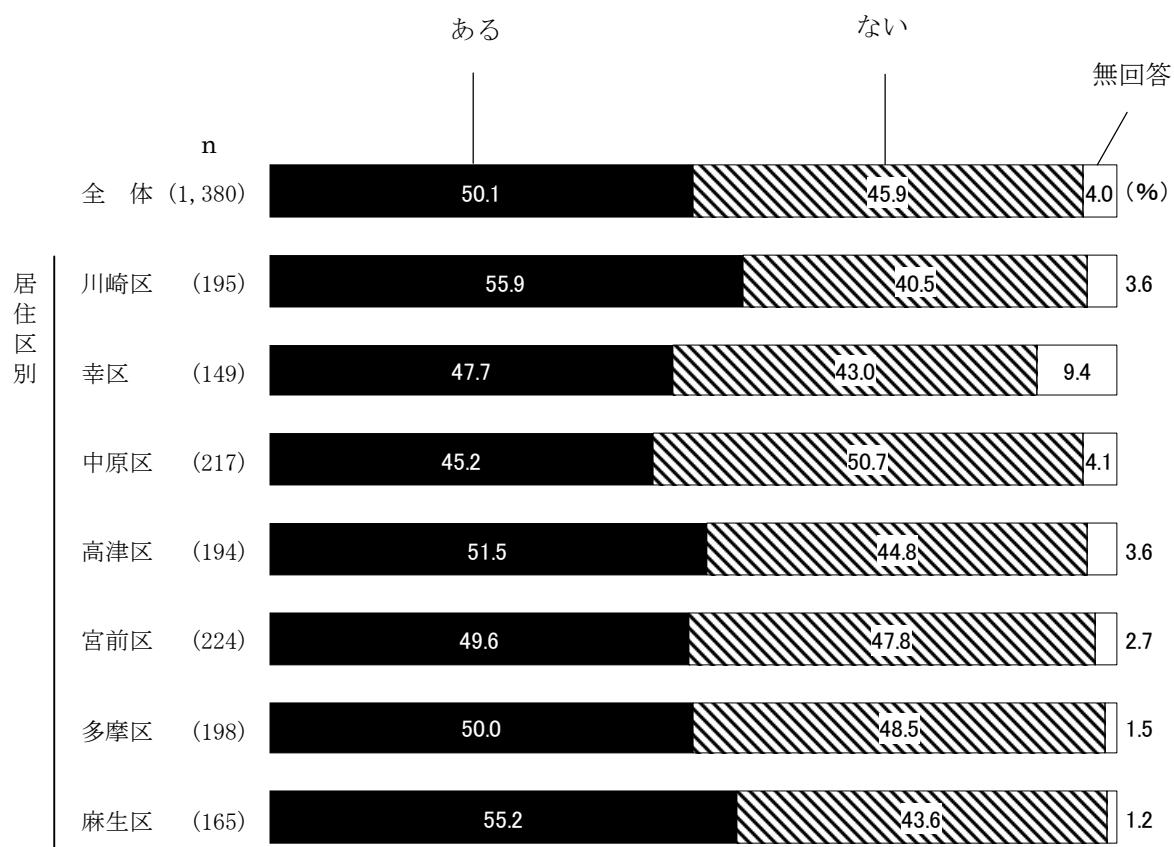
3-4 ペットによる迷惑を受けたことがあるか

◎「ある」が50.1%



ペットによる迷惑を受けたことがあるかについては、「ある」が50.1%、「ない」が45.9%となっており、「ある」が「ない」をやや上回っている。（図表3-9）

図表3-10 ペットによる迷惑を受けたことがあるか(居住区別)



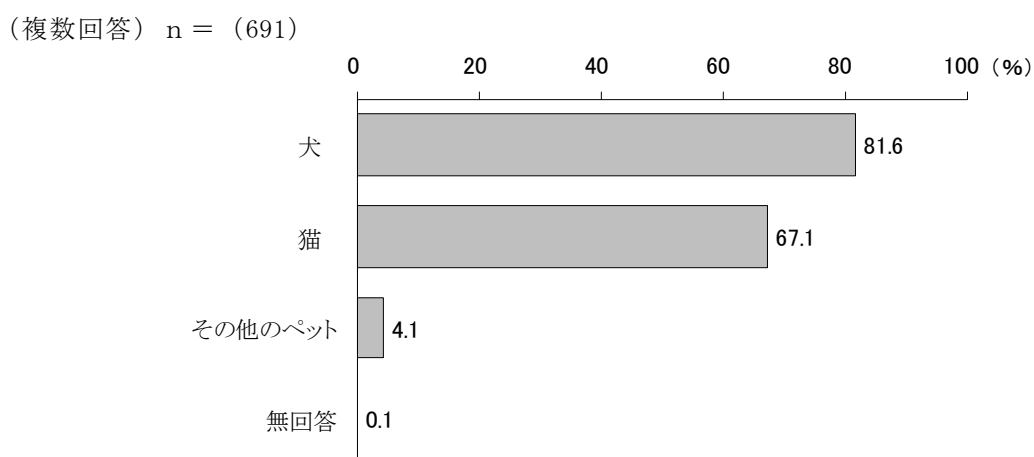
居住区別では、「ある」は、川崎区(55.9%)、麻生区(55.2%)が5割台半ばとやや多くなっている。なお、中原区のみ「ない」(50.7%)が「ある」(45.2%)を上回っている。(図表3-10)

3-5 迷惑を受けたペット

◎「犬」が81.6%、「猫」が67.1%

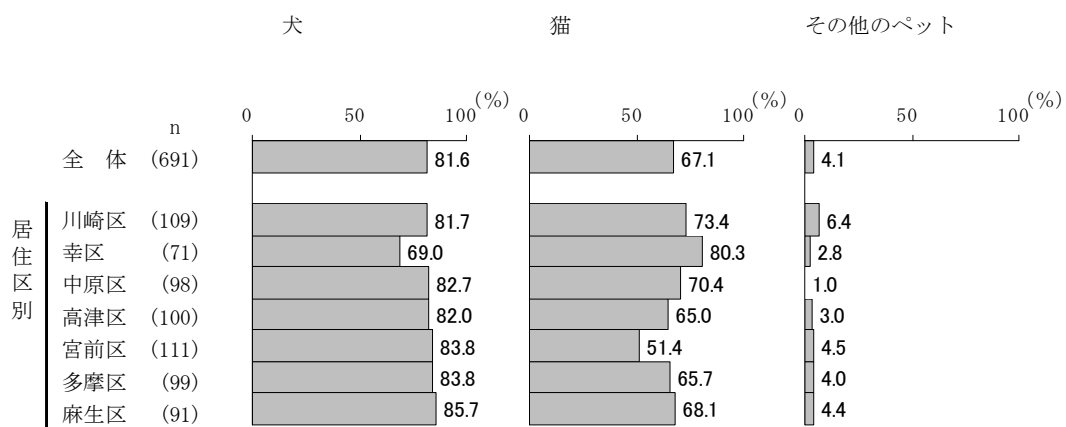
問13-1 (問13で「1 ある」と回答した方にうかがいます。)
どのような迷惑を受けましたか。迷惑を受けたペット(犬、猫、その他)について、
1~4のあてはまる番号をお選びください(あてはまるものすべてに○)
※迷惑を受けたペットについてのみ、それぞれ1~4の番号に○をつけてください。

図表3-11 迷惑を受けたペット



迷惑を受けたペットについては、「犬」が81.6%、「猫」が67.1%などとなっている。(図表3-11)

図表3-12 迷惑を受けたペット（居住区別）



居住区別では、「犬」は、幸区（69.0%）のみ6割台と最も少なくなっている。「猫」は、幸区（80.3%）が8割を超え最も多く、宮前区（51.4%）が5割台と最も少なくなっている。（図表3-12）

3-6 どのような迷惑を受けたか

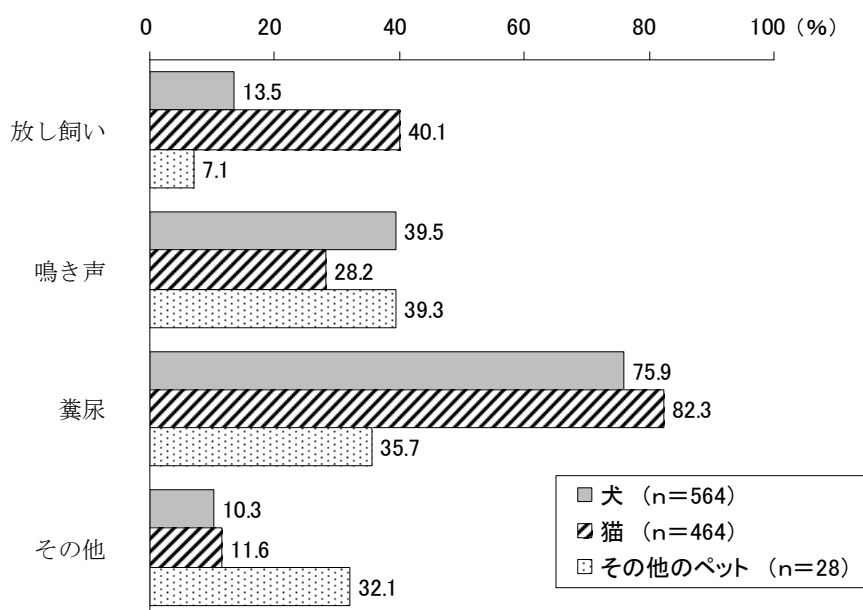
◎犬、猫ともに「糞尿」が最も多い

問13-1 (問13で「1 ある」と回答した方にうかがいます。)

どのような迷惑を受けましたか。迷惑を受けたペット(犬、猫、その他)について、1~4のあてはまる番号をお選びください(あてはまるものすべてに○)

※迷惑を受けたペットについてのみ、それぞれ1~4の番号に○をつけてください。

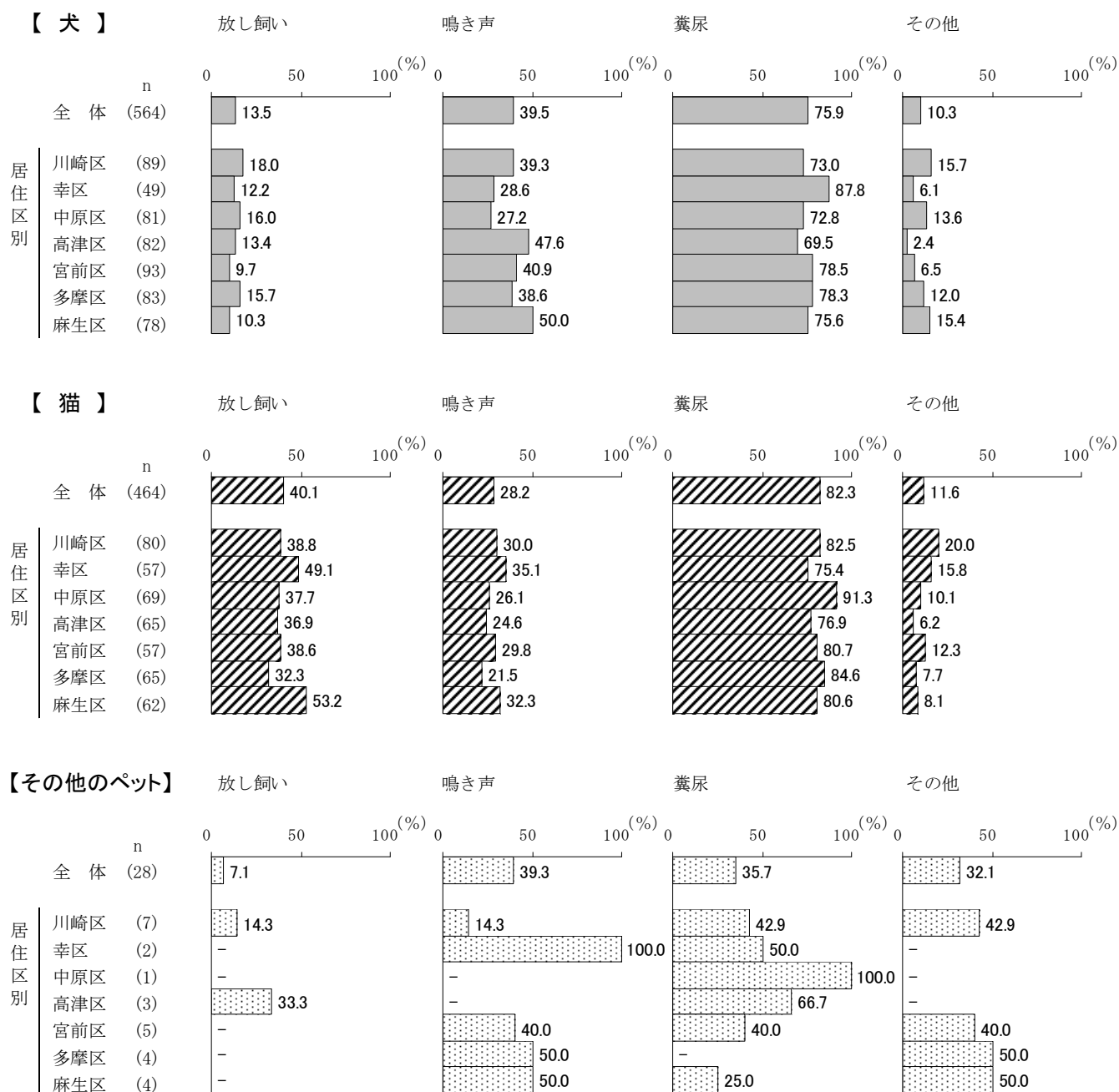
図表3-13 どのような迷惑を受けたか



どのような迷惑を受けたかについては、『犬』は、「糞尿」(75.9%)が7割台半ば、「鳴き声」(39.5%)がほぼ4割、「放し飼い」(13.5%)が1割台となっている。

『猫』は、「糞尿」(82.3%)が8割台、「放し飼い」(40.1%)がほぼ4割、「鳴き声」(28.2%)が2割台後半となっている。(図表3-13)

図表3-14 どのような迷惑を受けたか(居住区別)



居住区別では、『犬』について、「糞尿」は幸区(87.8%)が8割台後半と最も多くなっている。「鳴き声」は、麻生区(50.0%)、高津区(47.6%)が多くなっている。「放し飼い」は、川崎区(18.0%)が最も多くなっている。

『猫』については、「糞尿」は中原区(91.3%)が9割を超え最も多くなっている。「放し飼い」は、麻生区(53.2%)、幸区(49.1%)が多くなっている。「鳴き声」は、幸区(35.1%)が最も多くなっている。

『その他のペット』については、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表3-14)

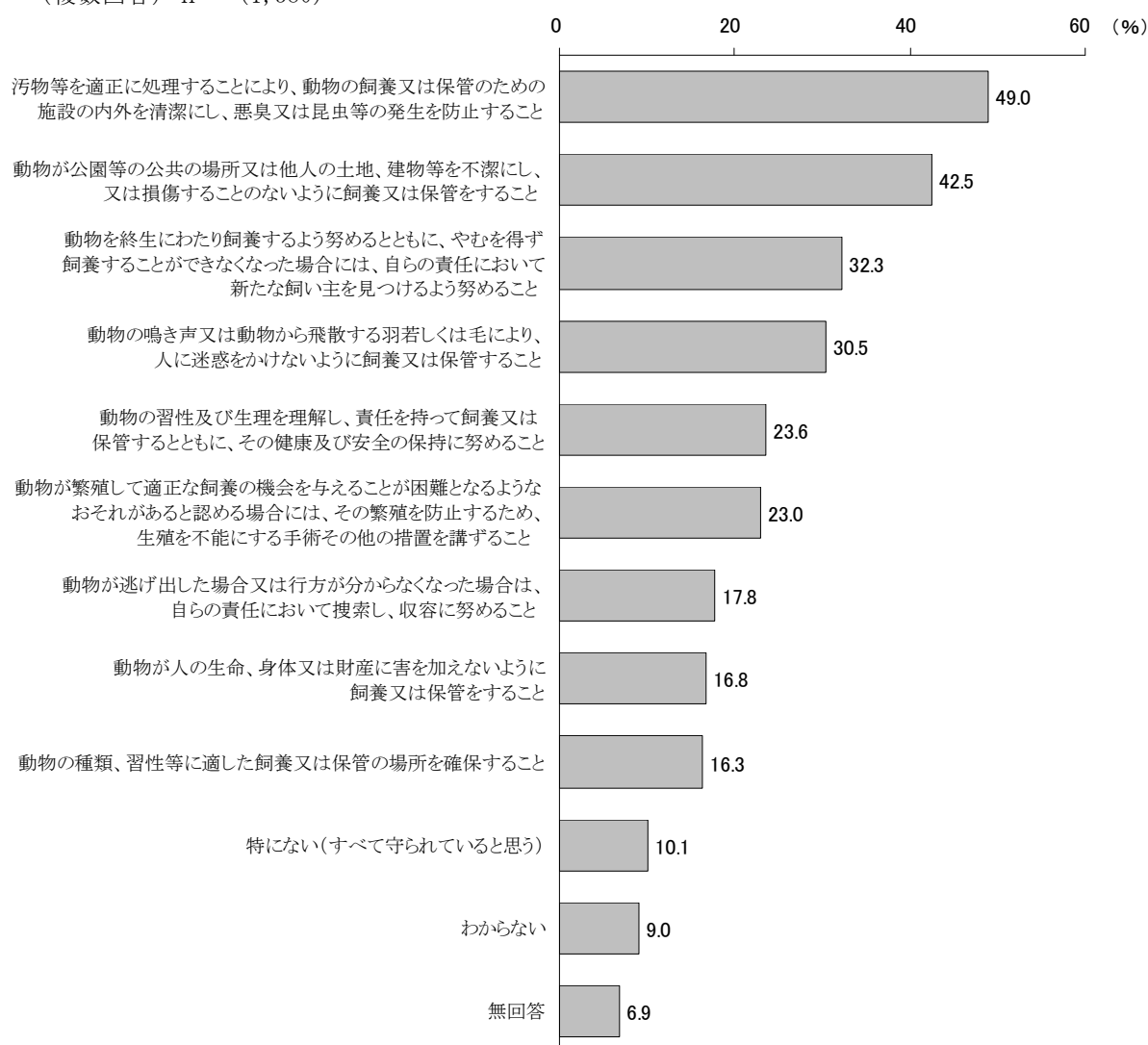
3-7 「川崎市動物の愛護及び管理に関する条例」のうち、守られていないと思うこと

◎「汚物等を適正に処理することにより、動物の飼養又は保管のための施設の内外を清潔にし、悪臭又は昆虫等の発生を防止すること」が49.0%

問14 近年、ペットに係る苦情や相談が増加しています。川崎市では、「川崎市動物の愛護及び管理に関する条例」で飼い主に守っていただきたいことを次の1～9のとおり規定していますが、この中で守られていないと感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

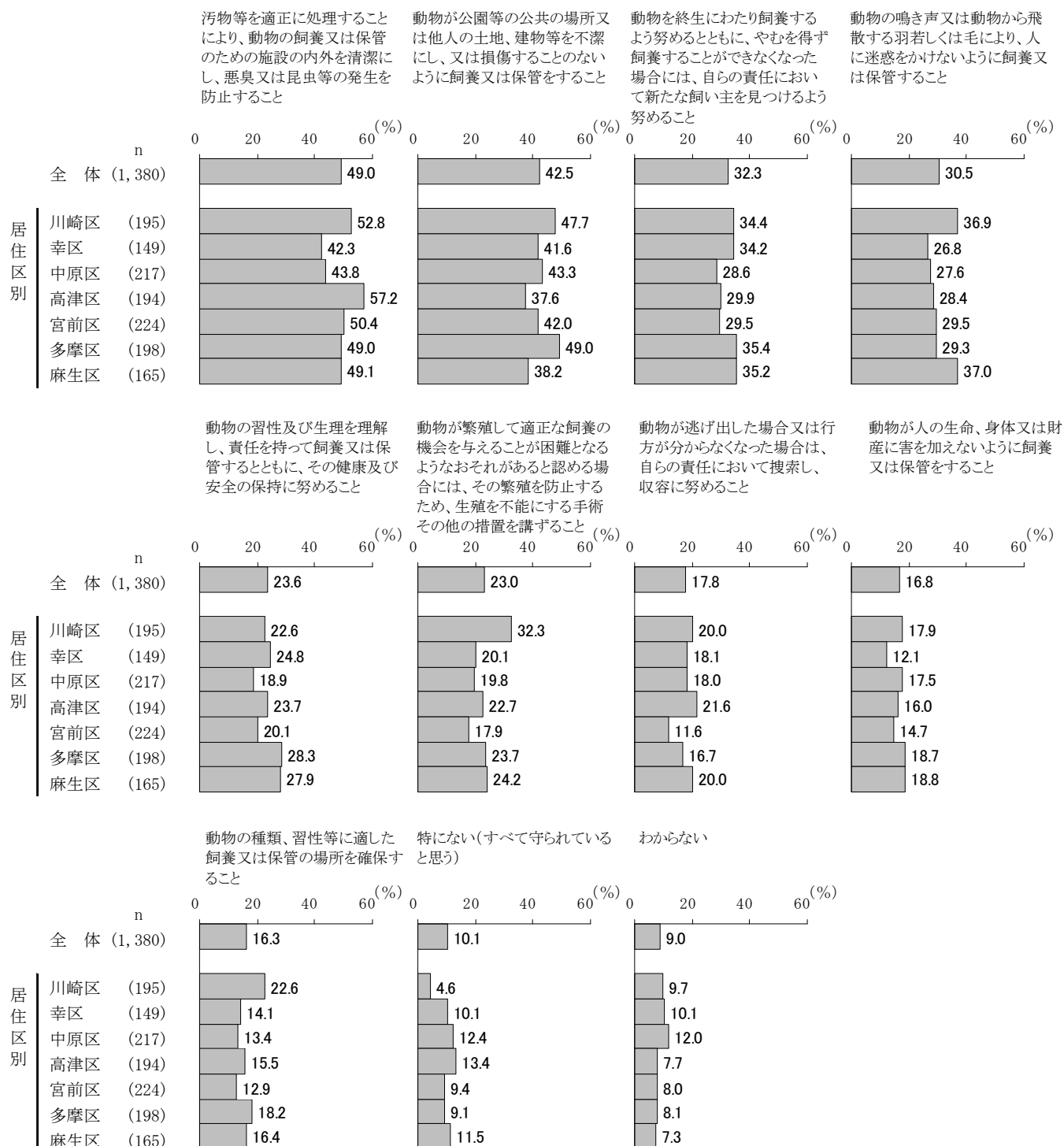
図表3-15 「川崎市動物の愛護及び管理に関する条例」のうち、守られていないと思うこと

(複数回答) n = (1,380)



「川崎市動物の愛護及び管理に関する条例」のうち、守られていないと思うことは、「汚物等を適正に処理することにより、動物の飼養又は保管のための施設の内外を清潔にし、悪臭又は昆虫等の発生を防止すること」(49.0%)が最も多く、次いで「動物が公園等の公共の場所又は他人の土地、建物等を不潔にし、又は損傷することのないように飼養又は保管をすること」(42.5%)が続いている。なお、「特にない(すべて守られていると思う)」は10.1%となっている。(図表3-15)

図表3-16 「川崎市動物の愛護及び管理に関する条例」のうち、守られていないと思うこと(居住区別)



居住区別では、「汚物等を適正に処理することにより、動物の飼養又は保管のための施設の内外を清潔にし、悪臭又は昆虫等の発生を防止すること」は、高津区(57.2%)が最も多くなっている。

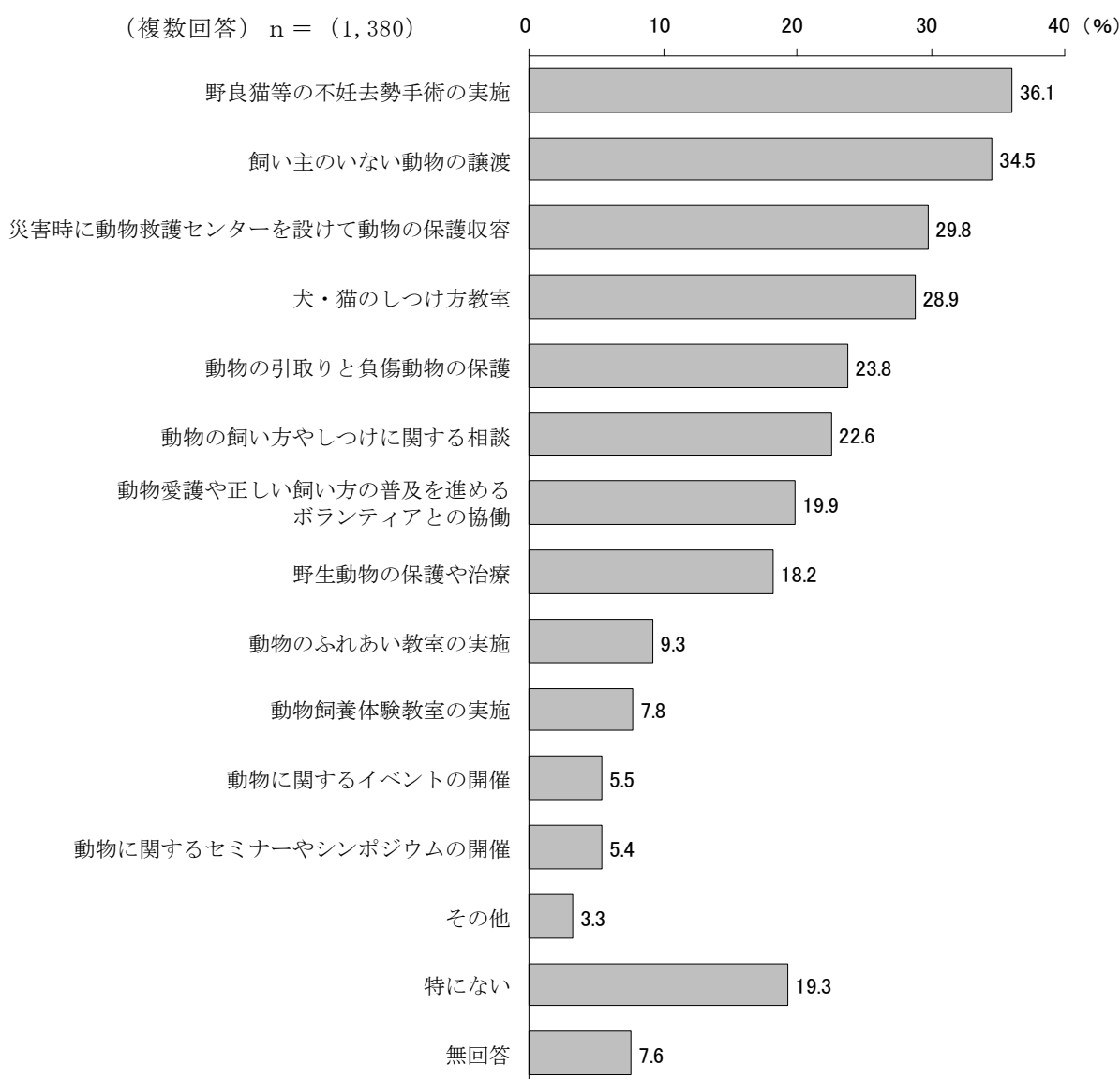
「動物が公園等の公共の場所又は他人の土地、建物等を不潔にし、又は損傷することのないように飼養又は保管をすること」は、多摩区(49.0%)、川崎区(47.7%)が多くなっている。「特にない(すべて守られていると思う)」は、川崎区(4.6%)が最も少なくなっている。(図表3-16)

3-8 今後さらに充実してほしい動物に係る業務

◎「野良猫等の不妊去勢手術の実施」が36.1%

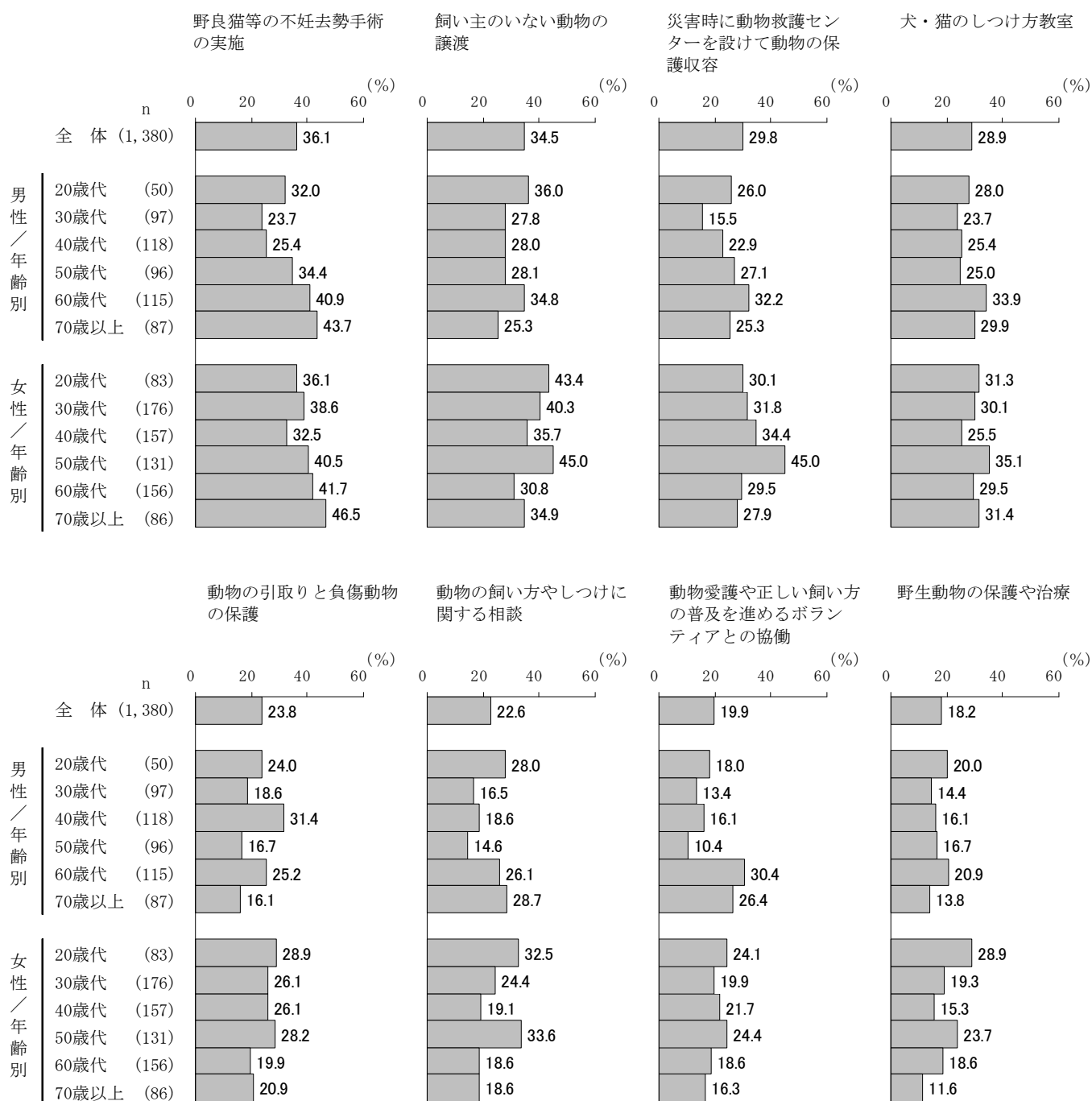
問15 川崎市では動物に係る業務の拠点施設として「動物愛護センター」を設置して、犬や猫等の譲渡、収容動物の健康管理、動物愛護の普及啓発などの業務を行っていますが、今後さらに充実してほしいものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-17 今後さらに充実してほしい動物に係る業務



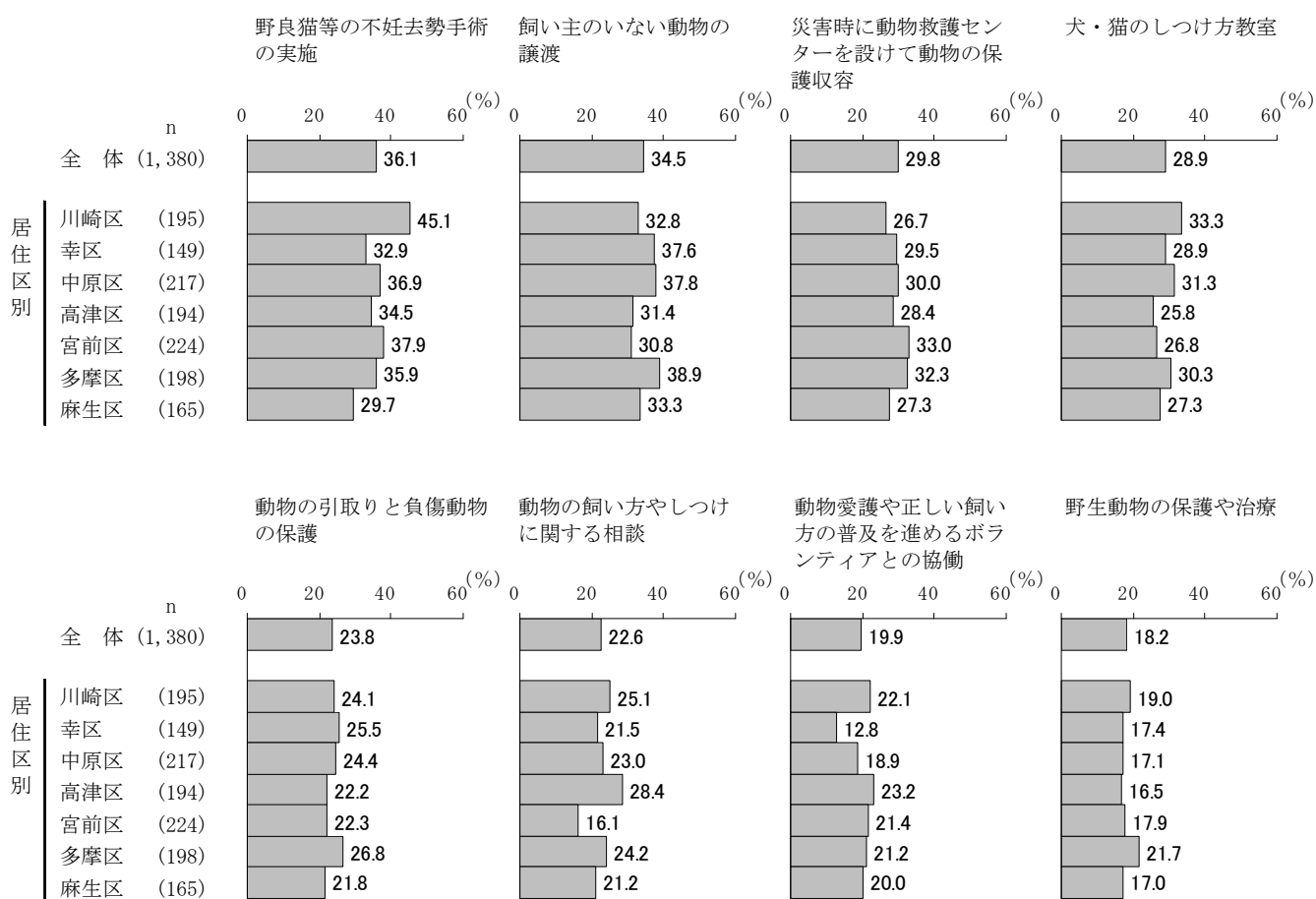
今後さらに充実してほしい動物に係る業務は、「野良猫等の不妊去勢手術の実施」(36.1%)が最も多く、次いで「飼い主のいない動物の譲渡」(34.5%)、「災害時に動物救護センターを設けて動物の保護収容」(29.8%)、「犬・猫のしつけ方教室」(28.9%)の順となっている。(図表3-17)

図表3-18 今後さらに充実してほしい動物に係る業務（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「野良猫等の不妊去勢手術の実施」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。「飼い主のいない動物の譲渡」は、男性では20歳代(36.0%)、女性では50歳代(45.0%)が最も多くなっている。「災害時に動物救護センターを設けて動物の保護収容」は、男性では60歳代(32.2%)、女性では50歳代(45.0%)が最も多くなっている。(図表3-18)

図表3-19 今後さらに充実してほしい動物に係る業務（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「野良猫等の不妊去勢手術の実施」は、川崎区（45.1%）が4割台半ばと最も多くなっている。（図表3-19）

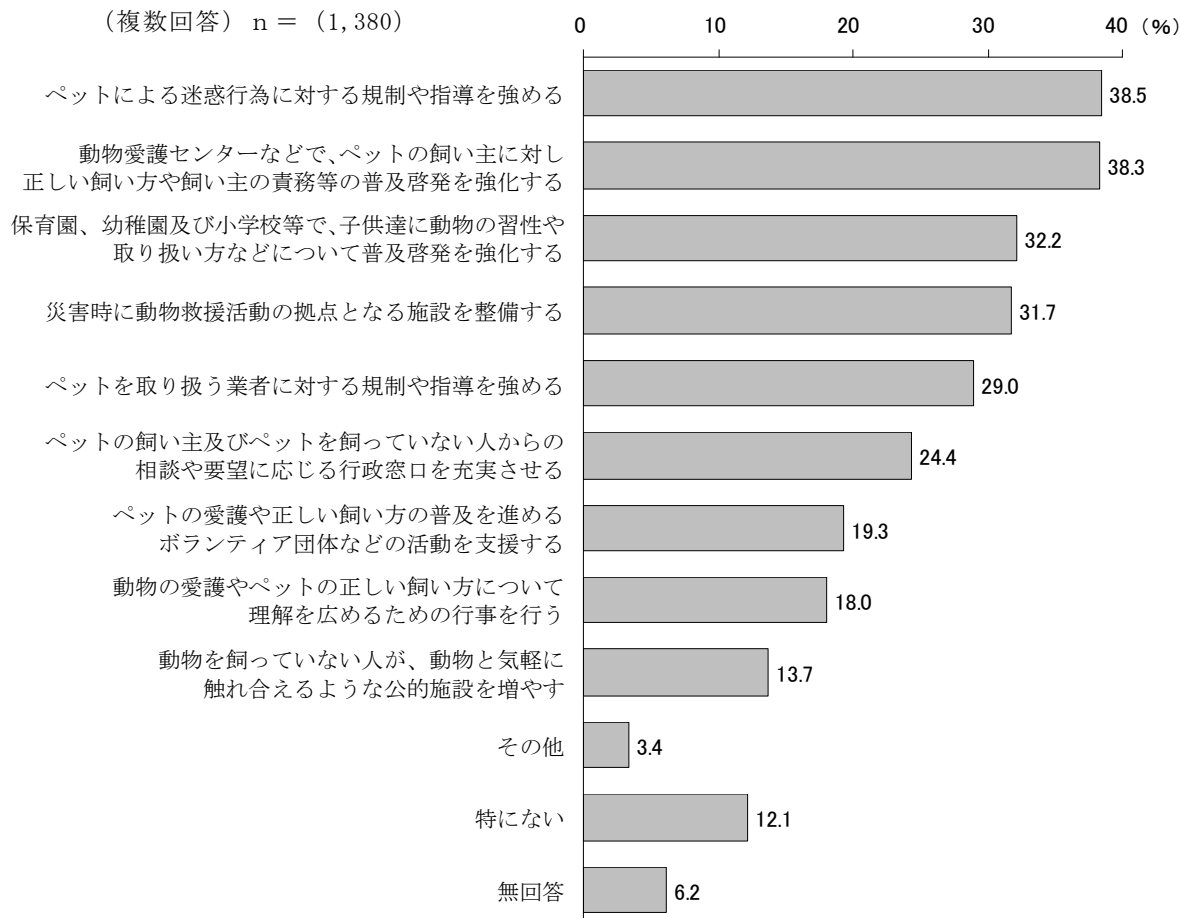
3-9 動物愛護行政を推進するために市が取り組むべきこと

◎「ペットによる迷惑行為に対する規制や指導を強める」が38.5%

問16 川崎市の動物愛護行政を推進するために、川崎市が取り組むべきことは何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

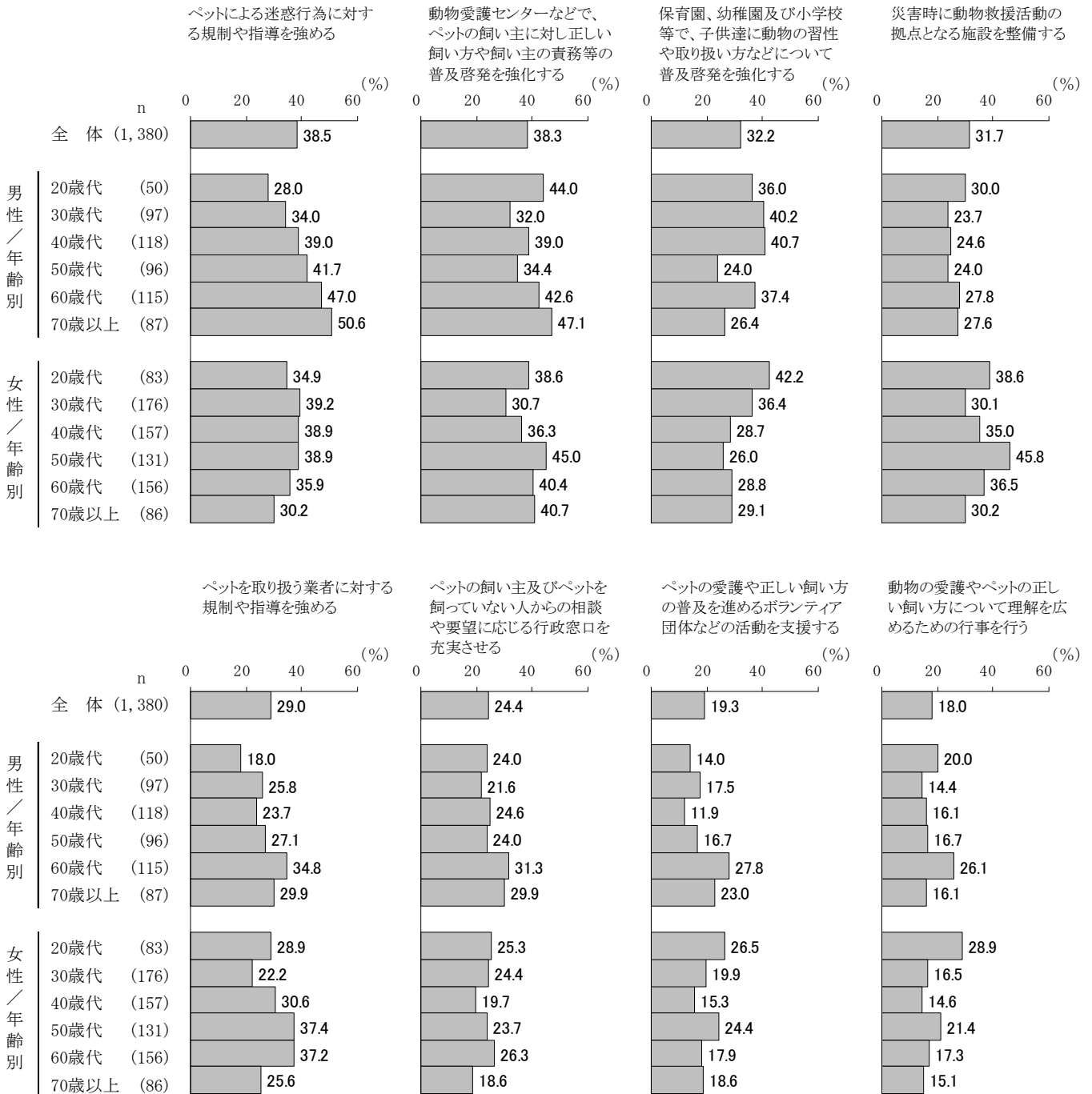
図表3-20 動物愛護行政を推進するために市が取り組むべきこと

(複数回答) n = (1,380)



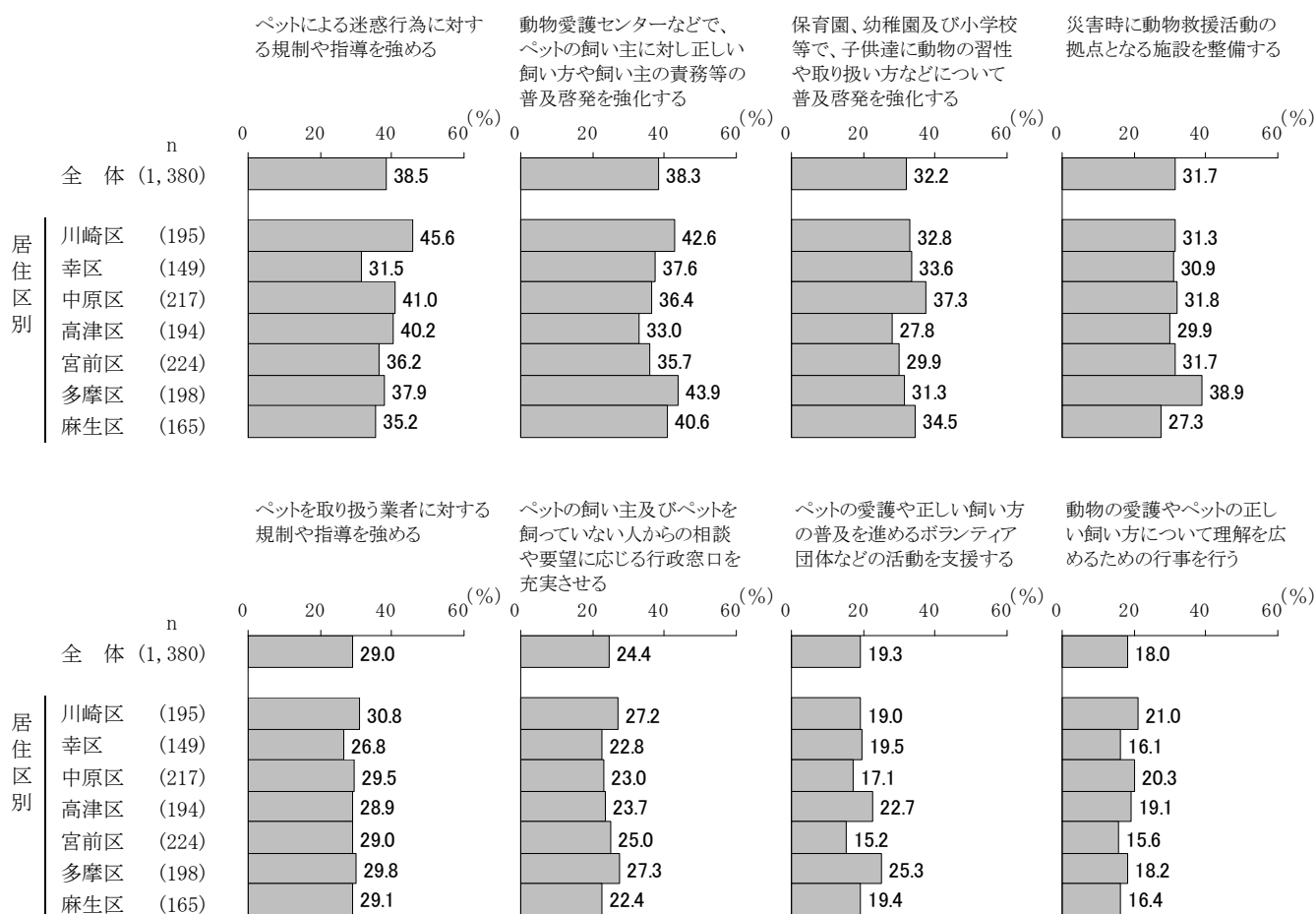
動物愛護行政を推進するために市が取り組むべきことについては、「ペットによる迷惑行為に対する規制や指導を強める」(38.5%)、「動物愛護センターなどで、ペットの飼い主に対し正しい飼い方や飼い主の責務等の普及啓発を強化する」(38.3%)が3割台後半と多くなっている。以下、「保育園、幼稚園及び小学校等で、子供達に動物の習性や取り扱い方などについて普及啓発を強化する」(32.2%)、「災害時に動物救援活動の拠点となる施設を整備する」(31.7%)、「ペットを取り扱う業者に対する規制や指導を強める」(29.0%)と続いている。(図表3-20)

図表3-21 動物愛護行政を推進するために市が取り組むべきこと（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、「ペットによる迷惑行為に対する規制や指導を強める」は、男性では年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっているが、女性ではすべての年代で3割台と大きな差異はみられない。「動物愛護センターなどで、ペットの飼い主に対し正しい飼い方や飼い主の責務等の普及啓発を強化する」は、男性では70歳以上(47.1%)、女性では50歳代(45.0%)が最も多くなっている。「保育園、幼稚園及び小学校等で、子供達に動物の習性や取り扱い方などについて普及啓発を強化する」は、男性では30歳代(40.2%)・40歳代(40.7%)、女性では20歳代(42.2%)が4割台と多くなっている。(図表3-21)

図表3-22 動物愛護行政を推進するために市が取り組むべきこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「ペットによる迷惑行為に対する規制や指導を強める」は、川崎区（45.6%）が4割台半ばと最も多くなっている。「動物愛護センターなどで、ペットの飼い主に対し正しい飼い方や飼い主の責務等の普及啓発を強化する」は、多摩区（43.9%）が最も多くなっている。「保育園、幼稚園及び小学校等で、子供達に動物の習性や取り扱い方などについて普及啓発を強化する」は、中原区（37.3%）が最も多くなっている。「災害時に動物救援活動の拠点となる施設を整備する」は、多摩区（38.9%）が最も多くなっている。（図表3-22）

4 感染症情報センターについて

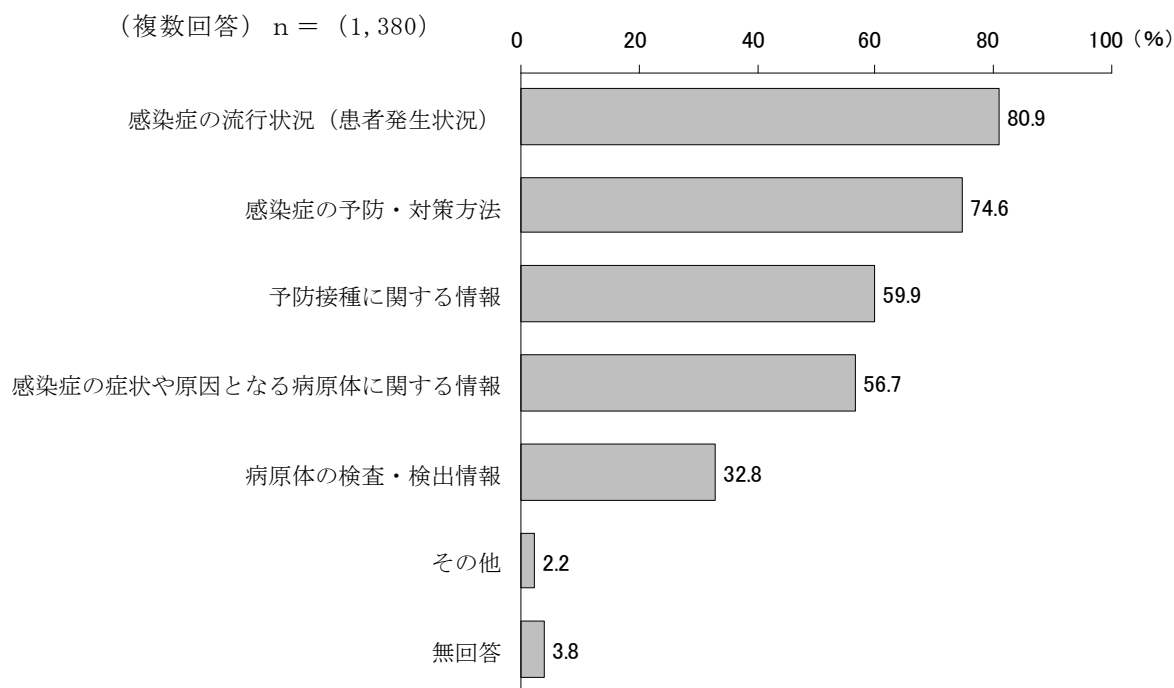
4-1 興味のある感染症の情報について

◎感染症の流行状況（患者発生状況）が80.9%

問17 あなたは、感染症※に関する情報の中で、特にどのような情報に興味がありますか。（あてはまるものすべてに○）

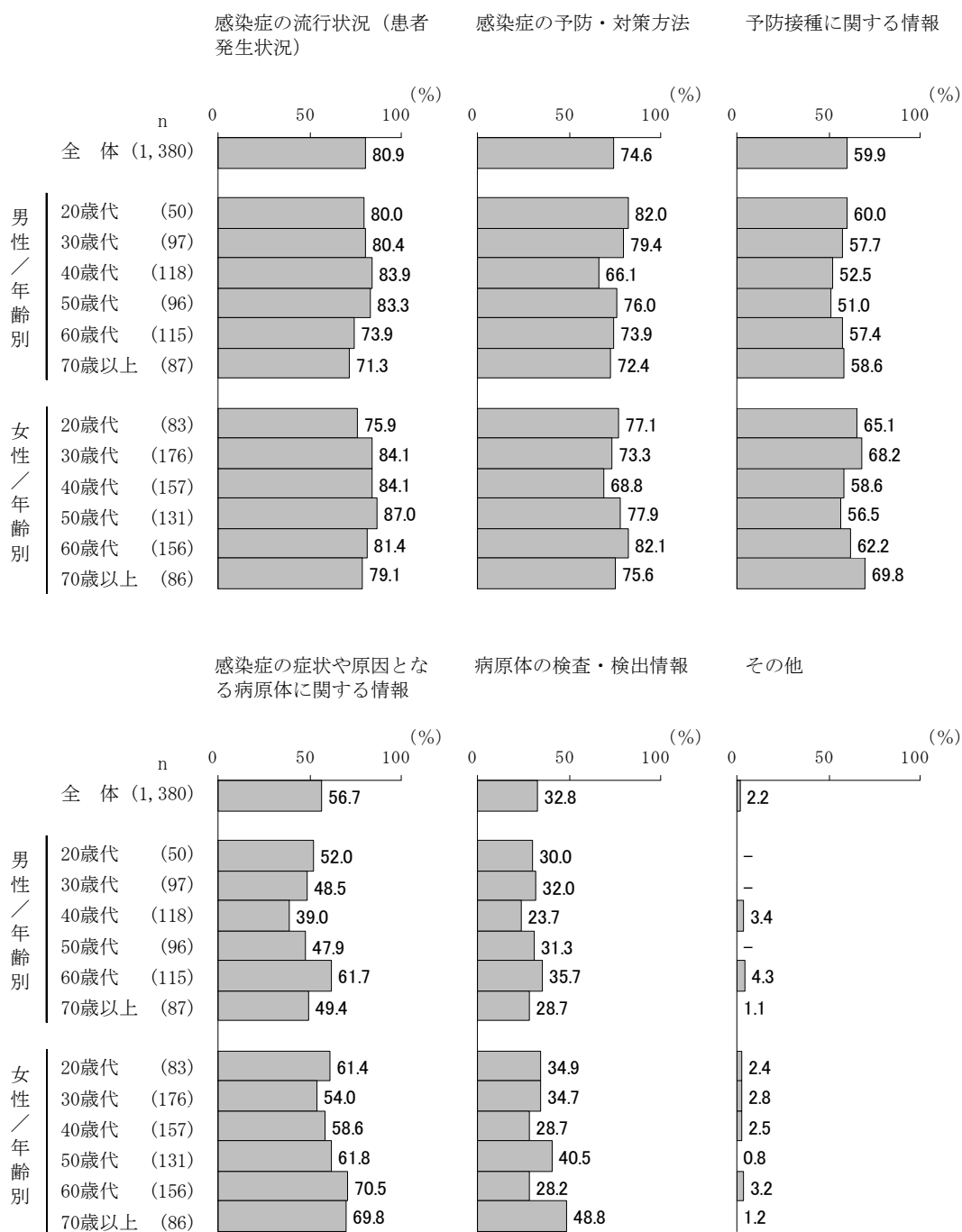
※「感染症」とは、ウイルスや細菌などが原因の病気のこと、インフルエンザ・腸管出血性大腸菌感染症（O157等）・麻しん（はしか）等が代表的です。

図表4-1 興味のある感染症の情報について



興味のある感染症の情報については、「感染症の流行状況（患者発生状況）」（80.9%）が8割を超え最も多く、次いで「感染症の予防・対策方法」（74.6%）が7割台半ばで続いている。以下、「予防接種に関する情報」（59.9%）、「感染症の症状や原因となる病原体に関する情報」（56.7%）、「病原体の検査・検出情報」（32.8%）の順となっている。（図表4-1）

図表4-2 興味のある感染症の情報について(性/年齢別)



性/年齢別では、「感染症の流行状況(患者発生状況)」は、男性では40歳代(83.9%)・50歳代(83.3%)が多く、女性では50歳代(87.0%)が最も多くなっている。「感染症の予防・対策方法」は、男性では20歳代(82.0%)、女性では60歳代(82.1%)がそれぞれ8割を超え最も多くなっている。「予防接種に関する情報」は、各年代ともに男性より女性の方が割合が多くなっている。(図表4-2)

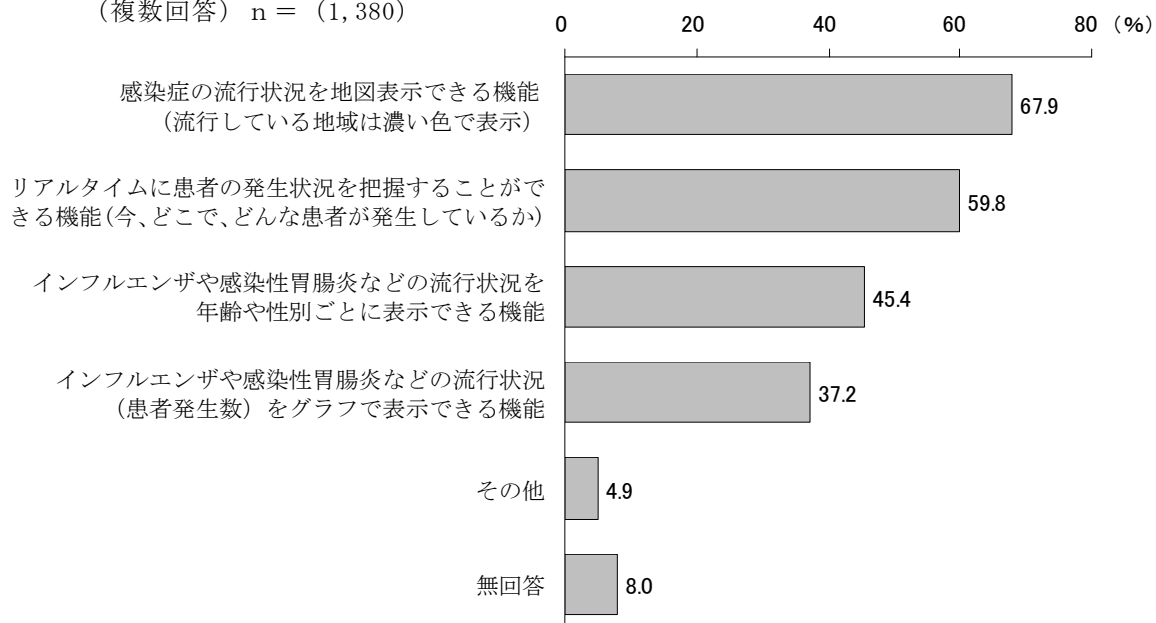
4-2 新ホームページにあると便利な機能について

◎「感染症の流行状況を地図表示できる機能(流行している地域は濃い色で表示)」が67.9%

問18 「感染症情報センター」の新たなホームページを立ち上げる予定ですが、あると便利だと思う機能は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

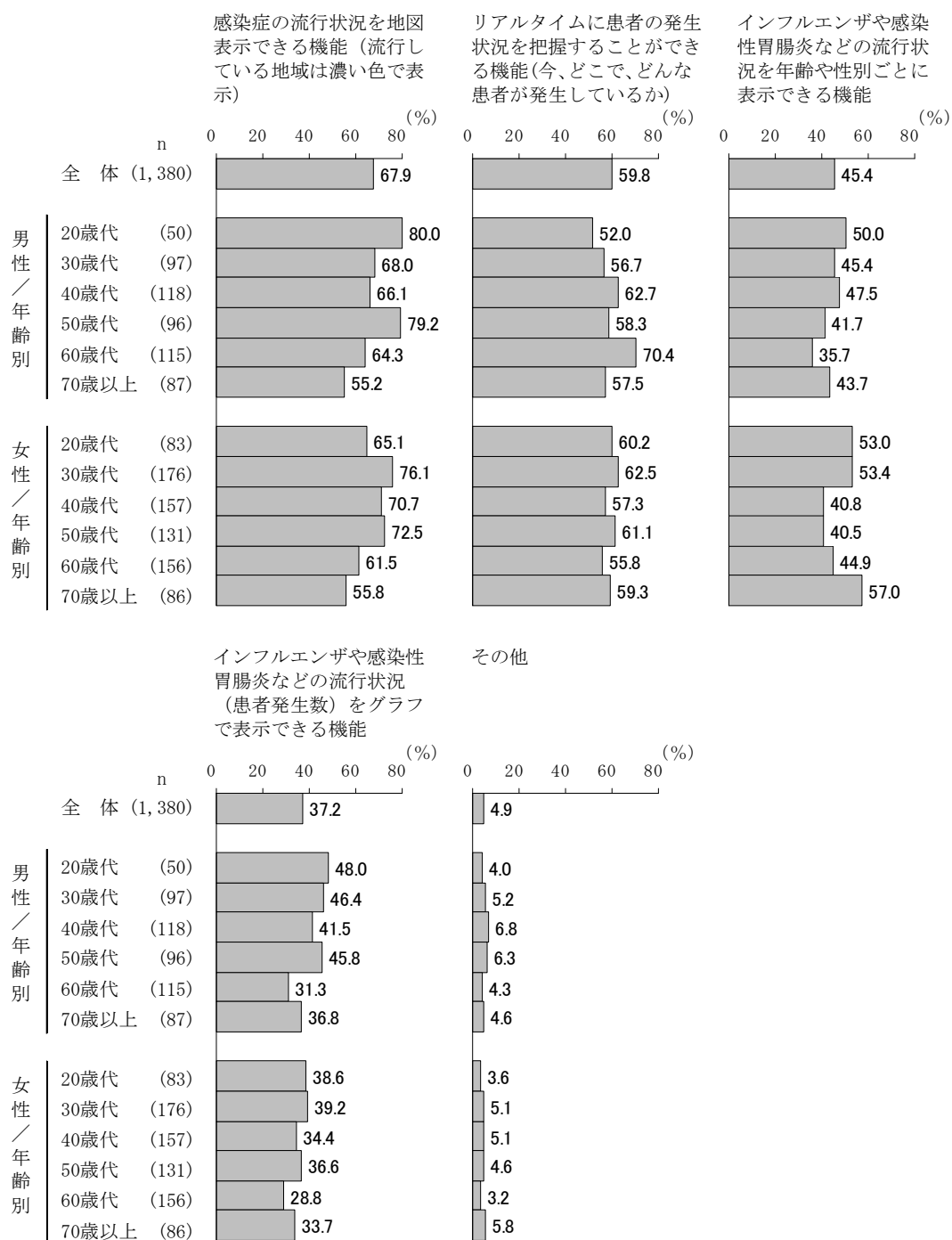
図表4-3 新ホームページにあると便利な機能について

(複数回答) n = (1,380)



新ホームページにあると便利な機能については、「感染症の流行状況を地図表示できる機能(流行している地域は濃い色で表示)」(67.9%)が6割台後半と最も多くなっている。次いで、「リアルタイムに患者の発生状況を把握することができる機能(今、どこで、どんな患者が発生しているか)」(59.8%)、「インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行状況を年齢や性別ごとに表示できる機能」(45.4%)、「インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行状況(患者発生数)をグラフで表示できる機能」(37.2%)の順となっている。(図表4-3)

図表4-4 新ホームページにあると便利な機能について（性／年齢別）



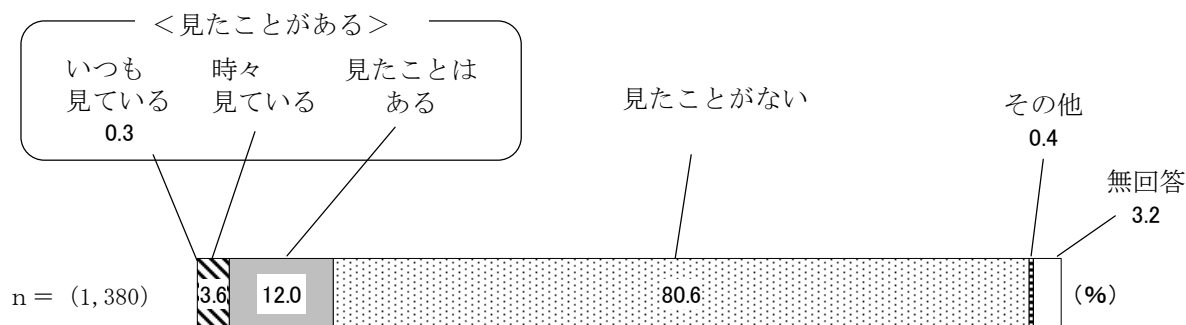
性／年齢別では、「感染症の流行状況を地図表示できる機能（流行している地域は濃い色で表示）」は、男性では20歳代（80.0%）・50歳代（79.2%）、女性では30歳代（76.1%）が多くなっている。「リアルタイムに患者の発生状況を把握することができる機能（今、どこで、どんな患者が発生しているか）」は、男性60歳代（70.4%）が唯一7割を超え最も多くなっている。「インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行状況を年齢や性別ごとに表示できる機能」は、男性では20歳代（50.0%）、女性では20歳代（53.0%）・30歳代（53.4%）・70歳以上（57.0%）が5割台と多くなっている。（図表4-4）

4-3 感染症情報センターの情報発信について

◎「見たことがない」が80.6%

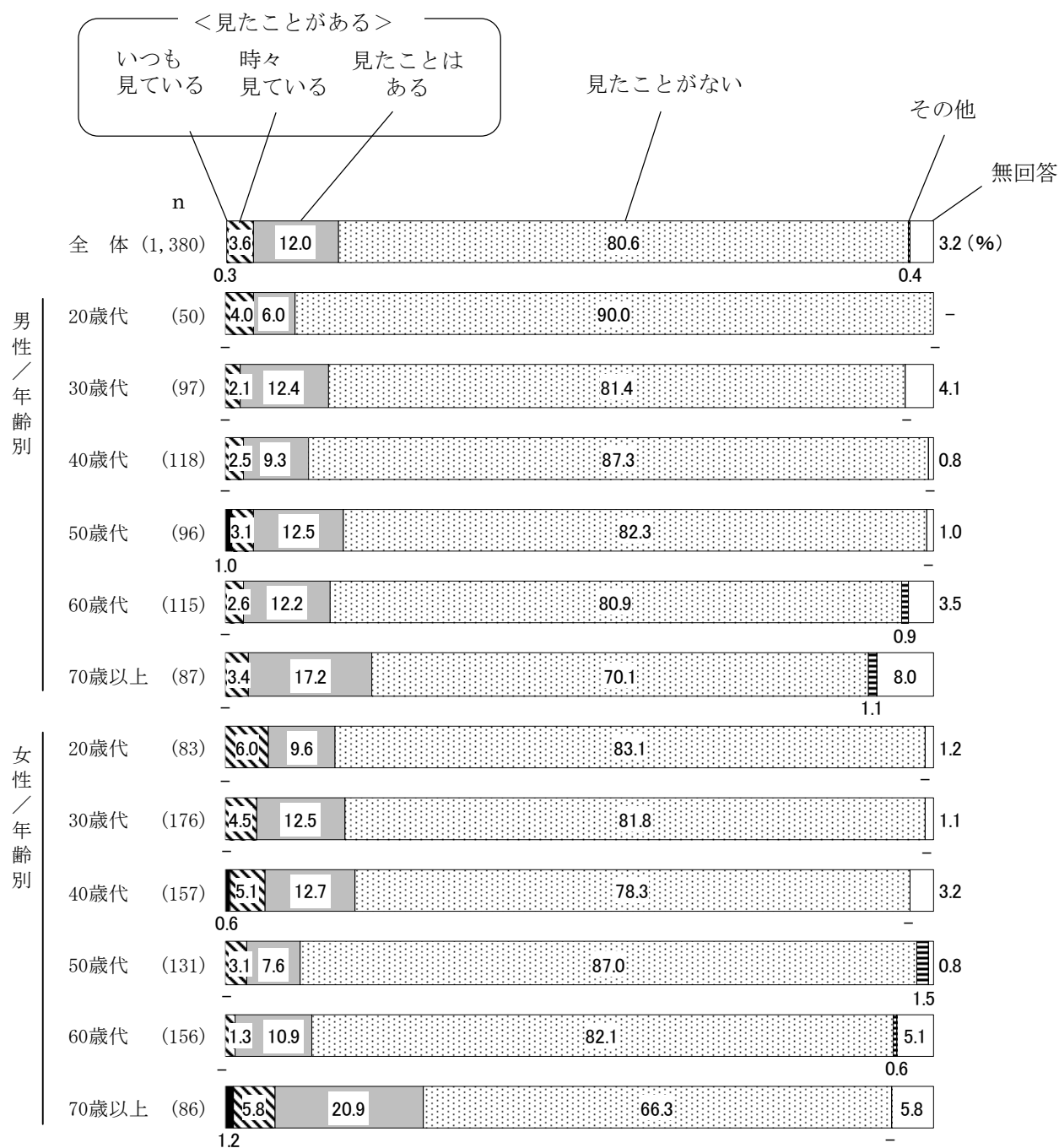
問19 「感染症情報センター」では、毎週、感染症に関する情報を収集・解析し、感染症情報（「感染症情報」、「今、何の病気が流行しているか！」等）を作成して、ポスター掲示やホームページを通じて発信していますが、今までに見たことはありますか。（○は1つだけ）

図表4-5 感染症情報センターの情報発信について



感染症情報センターの情報発信については、「見たことがない」(80.6%)がほぼ8割と多くなっている。一方、「いつも見ている」(0.3%)、「時々見ている」(3.6%)、「見たことはある」(12.0%)をあわせた<見たことがある>は、15.9%となっている。(図表4-5)

図表4-6 感染症情報センターの情報発信について(性/年齢別)



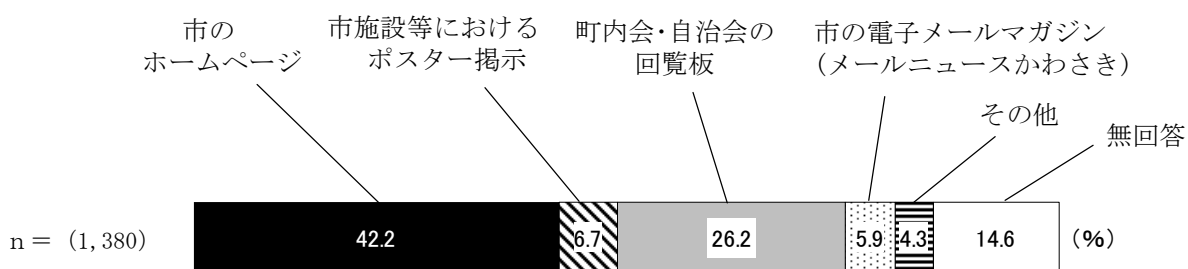
性/年齢別では、「いつも見ている」、「時々見ている」、「見たことはある」をあわせて<見たことがある>は、男女ともに70歳以上が2割を超え最も多くなっている。(図表4-6)

4-4 感染症に関する情報源で最も情報を得やすいと思うもの

◎「市のホームページ」が42.2%

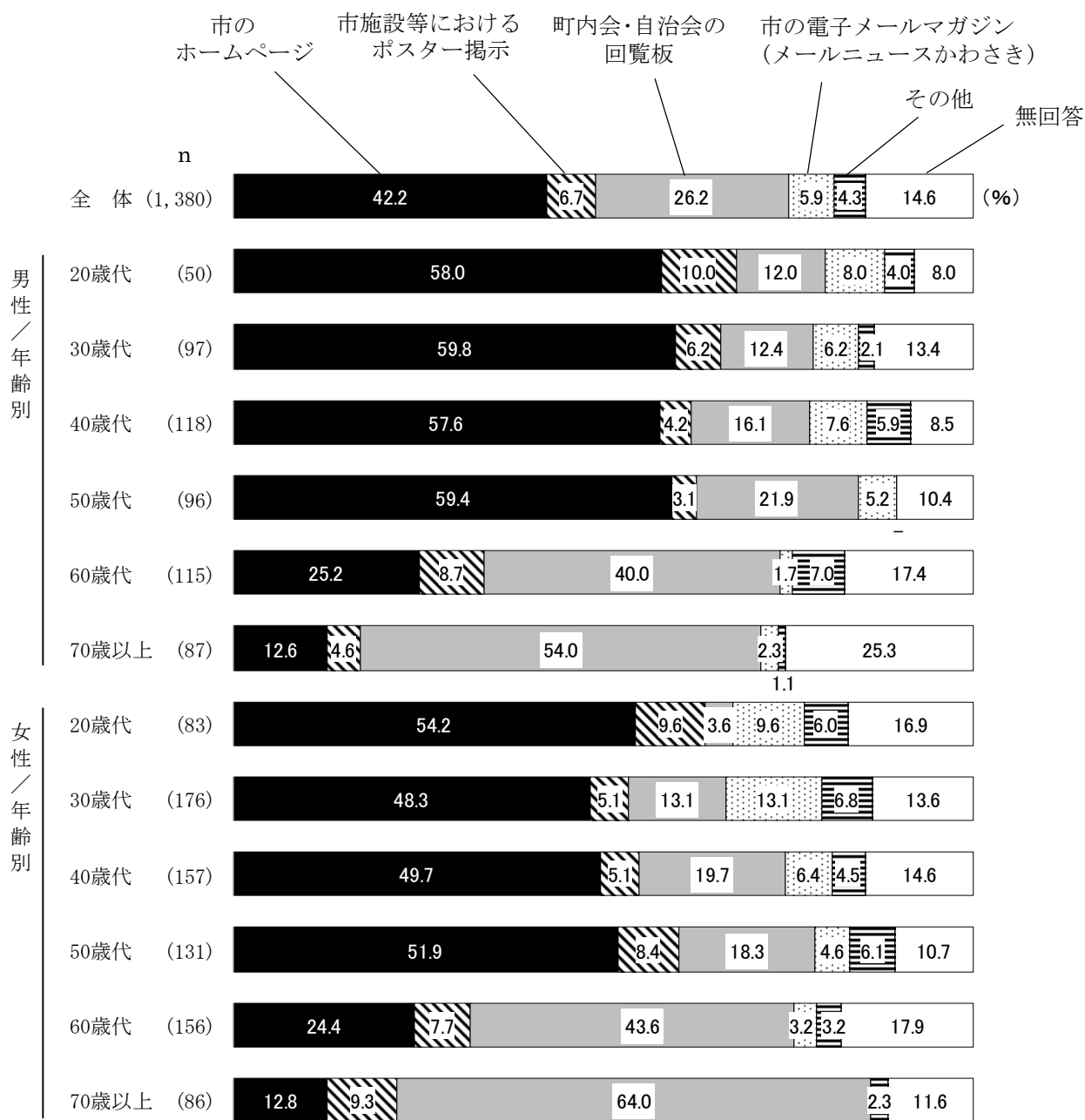
問20 川崎市の感染症に関する情報を知りたいとき、最も情報を得やすいと思うものは何ですか。(〇は1つだけ)

図表4-7 感染症に関する情報源で最も情報を得やすいと思うもの



感染症に関する情報源で最も情報を得やすいと思うものについては、「市のホームページ」(42.2%)が4割を超え最も多く、次いで「町内会・自治会の回覧板」(26.2%)が2割台半ばとなっている。以下、「市施設等におけるポスター掲示」(6.7%)、「市の電子メールマガジン(メールニュースかわさき)」(5.9%)と続いている。(図表4-7)

図表4-8 感染症に関する情報源で最も情報を得やすいと思うもの(性/年齢別)



性/年齢別では、男女ともに20~50歳代では「市のホームページ」が最も多く、60歳代・70歳以上では「町内会・自治会の回覧板」が最も多くなっている。(図表4-8)

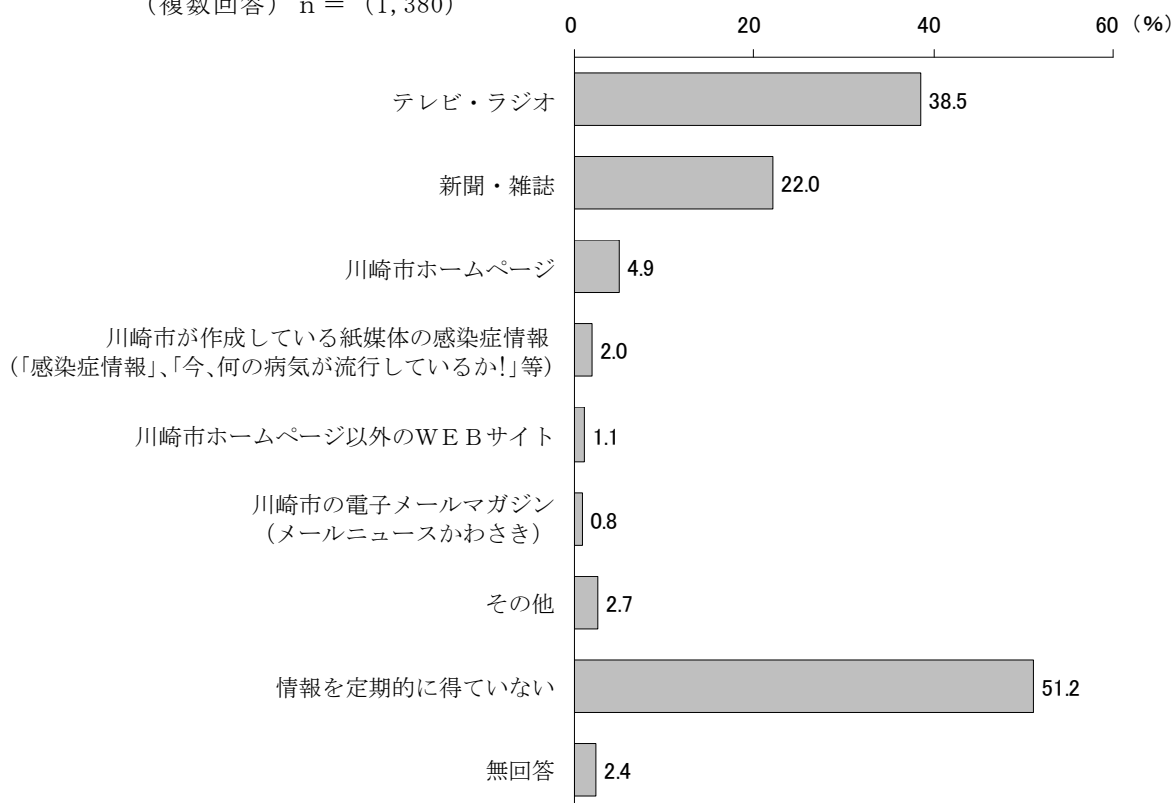
4-5 感染症の流行状況に関する情報源

◎「テレビ・ラジオ」が38.5%

問21 あなたは、感染症の流行状況に関する情報を定期的に得ていますか。定期的に得ている場合は、何から得ているか1～7の中からお選びください。定期的に得ていない場合は、8をお選びください。(あてはまるものすべてに○)

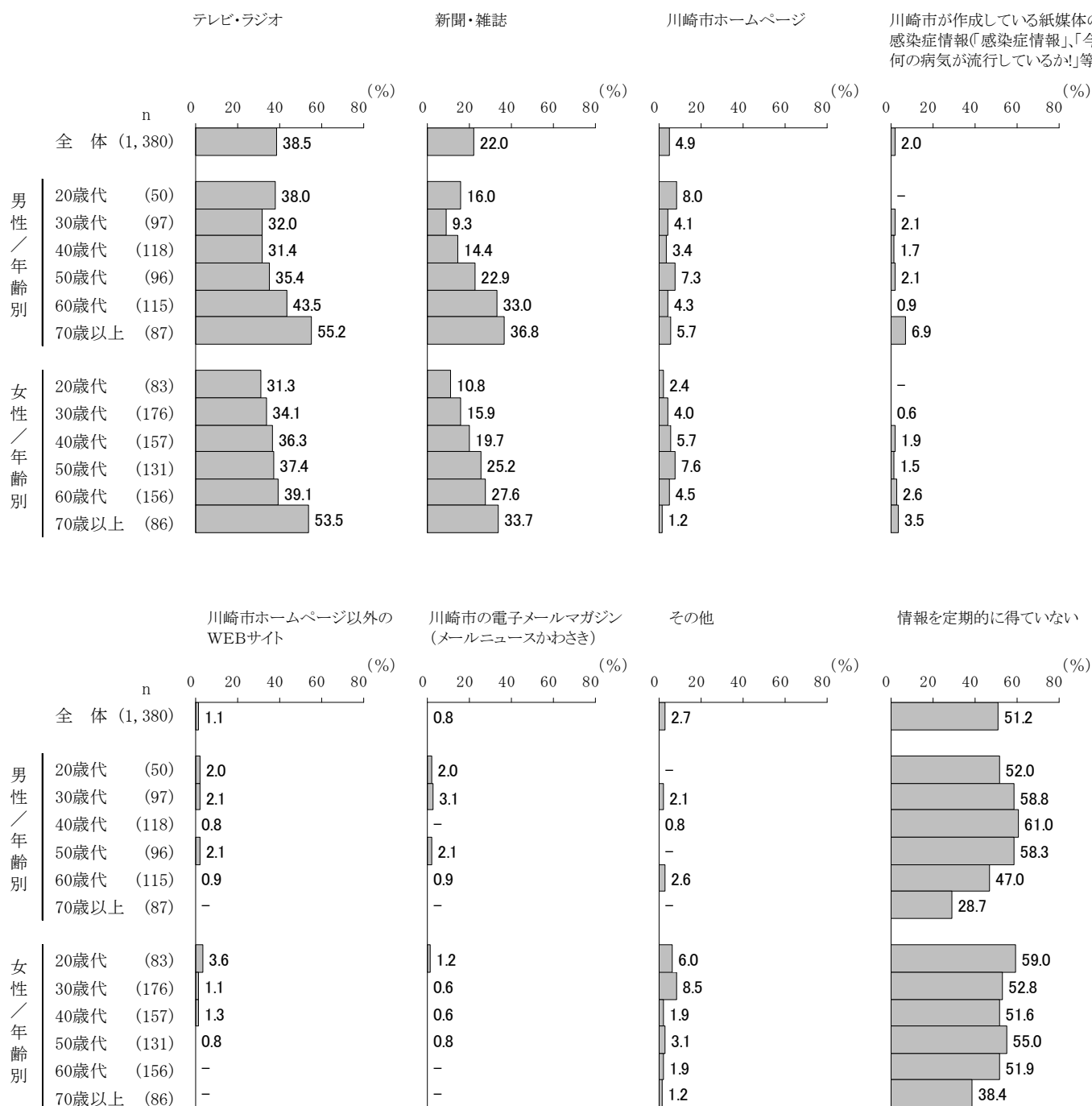
図表4-9 感染症の流行状況に関する情報源

(複数回答) n = (1,380)



感染症の流行状況に関する情報源については、「情報を定期的に得ていない」(51.2%)が5割を超えている。情報を得ている人の情報源としては、「テレビ・ラジオ」(38.5%)が3割台後半、「新聞・雑誌」(22.0%)が2割台前半などとなっている。(図表4-9)

図表4-10 感染症の流行状況に関する情報源(性/年齢別)



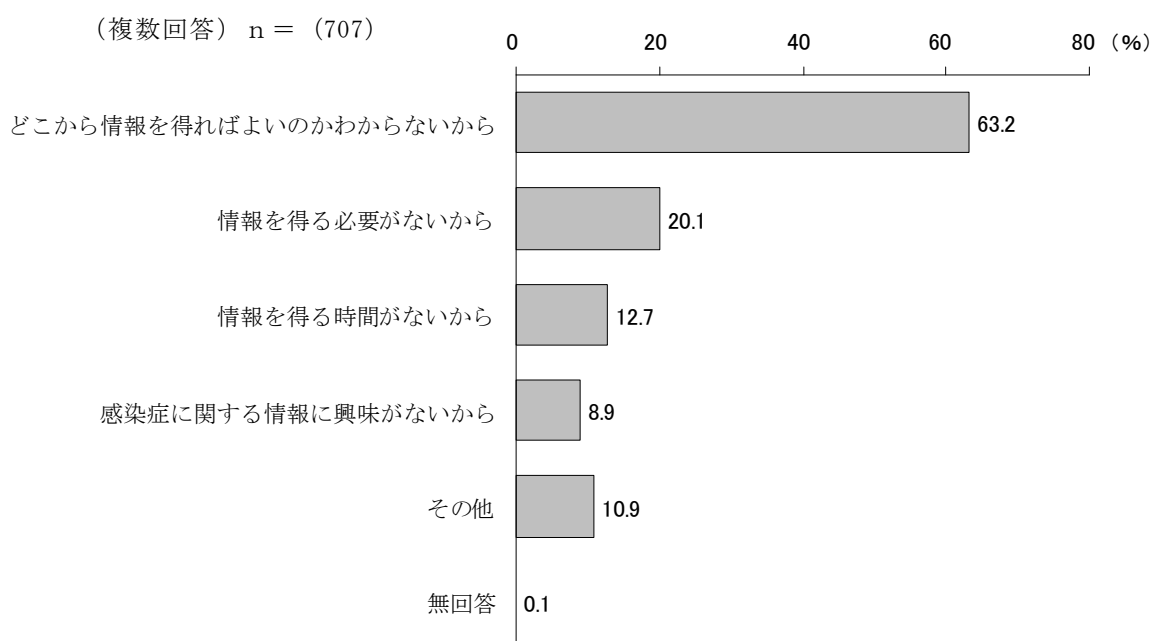
性/年齢別では、「情報を定期的に得ていない」は、男女ともに70歳以上が最も少なくなっている。「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。(図表4-10)

4-6 感染症の流行状況の情報を得ていない理由

◎「どこから情報を得ればよいのかわからないから」が63.2%

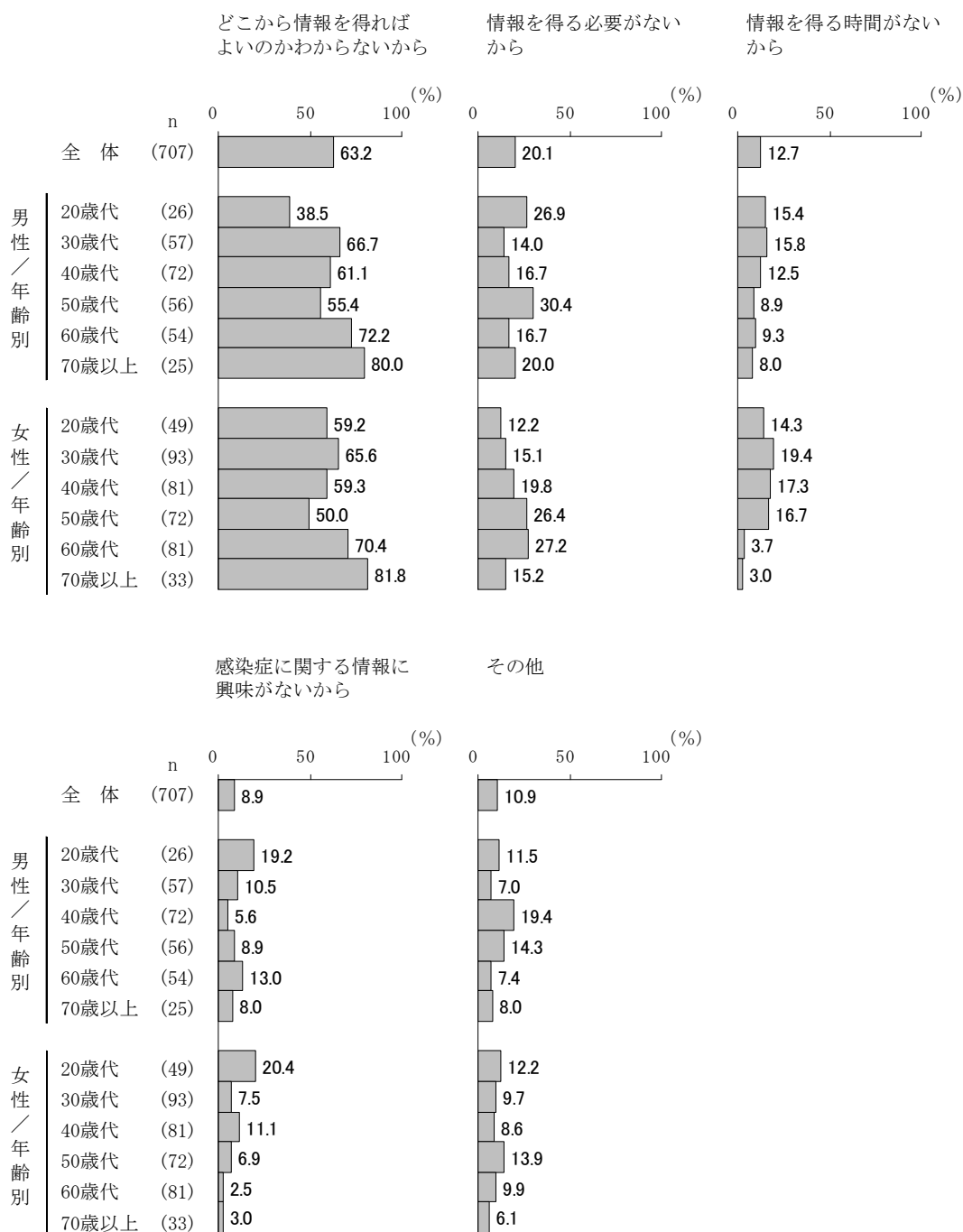
問21-1 (問21で「8 情報を定期的に得ていない」と回答された方にうかがいます。)
情報を得ていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表4-11 感染症の流行状況の情報を得ていない理由



感染症の流行状況の情報を得ていない理由は、「どこから情報を得ればよいのかわからないから」(63.2%)が6割を超え最も多くなっている。次いで、「情報を得る必要がないから」(20.1%)、「情報を得る時間がないから」(12.7%)、「感染症に関する情報に興味がないから」(8.9%)の順となっている。(図表4-11)

図表4-12 感染症の流行状況の情報を得ていない理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「どこから情報を得ればよいのかわからないから」は、男女ともに60歳代が7割台、70歳以上が8割台と多くなっている。「情報を得る必要がないから」は、男性では50歳代(30.4%)、女性では50歳代(26.4%)・60歳代(27.2%)が多くなっている。「感染症に関する情報に興味がないから」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。(図表4-12)

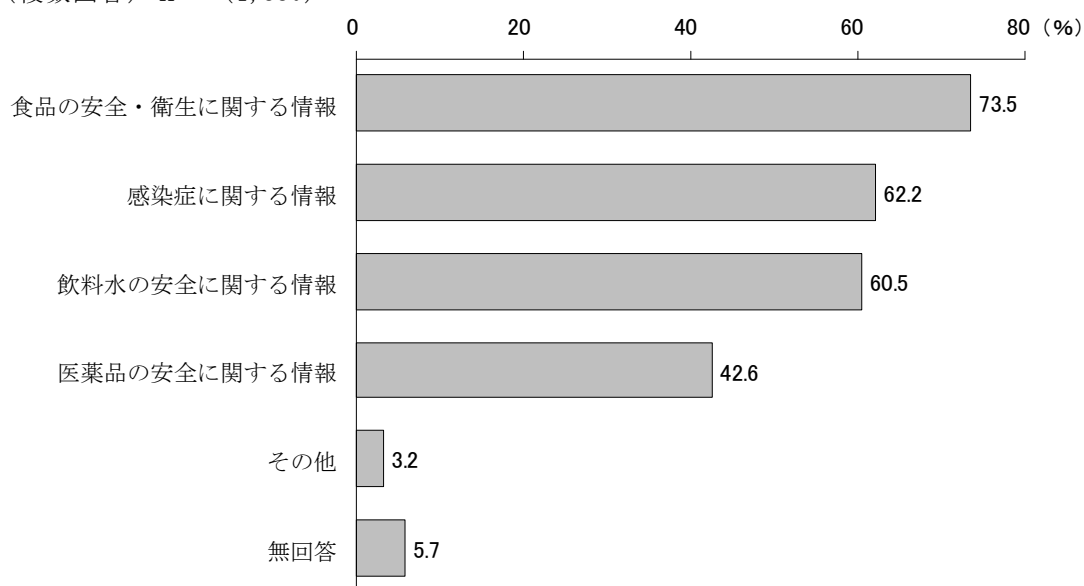
4-7 川崎市健康安全研究所が提供する情報で興味のあるもの

◎「食品の安全・衛生に関する情報」が73.5%

問 22 「川崎市健康安全研究所」では、感染症に関する情報だけでなく、健康や公衆衛生に関する情報の解析と提供を行う予定ですが、どの分野に興味がありますか。(あてはまるものすべてに○)

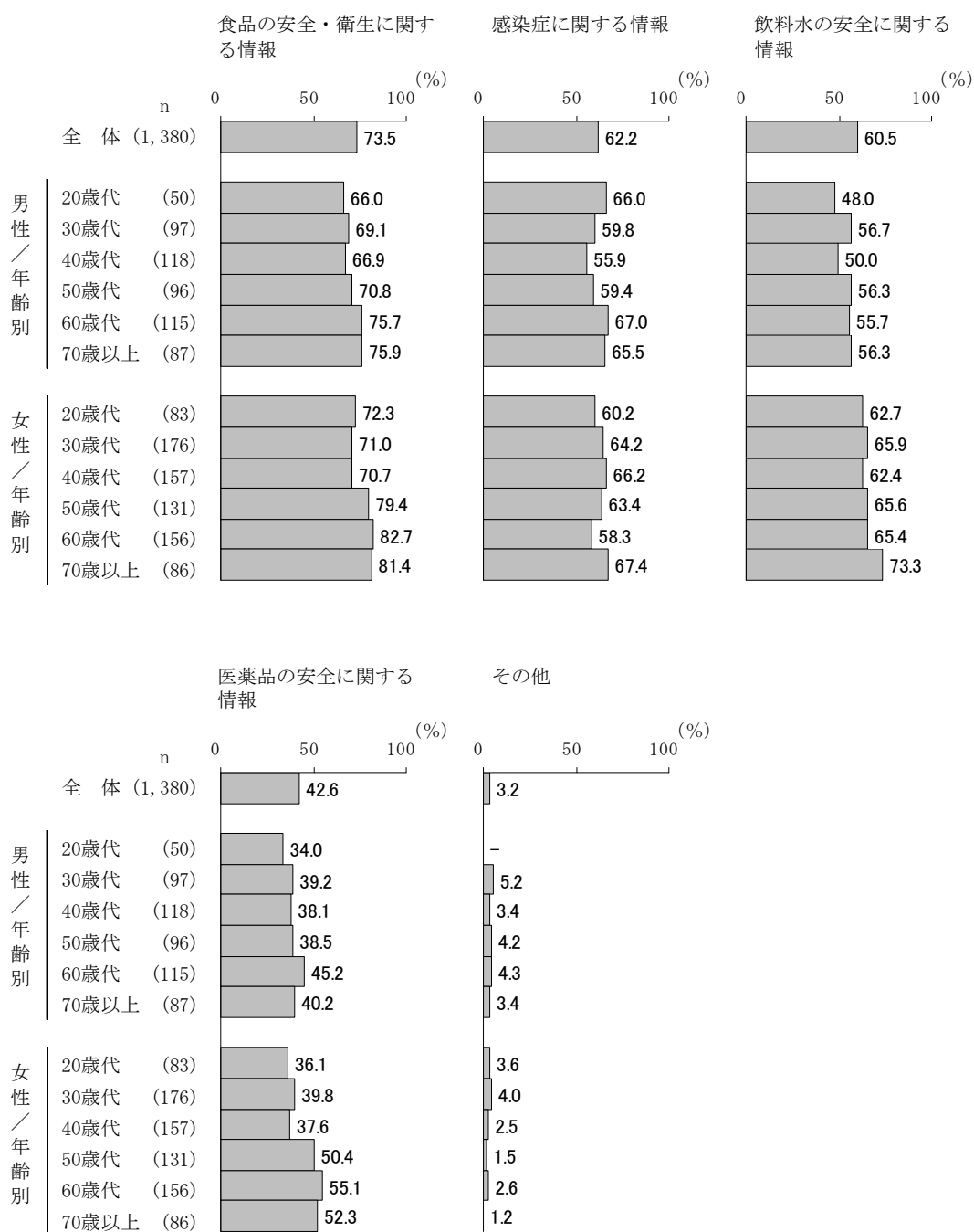
図表 4-13 川崎市健康安全研究所が提供する情報で興味のあるもの

(複数回答) n = (1,380)



川崎市健康安全研究所が提供する情報で興味のあるものについては、「食品の安全・衛生に関する情報」(73.5%)が7割を超え最も多く、次いで「感染症に関する情報」(62.2%)、「飲料水の安全に関する情報」(60.5%)が6割台が続いている。(図表4-13)

図表4-14 川崎市健康安全研究所が提供する情報で興味のあるもの(性/年齢別)



性/年齢別では、「食品の安全・衛生に関する情報」は、すべての年代で男性より女性の方が多くなっている。「飲料水の安全に関する情報」は、女性70歳以上が唯一7割を超え最も多くなっている。(図表4-14)

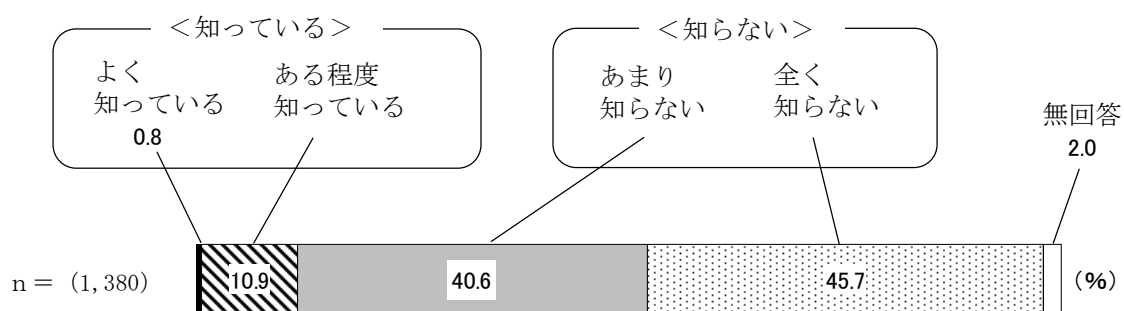
5 特定非営利活動法人(NPO法人)等への寄付促進について

5-1 市内で活動しているNPO法人の活動などの認知度

◎<知らない>が86.3%

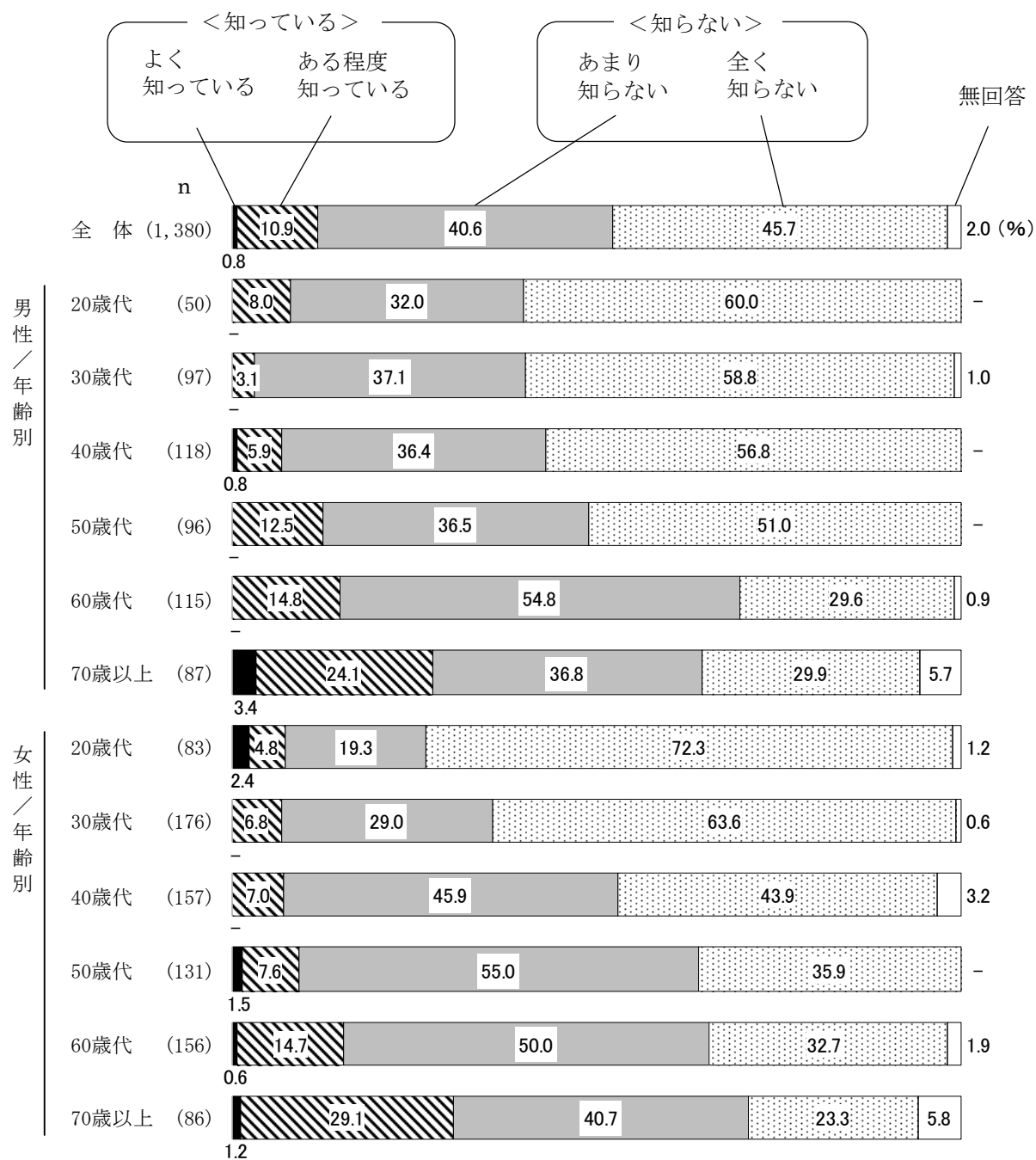
問23 市内で活動しているNPO法人の活動などについて、どの程度ご存知ですか。(〇は1つだけ)

図表5-1 市内で活動しているNPO法人の活動などの認知度



市内で活動しているNPO法人の活動などの認知度は、「よく知っている」(0.8%)と「ある程度知っている」(10.9%)をあわせた<知っている>が11.7%となっている。一方、「あまり知らない」(40.6%)と「全く知らない」(45.7%)をあわせた<知らない>は86.3%となっている。(図表5-1)

図表5-2 市内で活動しているNPO法人の活動などの認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせて<知っている>は、性別による差はほとんどないが、おおむね年齢が上がるほど割合が多くなっており、男性70歳以上で27.5%、女性70歳以上で30.3%となっている。また、「全く知らない」は、女性20歳代が7割を超え最も多くなっている。(図表5-2)

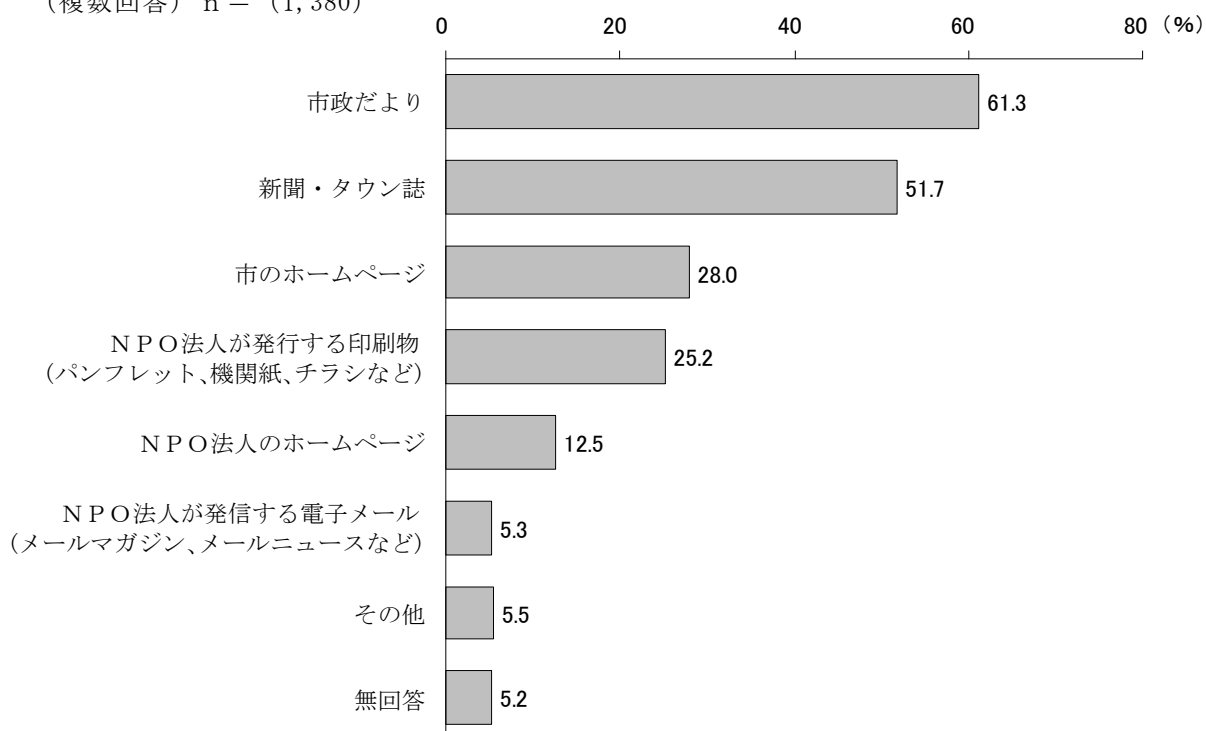
5-2 NPO法人に関する情報提供に効果的だと思う媒体

◎「市政だより」が61.3%

問24 NPO法人に関する情報は、これまで市のホームページなどを通じて発信してきました。今後、NPO法人の活動などに関する情報がもっと身近に感じられるようになるためには、どのような媒体を使うことが効果的だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

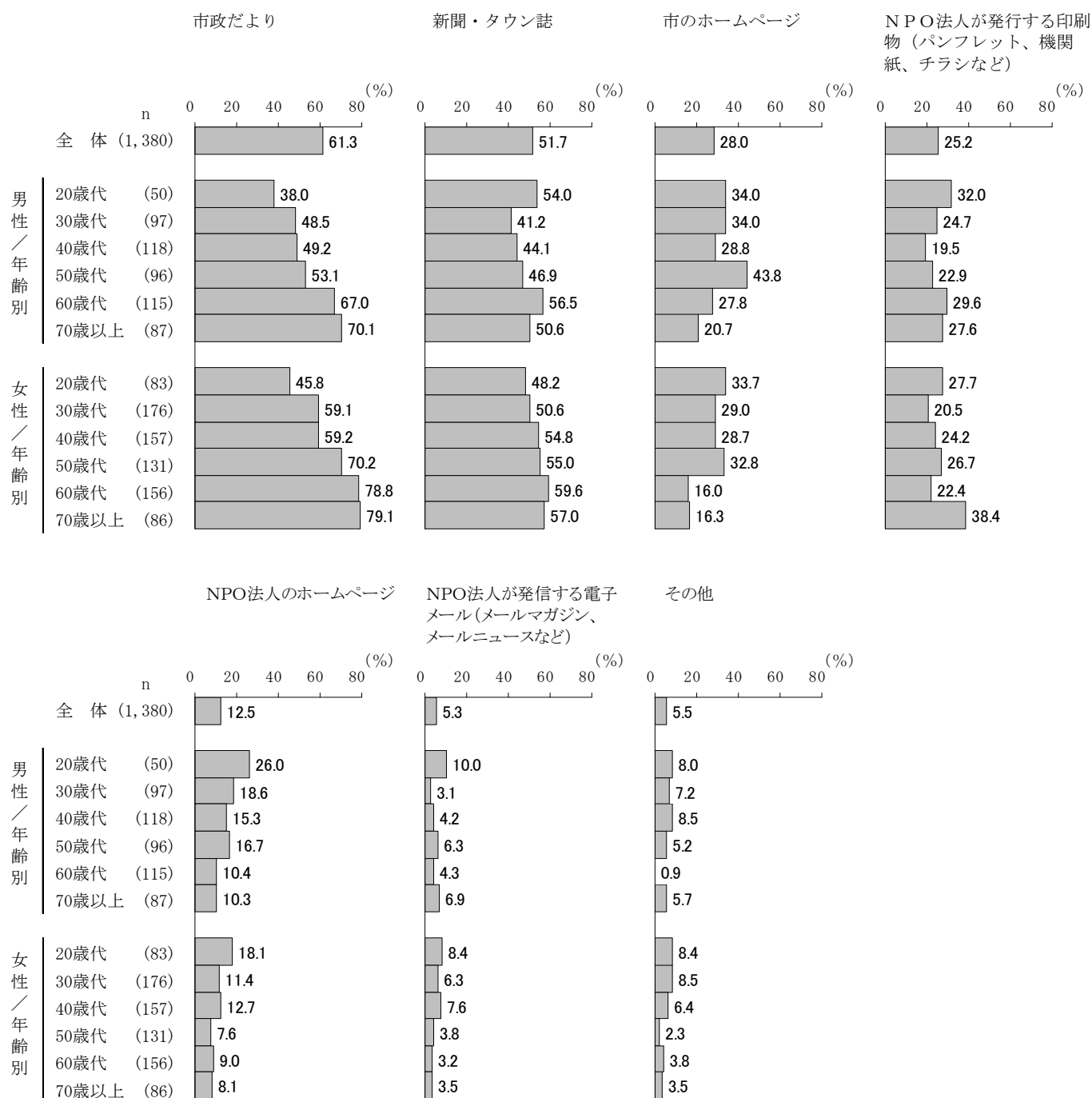
図表5-3 NPO法人に関する情報提供に効果的だと思う媒体

(複数回答) n = (1,380)



NPO法人に関する情報提供に効果的だと思う媒体は、「市政だより」(61.3%)が6割を超え最も多く、次いで「新聞・タウン誌」(51.7%)が5割台、「市のホームページ」(28.0%)が2割台後半と、電子媒体より紙媒体による情報提供を効果的としている回答が多くなっている。また、NPO法人による情報提供についても、「NPO法人が発行する印刷物(パンフレット、機関紙、チラシなど)」(25.2%)、「NPO法人のホームページ」(12.5%)、「NPO法人が発信する電子メール(メールマガジン、メールニュースなど)」(5.3%)の順となっており、紙媒体を効果的とする傾向となっている。(図表5-3)

図表5-4 NPO法人に関する情報提供に効果的だと思う媒体(性/年齢別)



性/年齢別では、「市政だより」は、すべての年代で男性より女性の方が多く、また年齢が上がるほど割合が多くなる傾向となっている。「新聞・タウン誌」は、属性による差異は小さいものの、男女ともに60歳代が最も多くなっている。「市のホームページ」は、男性50歳代(43.8%)が唯一4割を超え最も多くなっている。(図表5-4)

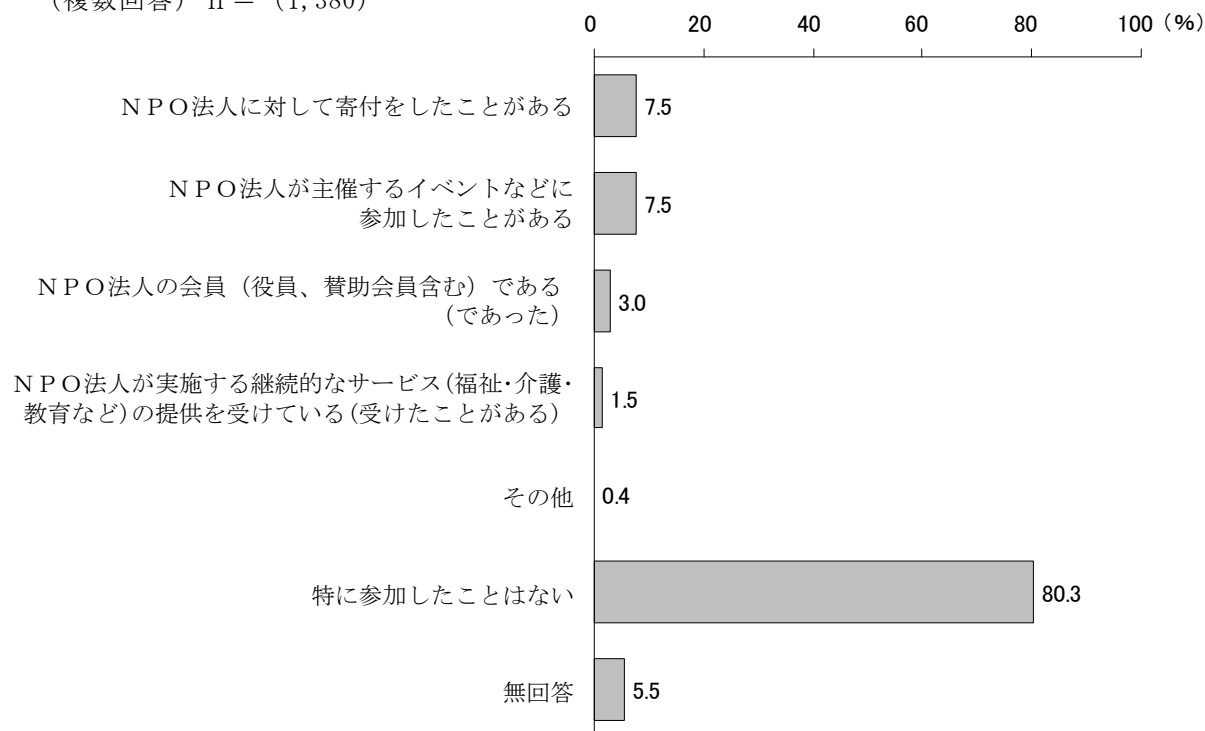
5-3 NPO法人の活動への参加経験

◎「特に参加したことはない」が80.3%

問25 あなたは、NPO法人の活動に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

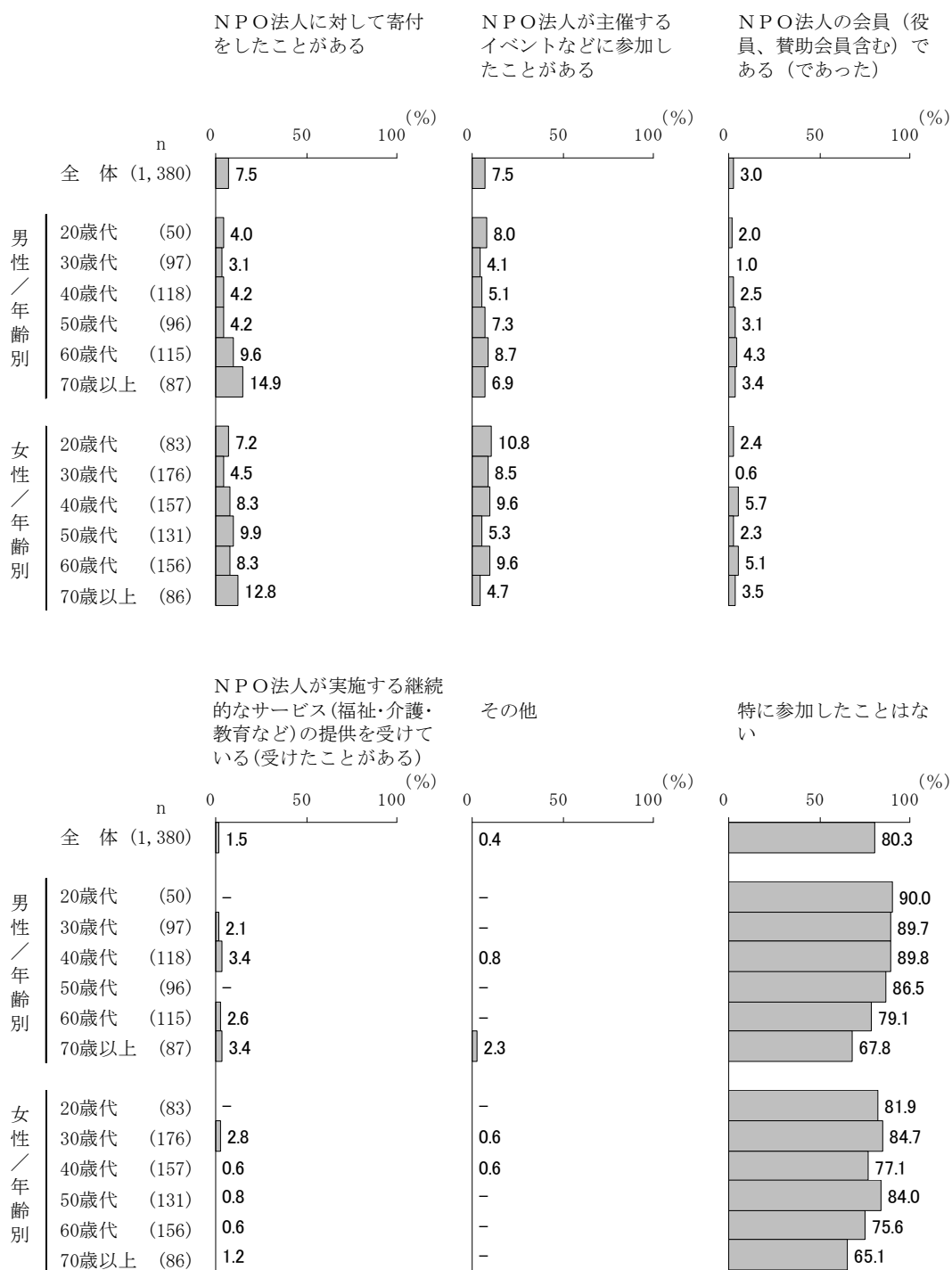
図表5-5 NPO法人の活動への参加経験

(複数回答) n = (1,380)



NPO法人の活動への参加経験については、「特に参加したことはない」(80.3%)がほぼ8割となっている。個々の参加形態はすべて1割未満と少なく、「NPO法人に対して寄付をしたことがある」「NPO法人が主催するイベントなどに参加したことがある」はそれぞれ7.5%、「NPO法人の会員(役員、賛助会員含む)である(であった)」は3.0%、「NPO法人が実施する継続的なサービス(福祉・介護・教育など)の提供を受けている(受けたことがある)」は1.5%となっている。なお、何らかの参加経験がある人の割合は、1割半ばとなっている。(図表5-5)

図表5-6 NPO法人の活動への参加経験 (性/年齢別)



性/年齢別では、「特に参加したことはない」は、すべての年代で女性より男性の方が多くなっている。また、「NPO法人に対して寄付をしたことがある」は、男女ともに70歳以上が1割を超え最も多くなっている。(図表5-6)

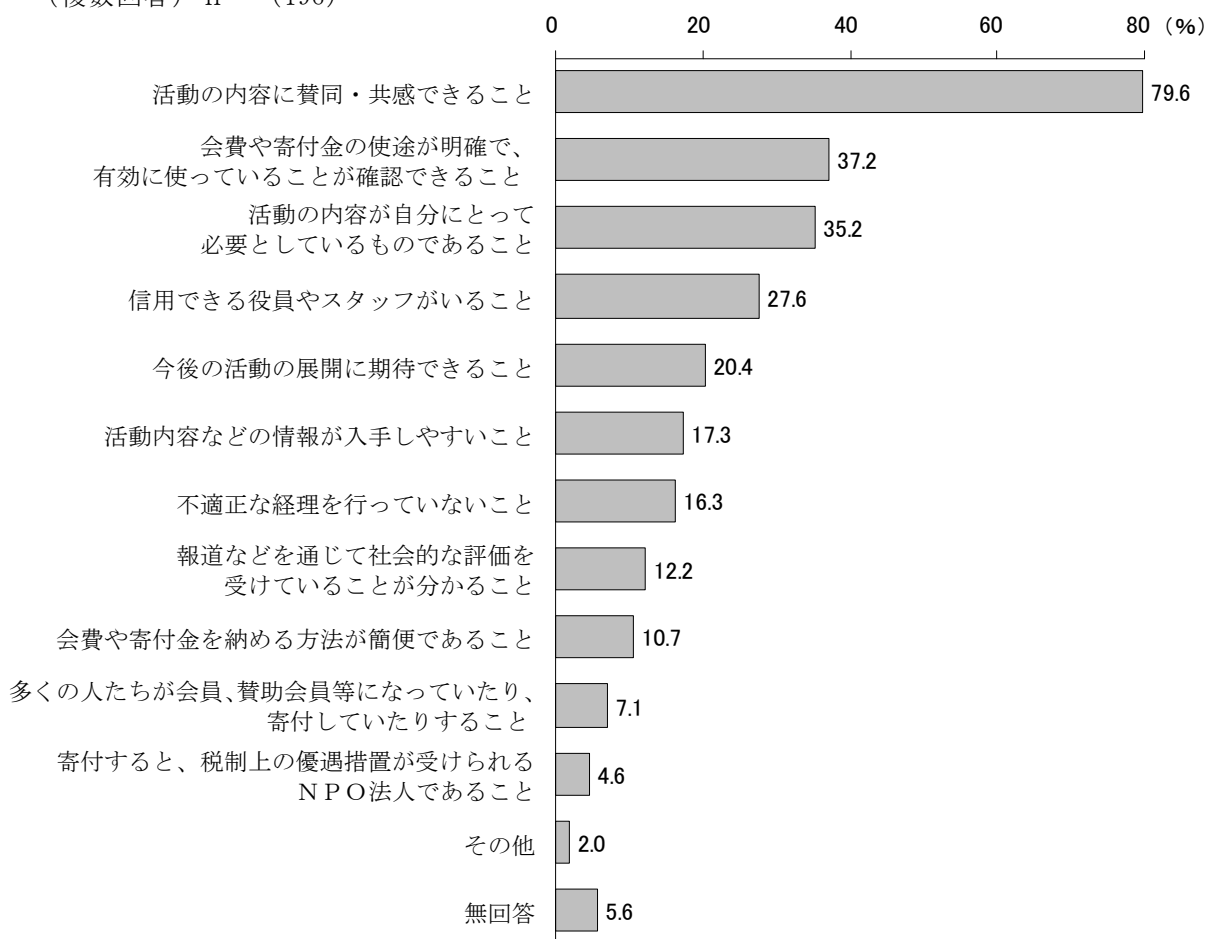
5-4 NPO法人の活動に参加する際に重視すること

◎「活動の内容に賛同・共感できること」が79.6%

問25-1 (問25で1~5を選んだ、NPO法人の活動に参加したことがある方にうかがいます。)
問25でお答えいただいたような、NPO法人の活動に参加する際に重視することは
何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

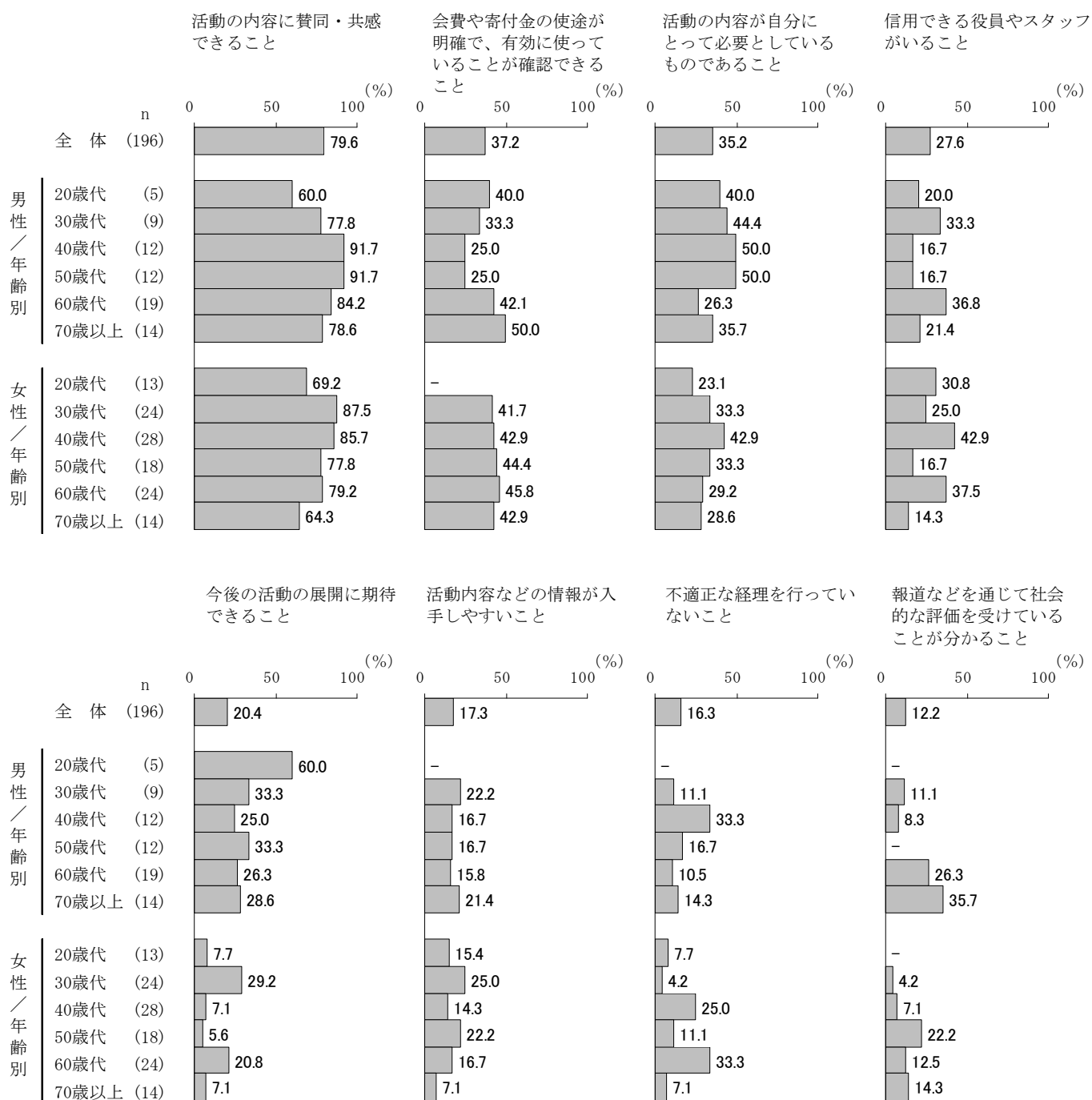
図表5-7 NPO法人の活動に参加する際に重視すること

(複数回答) n = (196)



NPO法人の活動に参加する際に重視することについては、「活動の内容に賛同・共感できること」(79.6%)がほぼ8割と最も多くなっている。次いで、「会費や寄付金の使途が明確で、有効に使っていることが確認できること」(37.2%)、「活動の内容が自分にとって必要としているものであること」(35.2%)、「信用できる役員やスタッフがいること」(27.6%)の順となっている。(図表5-7)

図表5-8 NPO法人の活動に参加する際に重視すること(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表5-8)

5-5 NPO法人の活動に参加したことがない理由

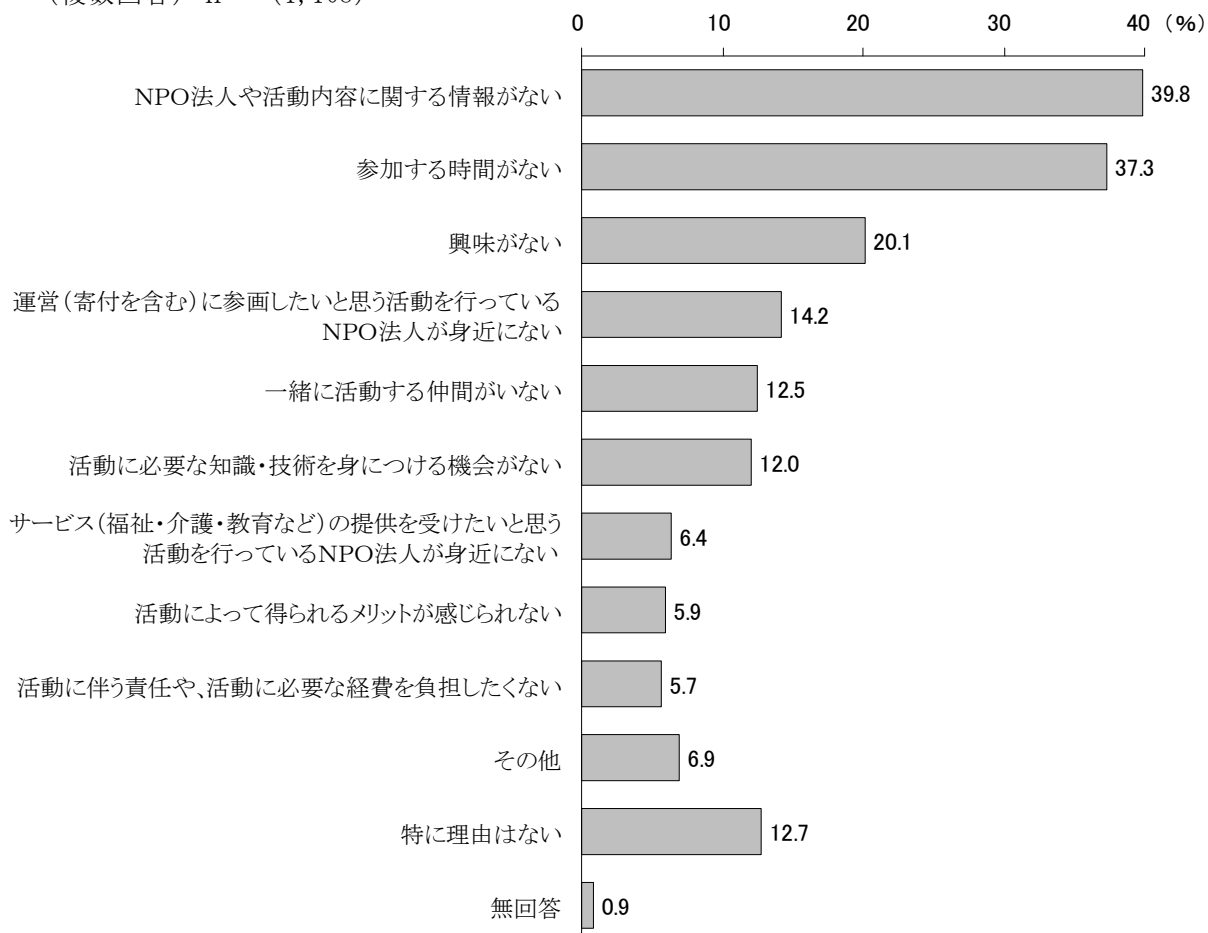
◎「NPO法人や活動内容に関する情報がない」が39.8%

問25-2 (問25で「6 特に参加したことはない」と回答した方にうかがいます。)

NPO法人の活動に参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

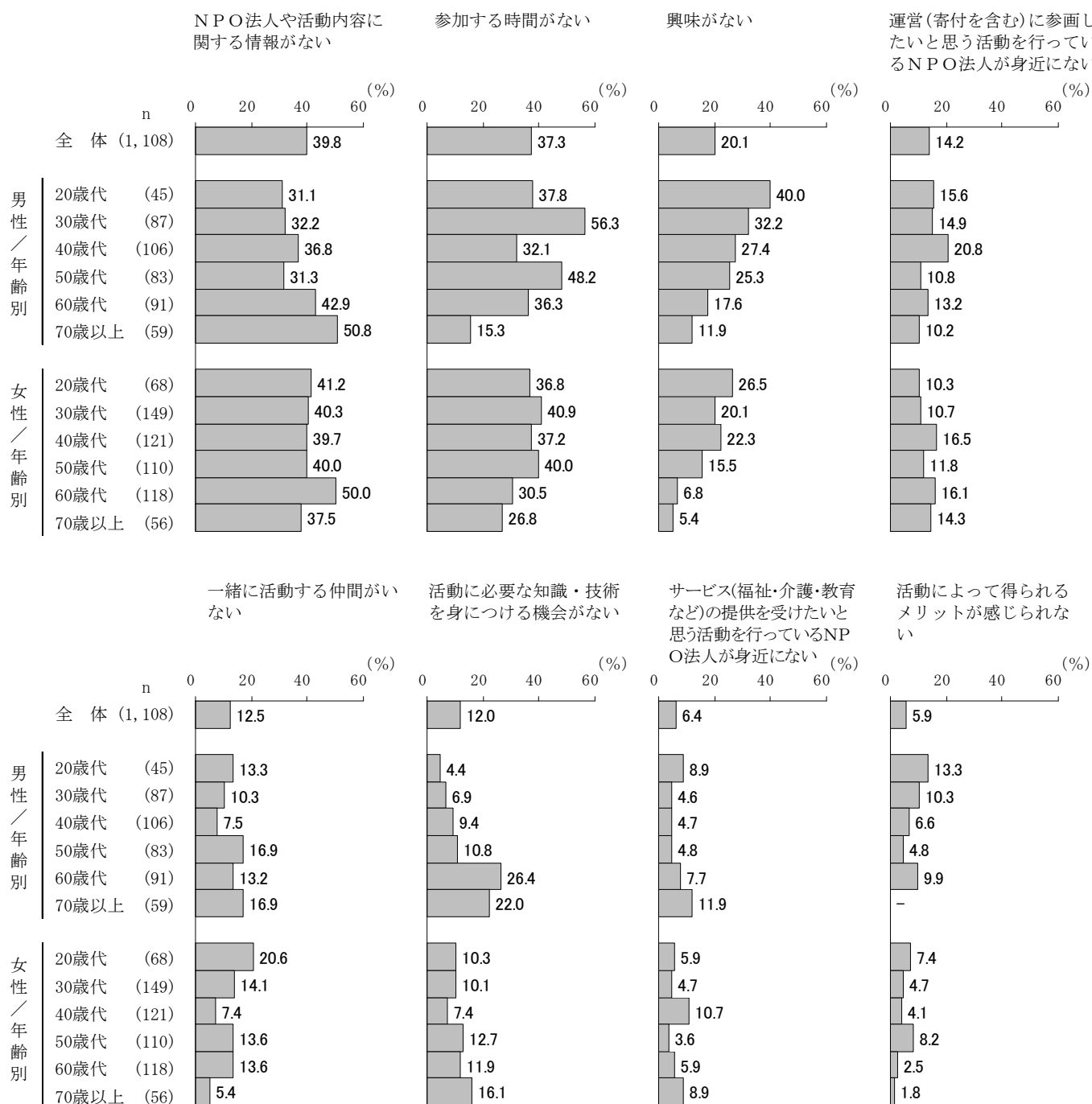
図表5-9 NPO法人の活動に参加したことがない理由

(複数回答) n = (1,108)



NPO法人の活動に参加したことがない理由は、「NPO法人や活動内容に関する情報がない」(39.8%)、「参加する時間がない」(37.3%)が3割台後半で多くなっている。次いで、「興味がない」(20.1%)、「運営(寄付を含む)に参画したいと思う活動を行っているNPO法人が身近にない」(14.2%)、「一緒に活動する仲間がいない」(12.5%)、「活動に必要な知識・技術を身につける機会がない」(12.0%)の順となっている。(図表5-9)

図表5-10 NPO法人の活動に参加したことがない理由(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「NPO法人や活動内容に関する情報がない」は、男性では70歳以上(50.8%)、女性では60歳代(50.0%)が最も多くなっている。「参加する時間がない」は、男性30歳代(56.3%)が唯一5割を超え最も多くなっている。「興味がない」は、すべての年代で女性より男性の方が多く、男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が少なくなる傾向となっている。(図表5-10)

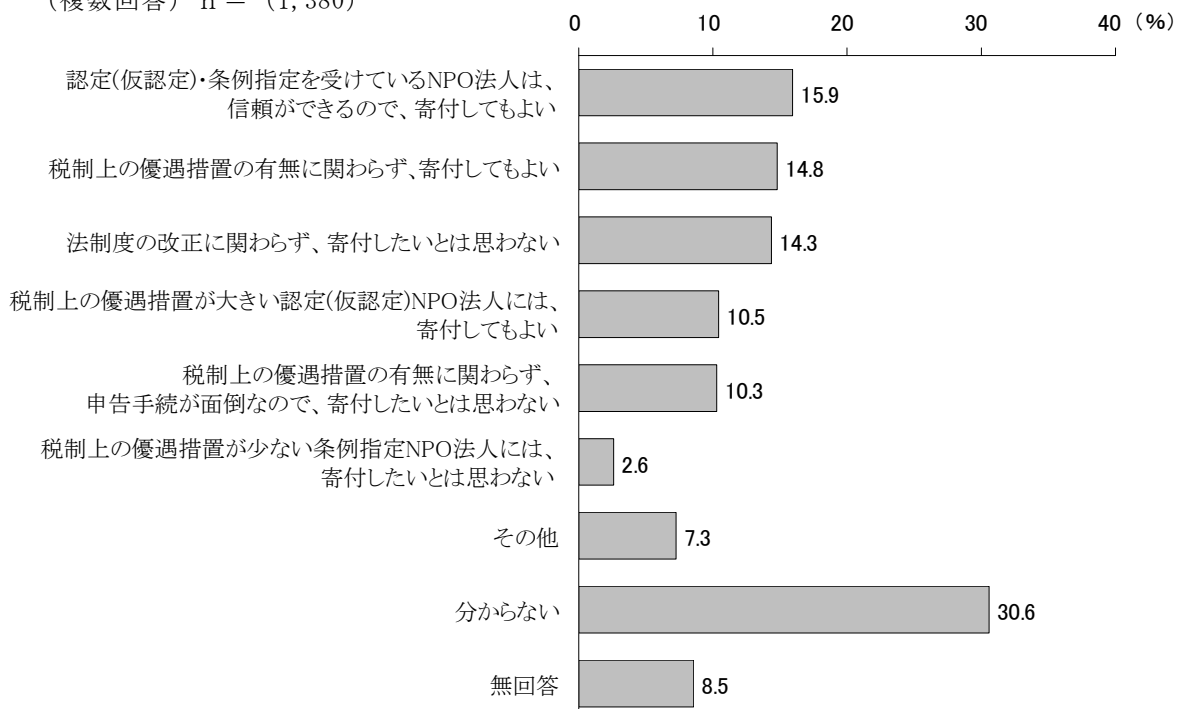
5-6 NPO法人に対する寄付について

◎「認定(仮認定)・条例指定を受けているNPO法人は、信頼ができるので、寄付してもよい」が15.9%

問26 前述(前ページ参照)のとおり、活動内容などに共感できるNPO法人へ個人・企業が寄付をしやすい環境を整備し、NPO法人の活動を支援するため、認定(仮認定)・条例指定NPO法人に寄付をすると税制上の優遇措置が受けられる制度が充実しました。
あなたは、NPO法人に対する寄付についてどのように思いますか。(あてはまるものすべてに○)

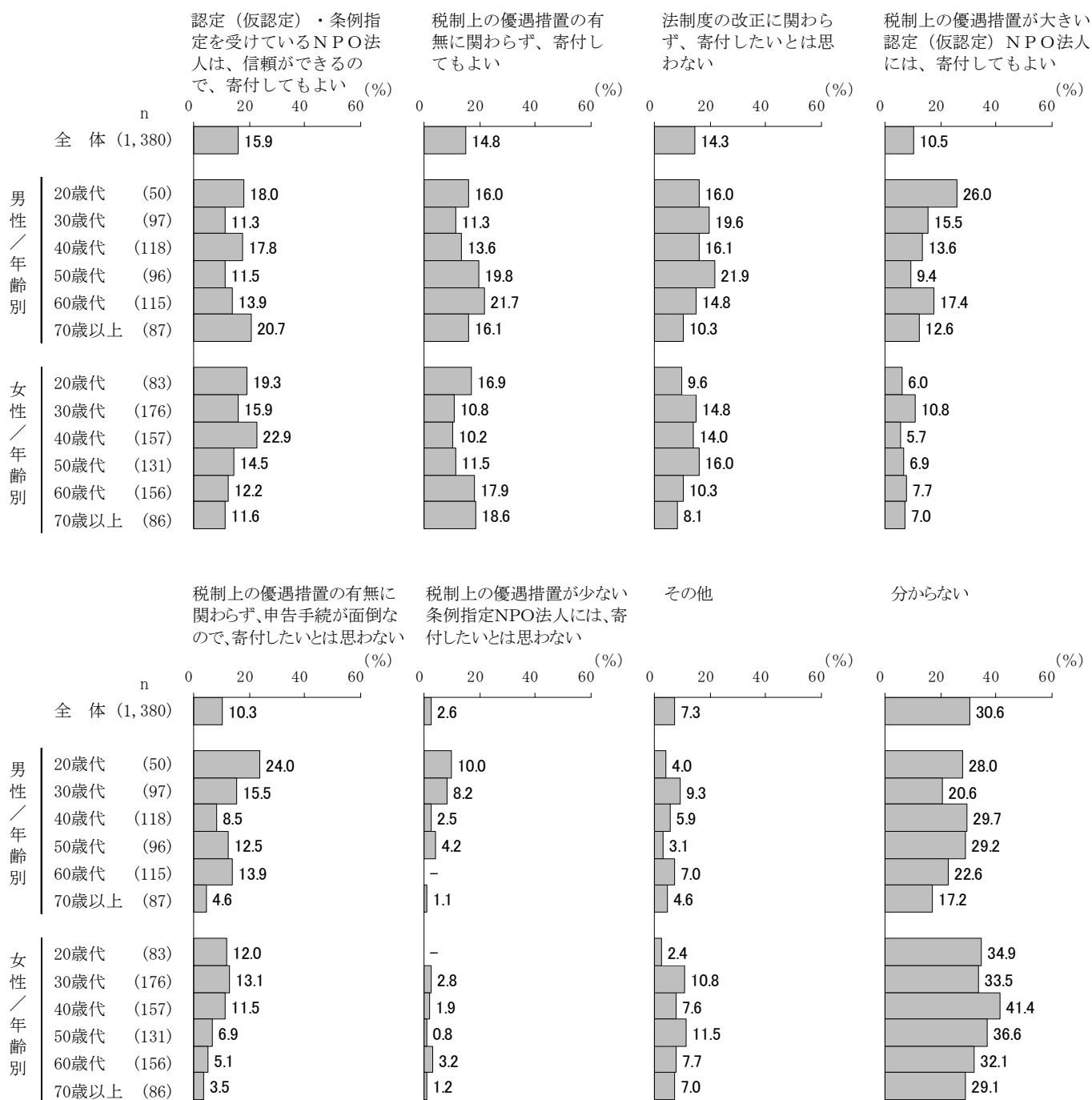
図表5-11 NPO法人に対する寄付について

(複数回答) n = (1,380)



NPO法人に対する寄付については、「認定(仮認定)・条例指定を受けているNPO法人は、信頼ができるので、寄付してもよい」(15.9%)、「税制上の優遇措置の有無に関わらず、寄付してもよい」(14.8%)、「法制度の改正に関わらず、寄付したいとは思わない」(14.3%)がそれぞれ1割台半ばとなっている。以下、「税制上の優遇措置が大きい認定(仮認定)NPO法人には、寄付してもよい」(10.5%)、「税制上の優遇措置の有無に関わらず、申告手続きが面倒なので、寄付したいとは思わない」(10.3%)がほぼ1割で続いている。また、「分からない」(30.6%)は、ほぼ3割となっている。(図表5-11)

図表5-12 NPO法人に対する寄付について(性/年齢別)



性/年齢別では、「認定(仮認定)・条例指定を受けているNPO法人は、信頼ができるので、寄付してもよい」は、男性では70歳以上(20.7%)、女性では40歳代(22.9%)が2割を超え最も多くなっている。「法制度の改正に関わらず、寄付したいとは思わない」と「税制上の優遇措置が大きい認定(仮認定)NPO法人には、寄付してもよい」の相反する項目について、すべての年代で女性より男性の方が多くなっている。(図表5-12)

5-7 寄付先を見つけたり、寄付する際に効果的だと思う手法

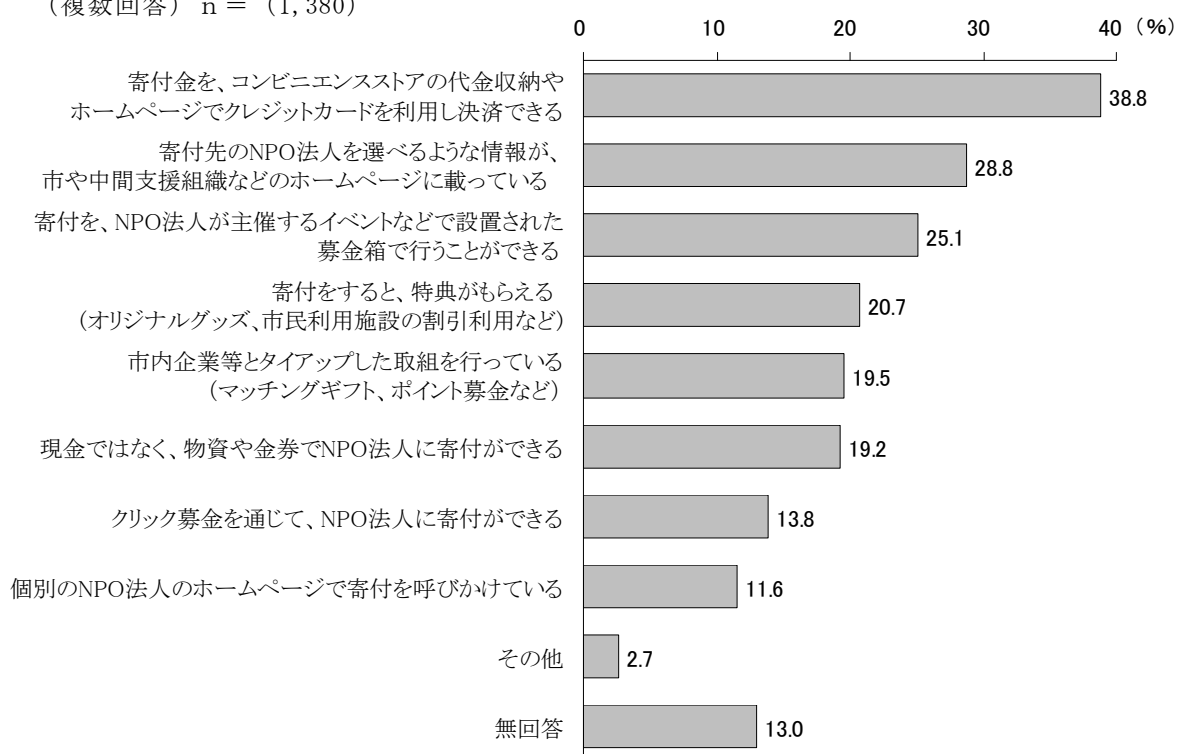
◎「寄付金を、コンビニエンスストアの代金収納やホームページでクレジットカードを利用し決済できる」が38.8%

問27 あなたが、活動内容などに共感できるNPO法人を探し、寄付などによってNPO法人の活動を支援したいと考えていると仮定します。

その場合、具体的な寄付先を見つけたり、実際に寄付を行ったりする際に効果的だと思う手法は、次のうちどれですか。(あてはまるもの3つまでに○)

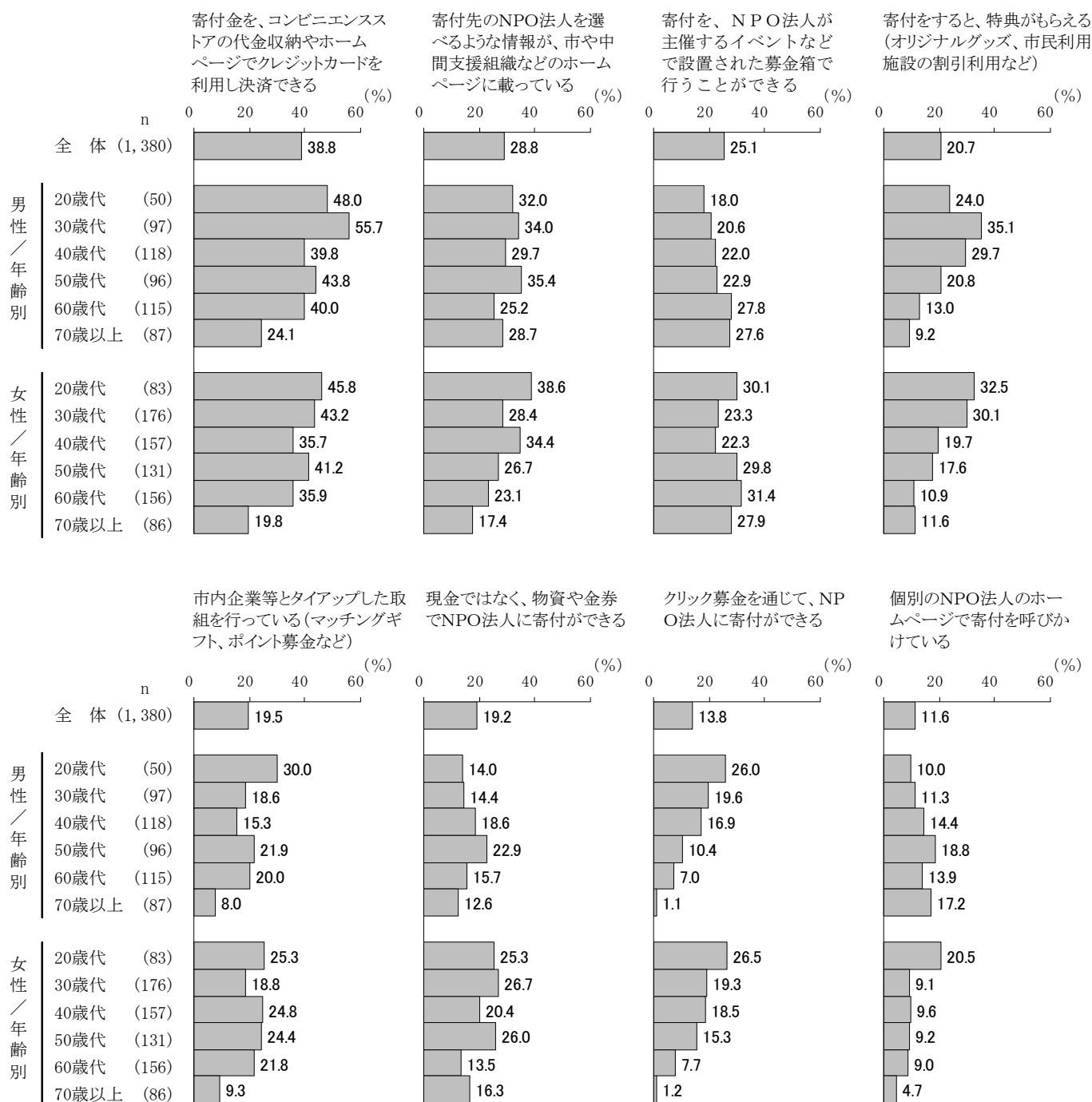
図表5-13 寄付先を見つけたり、寄付する際に効果的だと思う手法

(複数回答) n = (1,380)



寄付先を見つけたり、寄付する際に効果的だと思う手法については、「寄付金を、コンビニエンスストアの代金収納やホームページでクレジットカードを利用し決済できる」(38.8%)が3割台後半と最も多くなっている。次いで、「寄付先のNPO法人を選べるような情報が、市や中間支援組織などのホームページに載っている」(28.8%)、「寄付を、NPO法人が主催するイベントなどで設置された募金箱で行うことができる」(25.1%)の順となっている。(図表5-13)

図表5-14 寄付先を見つけたり、寄付する際に効果的だと思う手法（性／年齢別、上位8項目）



性／年齢別では、効果的だと思う手法に比較的差異が大きい傾向となっている。「寄付金を、コンビニエンスストアの代金収納やホームページでクレジットカードを利用し決済できる」は、男性では30歳代(55.7%)、女性では20歳代(45.8%)が最も多くなっている。「寄付を、NPO法人が主催するイベントなどで設置された募金箱で行うことができる」は、男性では60歳代・70歳以上、女性では20歳代・50歳代～70歳以上が2割後半から3割台と多くなっている。「寄付をすると、特典がもらえる」は、男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が少なくなる傾向となっている。(図表5-14)

(第1回アンケート)